構造特記仕様書（施工方法等計画書、使用材料一覧表を兼ねる）

1 共通事項

- 図面及び本仕様書に記載されていない事項は、
  「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修、最新版）
  による。
- 項目番号に ○ 印を付した項目を適用範囲とし、さらに、その項目内で ○ 印の付いているものは
  ● 印を適用とする。
- 設計図書の優先順位は次の通りとする。
  1. 質疑回答書、現場指示書
  2. 設計図及び本特記仕様書
  3. 「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」
- 各工事前に施工要領書、計画書を提出し、不明事項に関しては監理者と十分に打合せを行うこと。

2 土工事

① 根切り及び埋戻し

- 埋戻し及び盛土　● A種（山砂の類）
  ● B種（根切り土の中の良質土）
  ○ C種（他現場の建設発生土の中の良質土）
  ○ D種（再生コンクリート砂）
- 建設発生土の処理　● 構内処理
  ● 構外搬出　搬出場所：

② 山留め

- 山留めの設置　● 親杭横矢板壁
  ○ 鋼矢板壁（シートパイル）、鋼管矢板壁
  ○ 柱列山留め壁
  ○ 連続地中壁
  ○ その他　（　）
- 山留めの撤去　○ 存置する
  ● 存置しない
- 確認・検査項目　● 山留め工事施工計画書（計算書を含む）

3 地業工事

① 直接基礎

- 基礎の形式　● 独立基礎　○ 布基礎　○ べた基礎
- 支持層及び長期許容支持力度　砂層　400 (kN/m²)
- 地盤改良工事
  - 工 法　○ 浅層混合工法　セメント系固化材添加量　—　(kg/m³)
    ○ 深層混合工法
    ○ ラップル・コンクリート
  - 改良深さ
  - 品質管理　「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針（日本建築センター）」に準拠すること
  - 設計基準強度
- 確認・検査項目　● 床付け検査　（支持層の砂層を確認する）
  ○ 地盤調査　[調査名　　試験箇所数　　]
  ● 平板載荷試験　[試験箇所数　1箇所　最大荷重　1,200 kN/m²　]

2. 杭基礎

- 杭の寸法、継手箇所、支持層及び許容支持力は図面による。
- 杭の支持力算定は、平成13年7月2日国土交通省告示第1113号による。
- 杭の施工後の処理　○ 杭芯ずれの許容値　±100(mm)
  ○ 杭頭レベルずれの許容値　±30(mm)
  ○ 許容値を超えた場合は監理者の指示による補強を行う。
- 確認・検査項目　○ 杭芯ずれ報告書
  ○ 施工結果報告書
  ○ 試験杭　[○ 最初の1本　○ 図面に指示]
  ○ 試験掘り　深さ　G.L.-(m)　本数　(本)
  ○ 杭頭補強　杭頭補強の施工要領は図面による。

3. 既製杭

- 杭の種類　○ PHC杭　[○ A 種　○ B 種　○ C 種]
  ○ PRC杭　[種別は杭リストによる]
  ○ ST杭
  ○ SC杭　鋼材種別
  ○ 鋼管杭　鋼材種別　—
- 杭の施工方法
  - 打込み工法　○ プレボーリング併用打撃工法　○ 打撃工法
    - ハンマー種別　○ ディーゼルハンマー　○ 油圧式ハンマー
    - オーガー径　杭径 - 50(mm)程度
    - プレボーリング長　本杭長 - 2.0(m)
    - ベントナイト安定液　使用 [○ する　○ しない]
  - 埋込み工法　○ セメントミルク工法　○ 中掘り工法　○ 回転圧入工法
    ○ プレボーリング拡大根固め工法（認定工法）
  - 杭の形状
    - 先端形状　○ 閉塞型　○ 閉塞型
    - 継手　○ なし　○ あり [○ アーク溶接　○ その他（無溶接継手）]
    - 杭頭部の処理　○ ダイヤモンドカッターにより所定の高さに切り揃える。
      ○ 杭頭部の空洞に底板を敷き、基礎コンクリートの流入を避ける。

4. 場所打ちコンクリート杭

- 杭の種類　○ A 種（無水掘り）　○ B 種（無水掘り以外）
- 杭の施工方法　特殊工法の場合は監理者の承諾を得ること。
  - 掘削工法　○ アースドリル工法　○ BH工法
    ○ オールケーシング工法　○ 拡底杭工法
    ○ リバースサーキュレーション工法　○ 深礎工法
  - 特殊工法　○ 拡頭杭工法　○ 鋼管コンクリート杭工法

⑤ 砂利、捨てコンクリート地業

- 砂利の種類　● 再生クラッシャラン（RC-40）
  ○ 切込み砂利
  ○ 切込み砕石
- 砂利及び捨てコンクリート地業の厚さは以下の通りとする。

適用範囲	砂利地業	捨てコンクリート地業
基礎梁下	60(mm)	50(mm)
基礎スラブ下	60(mm)	50(mm)
土間スラブ下	60(mm)	—

4 鉄筋工事

① 鉄筋の種類、継手工法及び定着

- 鉄筋は JIS G3112（鉄筋コンクリート用棒鋼）による規格品とする。
- 溶接金網は JIS G3551（溶接金網及び鉄筋格子）による規格品とする。
  寸法、形状及び鉄線の径は図面による。
- 鉄筋の種類と適用範囲及び継手工法は下表による。

種 類	呼び径	継手工法	適用範囲
SD295A	D10～D16	重ね継手	躯体全般
SD345	D19～D25	ガス圧接継手	躯体全般
SD390	D29～D32	—	—
SD490	D29～D35	—	—

- 特殊継手・定着工法を用いる場合は認定工法、建築性能証明等を取得したものとする
- 機械式継手・定着
  ○ 機械式継手・溶接継手（A級以上）
  ネジテツコングラウト継手（エースジョイント、エポックジョイント）：BCJ-RC0021-04
  フリージョイント工法：BCJ-RC0112-03　もしくは同等の性能を有する工法
  ○ 機械式定着
  プレートナット工法(BCJ-RC0152-07)
  もしくは同等の性能を有する工法
- 継手位置及び定着長さは鉄筋コンクリート標準図による。特殊継手の場合はその認定内容に準じる。

② 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔

- かぶり厚さ及び間隔は鉄筋コンクリート標準図による。
- HOOP、STP の加工に用いるかぶり厚さは、5(mm)を加えた数値を標準とする。
- スペーサーは見本を提出して監理者の承諾を得ること。
- スラブ筋に対しては鋼製バースペーサーを用いる。

③ ガス圧接

- ● ガス圧接工は、JIS Z3881 による 2 種有資格者以上によること。
- ○ 圧接技量資格者の技量確認試験を行う。
- ● ガス圧接完了後の試験
  - ● 外観検査　100(%)
  - ● 抜取り検査　一試験ロットは一組の作業班が一日に行った圧接箇所
    ○ 引張試験　3 本 / 一試験ロット
    ● 超音波探傷試験　30 箇所 / 一試験ロット
    - 超音波探傷試験は JIS Z3062 により、専用の探傷機器を使用する。
    - 試験従業者はガス圧接工事に従事しない者とし、鉄筋ガス圧接部超音波探傷検査技術者技量資格を有する者とする。
    - 超音波探傷試験を行う場合も最初の1ロットについては引張試験も併用すること。1回の試験は3本以上とする。

④ 設備配管との取合い、梁貫通孔の補強

- ● 設備配管と鉄筋の取り合いについては、設備施工者と十分に協議すること。
  床スラブの電気配管については鉄筋コンクリート標準図を参考にして施工図書を作成し、提出のこと。
- ● 梁貫通孔の補強筋に、建築技術評価規定に基づく評価又は日本建築センター評定を受けたものを用いる場合、監理者の承諾を必要とする。

⑤ 確認・検査項目

- 書類確認　● 材料証明
  ● 鉄筋加工図　標準的な納まりを除き、特殊部分を対象とする
  ● ガス圧接技取り試験結果
- 立会い検査　● 配筋検査
  - 監理者による配筋検査前に施工者による自主検査を実施し、報告する。
    配筋検査による是正事項は施工者の責任で是正し、写真記録を取ること。

5 コンクリート工事

① コンクリートの種類、強度及びスランプ

● 普通コンクリート　○ 軽量コンクリート（嵩上げコン、均しコン）

	設計基準強度	スランプ	使用範囲
●	18(N/mm²)	15(cm)	捨てコン、土間スラブ、ラップルコン
○	21(N/mm²)	15(cm)	
●		18(cm)	2階床
○	30(N/mm²)	15(cm)	
●		18(cm)	基礎、基礎梁～1階床

- レディーミクストコンクリートの種別　[● Ⅰ類　○ Ⅱ類]

② コンクリートの品質

- コンクリート部材の位置及び断面寸法の許容差並びにその測定方法を施工計画書の品質計画において定め、監理者の承諾を得る。
- コンクリート表面の仕上り状態
  ● 合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げの種別　[● A 種　○ B 種　○ C 種]
  ● コンクリートの仕上り平坦さを施工計画書の品質計画において定め、監理者の承諾を得る。

③ 材料

- セメント

	規 格	名 称	種 別	適用範囲
●	JIS R5210	ポルトランドセメント	普 通	躯体全般
○	JIS R5211	高炉セメント	○ A種　○ B種	—
○	JIS R5212	シリカセメント	○ A種　○ B種	—
○	JIS R5213	フライアッシュセメント	○ A種　○ B種	—

- 混和材料

	種 類	規 格	名 称	種 別	適用範囲
○	混和剤	JIS A6204	AE剤	—	—
○			減水剤	○ 標準形 ○ 遅延形 ○ 促進形	—
○			AE減水剤	○ 標準形 ○ 遅延形 ○ 促進形	—
●			高性能AE減水剤	● 標準形 ○ 遅延形	躯体全般
○		JASS 5T-402	流動化剤	○ 標準形 ○ 遅延形	—
○		JIS A6205	防錆剤	—	—

- 練混ぜ水　- 練混ぜ水は JISA5308（レディーミクストコンクリート）附属書3（規定）による。
- 骨材　- 砂利、砂は JISA5308（レディーミクストコンクリート）による。
  - アルカリシリカ反応性による区分　[● A　○ B]
  - JIS A 1129による試験で求められる骨材の乾燥収縮率は、700μ以下とする。
- その他　- 床面積が大きいので、ひび割れに配慮した配合計画（膨張材等）とする

④ 調合及び試験

- 調合管理強度
  ● 設計基準強度に構造体強度補正値を加えた値以上とする。
- 調合条件

単位水量	単位セメント量	水セメント比	所要空気量
175(kg/m³)以下	270(kg/m³)以上	60(%)以下	4.5(%)

- 塩化物量試験
  - 試験回数は製造工場及びコンクリートの種類が異なるごとに、一日一回以上かつ、150(㎥)ごと及びその端数につき一回以上とする。最初の測定は打込み当初とする。
- 圧縮強度試験

試験種目		試験の目的	養生方法	材齢	試験回数
調合管理強度の管理試験	●	調合管理強度の管理	JIS A 1132による標準養生	28日	(※1)による
構造体コンクリート強度の推定試験	●	構造体コンクリートの材齢28日圧縮強度の推定	工事現場における水中養生		
	●	型枠取り外し時期の決定		必要に応じて定める。	
	○	構造体コンクリートの材齢28日を超え91日以内の圧縮強度の推定	工事現場における封かん養生	28日を超え91日以内	(※1)による

- 試験回数は製造工場及びコンクリートの種類が異なるごとに一日一回以上かつ、150(㎥)ごと及びその端数につき一回以上とする。(※1)
- 強度試験は原則として、公的試験機関で行う。ただし、型枠脱型用試験は生コン会社でもよい。
- 供試体の個数は、適切に間隔をあけた運搬車から 3度に分けて、試験目的ごとに3個採取する。
  ただし、調合管理強度の管理試験用は一台の運搬車から3個採取する。

⑤ 養生（建築基準法施行令第75条による）

- 打込み後5日間以上は、コンクリート温度を2℃以上に保つ。
- 打込み後のコンクリートは、普通ポルトランドセメント又は混合セメントA種の場合は5日以上、高炉セメントB種の場合は7日間以上、散水その他の方法で湿潤状態を保つ。
- 硬化初期のコンクリートが、有害な振動や外力による悪影響を受けないようにする。

⑥ 型枠及び支保工（建築基準法施行令第76条による）

- せき板の材料は複合合板とし、「コンクリート型枠用合板の日本農林規格」によるB-C 又は所要の品質を確保できるものとする。
- せき板及び支保工の存置期間は、部位及びセメントの種類、気温に応じて、次表（A）の存置日数以上が経過するか、（B）の圧縮強度以上となるまでとする。
  （B）の圧縮強度による場合、監理者に圧縮強度試験結果を提出の上、承諾を得ること。

	部 位	(A)平均気温に応じた存置日数			(B)コンクリートの圧縮強度
		15(℃)以上	5～15(℃)	5(℃)未満	
型 枠	基礎、梁側面、柱、壁	3	5	8	5(N/mm²)
	スラブ下、梁下	6	10	16	Fc の 50(%)
支保工	スラブ下	17	25	28	Fc の 100(%)
	梁 下	28			Fc の 100(%)

- 支保工の盛りかえは下記に従う。
  ● 大梁の支保工の盛りかえは行わない。
  ● 直上階に著しく大きい積載荷重が存在する場合は、支保工の盛りかえは行わない。
  ● 支保工の盛りかえは、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらす可能性のある振動や衝撃を与えないようにする。
  ● 支保工の盛りかえは逐次行い、同時に多数の支保工について行なわない。

7. 特殊コンクリート

○ 寒中コンクリート　適用期間：
○ マスコンクリート　適用箇所：
○ プレストレストコンクリート

⑧ 確認・検査項目

- 書類確認　● 生コン調合表及び材料試験結果
  ● 圧縮強度試験結果
- 立会い検査　○ 試験練り
  ● 型枠撤去後の躯体検査
  - 打込み不足、じゃんか、目違い等の有害な不良部分が認められた場合、監理者の指示により、施工者の責任で補修を行う。

6 鉄骨工事

① 鉄骨製作

- ● 鉄骨製作工場は使用数量に応じて定める。いずれの場合においても、監理者の承諾を得ること。
  - 使用量が 30(t)を超える場合は国土交通大臣認定（（株）日本鉄骨評価センター又は（社）全国鉄構工業協会の認定）の工場とし、グレードは下記とする。
    [○ S グレード　● H グレード　● M グレード　○ R グレード]
  - 使用量が 30(t)未満の場合は、選定した鉄骨製作工場の施工実績、作業管理組織、工作設備等を記載した資料を提出の上、承諾を受けること。
- ● 監理者が承諾した工場とする。
- ● 全ての部材について1/20程度の詳細図を作成する。詳細図には仕上げ材取り付け金物、仮設用金物などを含めて表現すること。
- ● 鉄骨の製作精度は JASS6 鉄骨工事付則 6.「鉄骨精度検査基準」による。

② 鋼材種別

	規 格	種 別	適用範囲
●	JIS G3101	SS400	小梁、ブレース、二次部材
○	JIS G3136	SN400A	
●		SN400B	大梁
●		SN490B	大梁、ベースプレート
○		SN490C	ダイアフラム
●	JIS G3350	SSC400	二次部材
○	JIS G3444	STKN400B	
○		STKN490	
●	JIS G3466	STKR400	水平ブレース
○		STKR490	
○	その他（法37条に基づく認定品）		
○			

③ ボルト

- ● 高力ボルト　● S10T（トルシア形ボルト：JIS B1186 の 2 種相当）　認定品　MBLT-9010など
  ● F10T（JIS形ボルト：JIS B1186 の 2 種）
  ● F8T（溶融亜鉛めっき高力ボルト：JIS B1186 の 1 種 A）認定品　MBTL-9026など
- ● 普通ボルト　ボルトは JIS B1180、ナットは JIS B1181 認定品とする。
- 摩擦面の処理の方法は標準仕様書による。
- 溶融亜鉛めっき高力ボルトで、ボルトの長さが呼び径の 5 倍を超える場合のナット回転量は、実験により決定する。

④ アンカーボルト

- ● 構造用　- JIS G3138 による認定品の SNR400B (ABR400) とする。
  - 保持及び埋込み工法　[○ A 種　● B 種　○ C 種]
- ● 建方用　- JIS G3101 による認定品の SS400 とする。
  - 保持及び埋込み工法　[○ 図面による]
- 柱底均しモルタル [● A 種　○ B 種]

⑤ 頭付きスタッド及びデッキプレート

- ● 頭付きスタッド　- JIS B1198 認定品とする。
- ○ デッキプレート　○ 構造床　JIS G3352 による SDP1T とする。
  ○ 合成スラブ　JIS G3352 による SDP1T とする。
  ○ 型枠用（鉄筋トラス付も可とする）　JIS G3352 による SDP1T 同等品とする。
- スタッド溶接部分には塗装を行わないこと。
- 合成スラブ用デッキプレートの溶接は焼抜き栓溶接とする。ただし、スタッドをデッキ上から溶接する場合は兼用してよい。

⑥ ターンバックル

- 胴の種類　[● 割枠式　● パイプ式（見え掛かりとなる部分）]
- ボルトの種類　[● 羽子板ボルト　○ アイボルト　○ 両ねじボルト]

⑦ 溶接部の検査

- ● 超音波探傷試験の規準は日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準」による。
- ● ずれ、食い違い、アンダーカットの外観検査規準は、平成12年建設省告示第1464号による。
- ● 完全溶込み溶接部（工場溶接）
  - 工場溶接の場合の検査方法、抜取り率は下表による。一試験ロットは一節又は 300 溶接線程度とする。ロットからの抜取りは均等となるように無作為に行う。

種 類	検査者及び検査率		
	社 内	第三者	監理者
外観検査	100(%)	30(%)	適宜
超音波探傷試験	100(%)	AOQL2.5% 第4水準	適宜

- ● 完全溶込み溶接部（工事現場溶接）
  - JIS Z9008（計数連続生産型抜取検査（不良個数の場合））に準じて行い、全ての完全溶込み溶接部を対象とする。
- ● その他の溶接部は外観検査とする。
- ○ マクロ試験
- ○ 浸透探傷試験（JIS Z2343）
- ● 第三者検査機関は CIW 認定を取得した機関とする。

⑧ 錆止め塗装

- ● 錆止め塗装を行わない範囲
  - 現場溶接を行う箇所に隣接する両側それぞれ 100(mm)以内、かつ、超音波探傷試験に支障をきたす範囲
  - 高力ボルト摩擦接合部の摩擦面
  - コンクリートに埋め込まれる部分及び接触する部分
  - 密閉となる内面
  - 外周部の柱・梁を除いた耐火被覆材を接着する部分
- ● 素地ごしらえ
  - 見え掛り　[○ A 種　○ B 種　● C 種]　- 見え隠れ　[○ A 種　○ B 種　● C 種]
- ● 塗料種別

	種 別	規 格	名 称	種 類	適用範囲
○	A 種	IIS K5622	鉛丹さび止めペイント	○ 1種　○ 2種	—
○		JIS K5623	亜酸化鉛さび止めペイント	○ 1種　○ 2種	—
○		JIS K5624	塩基性クロム酸鉛さび止めペイント	○ 1種　○ 2種	—
○		JIS K5625	シアナミド鉛さび止めペイント	○ 1種　○ 2種	—
●		JIS K5674	鉛・クロムフリーさび止めペイント	● 1種　○ 2種	—
○	B 種	JIS K5621	一般用さび止めペイント	○ 1種　○ 2種	—

- ● 塗装回数
  - 工場　2回　- 現場　0回

⑨ 溶融亜鉛めっき工法

- めっき付着量　550(g/m²)
- 適用箇所　外部露出する部分
- 素地ごしらえ　[● A 種　○ B 種　○ C 種]

⑩ 確認・検査項目

- 書類確認　● 製品自主検査記録　● 鋼材規格証明
- 立会い検査　● 原寸検査　○ 仮付け検査
  ● 仮組み検査　● 製品検査
  ● 建方検査　○ 本締め検査

7 その他

令第129条の2の4に関する事項

建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による

☑ 建築設備（昇降機を除く）、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとすること。

☑ 屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は建築物の構造耐力上主要な部分に緊結すること。

☑ 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支枠を設けたものを除き、90cm以下とすること。

☑ 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。

☑ 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備は、

☑ 風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。

☑ 建築物の部分を貫通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。

☑ 管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。

☑ 管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。

☑ 法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものにあっては、建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとすること。

☑ 給湯設備は、支持構造部及び緊結金物を腐食又は腐朽のおそれがないものとするほか、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。

			特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
				東秩父村新庁舎建設工事			構造	S-001
				図面名称 構造特記仕様書				

1 共通事項

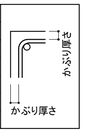
1. 鉄筋の表示記号

呼び名	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41
呼び径(d)	10	13	16	19	22	25	29	32	35	38	41
最外径(D1)	11	14	18	21	25	28	33	36	40	43	46
記　号	●	╳	⌀	●	○	◉	⊗	◎	⌖	⌖	⊠

2. 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔

(1) 鉄筋の最小かぶり厚さ

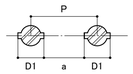
構造部位	最小かぶり厚さ	
	一般部 ()は屋外	土に接する部分
床スラブ、屋根スラブ、非耐力壁	30(40)(mm)	40(mm)
柱、梁、耐力壁、基礎梁	40(mm)	50(mm)
基礎、耐圧板	―	60(mm)
地下外壁、擁壁	40(mm)	60(mm)
煙　突	60(mm)	60(mm)



- 柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合、主筋のかぶり厚さが径の1.5倍以上となるように最小かぶり厚さを定める。
- 打増しコンクリートは、スラブは0(mm)，壁は0(mm)とする。
- 打増しコンクリートの厚さは、かぶり厚さには考慮しない。
- 杭基礎の場合、基礎フーチングの鉄筋のかぶり厚さは杭天端からとする。
- 貫通孔に接する鉄筋においても、かぶり厚さを確保すること。

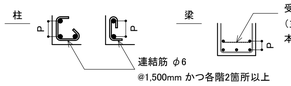
(2) 鉄筋の最小間隔とあき

- 鉄筋相互のあき a は下記のうち最大のものとする。
  - (イ) a = 25(mm)
  - (ロ) a = 1.25×粗骨材最大寸法
  - (ハ) a = 1.5×d(鉄筋の呼び径)



粗骨材の最大寸法	あきの最小値(mm)								
	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35
20(mm)	25			29	33	38	44	48	53
25(mm)	31								

- 鉄筋の間隔　P = a + D1(鉄筋の最外径)
- 柱及び梁の主筋が二段筋以上の場合、下図により鉄筋相互のあきを確保する。

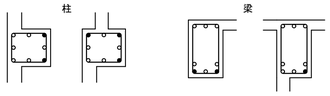


3. 鉄筋の折曲げ基準

(1) フック形状(末端部)

折曲げ角度	詳細 余長	折曲げ内法直径(D) SD295A、SD345 D16以下	SD295A、SD345 D19～D38	SD390 D19～D38	使用箇所
180°	≧4d	3d 以上	4d 以上	5d 以上	・柱、梁の出隅部分の重ね継手 ・柱の四隅の柱頭 ・煙突の主筋 ・杭基礎のベース筋
135°	12d	3d 以上	4d 以上	5d 以上	・フープ及びスターラップ ・スパイラル筋 ・壁筋末端部に使用する D10 及び D13 ・幅止め筋
90°	8d	3d 以上	4d 以上	5d 以上	・T形、L形梁のスターラップに用いるキャップタイ ・スラブ筋、壁筋の末端部 ・幅止め筋

- 柱、梁の出隅部分とは、下図の●印の主筋とする。



(2) ベンド形状(中間部)

折曲げ角度	詳細	折曲げ内法直径(D) SD295A、SD345、SD390 D16以下	D19～D25	D29～D38	使用箇所
90° 以下		3d 以上	4d 以上	―	・フープ及びスターラップ ・スパイラル筋
		4d 以上 (5d 以上)	6d 以上	8d 以上	・その他の鉄筋 (スラブ筋、壁筋等)

- SD390は、使用箇所がその他の鉄筋の場合に( )内を適用する。

4. 継手及び定着

(1) 継手及び定着基準

方法		詳細	使用箇所
重ね継手(*1)	フック有り	L1 L1 ≧0.5L1h　L1 L1	D16以下の鉄筋
	フック無し	L1 L1 ≧0.5L1　L1 0.5L1	
ガス圧接継手		≧400mm　圧接面　a H e d1 d2 L ・d2≦d1≦d2 + 5mm ・ふくらみの直径：H≧1.4・d2 ・ふくらみの長さ：L≧1.1・d2 ・偏心量：e≦d2×1/5 ・圧接面のずれ：a≦d2×1/4 ・ガス圧接後の曲げ加工は行わないこと。	D19～D32の鉄筋(柱、梁の主筋等)
特殊継手(*2)	機械式継手	カップラー b　≧400mmかつ(b+40)mm	特記による
溶接金網の重ね継手		応力伝達継手 ≧1節半かつ150mm　ひび割れ防止用継手 ≧1節かつ100mm	スラブ筋及び壁筋
直線定着(フック有り)		▽定着起点 L1、L2　l	
直線定着(フック無し)		▽定着起点 L1、L2 又は L3	
溶接金網の定着		スラブ ≧1節半かつ 150mm　L3 L2　壁 L2 L2　溶接金網と等量の異形鉄筋	スラブ筋及び壁筋

- (*1) 重ね継手で、相互の鉄筋径が異なる場合の重ね継手長さ L1 は細い方の d による。重ね継手の長さL1は(2)定着の長さと同じ値とする。
- (*2) 特殊継手は、平成12年建設省告示第1463号「鉄筋の継手の構造方法を定める件」に適合するものとする。使用箇所は特記によることとし、工法は監理者の承諾を得ること。

(2) 定着長さ

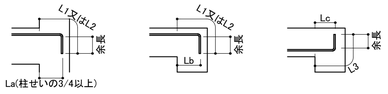
鉄筋種類	Fc (N/mm²)	フック無し L1	L2	L3 小梁	L3 スラブ	L3 片持小梁/片持スラブ	フック有り L1	L2
SD295A	18	45d	40d	20d	10dかつ150mm以上	25d	35d	30d
	21	40d	35d				30d	25d
	24～36	35d	30d				25d	20d
	39～60	35d	25d				20d	15d
SD345	18	50d	40d	20d	10dかつ150mm以上	25d	35d	30d
	21	45d	35d				30d	25d
	24, 27	40d	35d				25d	20d
	30～45	35d	30d				20d	15d
	48～60	30d	25d					
SD390	21	50d	40d	20d	10dかつ150mm以上	25d	35d	30d
	24, 27	45d	40d				30d	25d
	30～45	40d	35d				25d	20d
	48～60	35d	30d					
SD490	24, 27	55d	45d	20d	10dかつ150mm以上	25d	40d	35d
	30～36	50d	40d				35d	30d
	39～45	45d	40d				35d	30d
	48～60	40d	35d				30d	25d

- L3：小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。ただし基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く。
- フックあり定着の場合は、フック部分を含まない。また、中間部での折曲げは行わない。
- 軽量コンクリートの場合、上表の値に 5d を加える。

(3) 折曲げ定着

- 全長は(2)の定着長さ以上とする。
- 投影定着長さは右表のLaまたはLbまたはLcとする。
- 余長は8d以上とする。
- La：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ
- Lb：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ
- Lc：小梁及び片持梁の下端筋の投影定着長さ
- 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

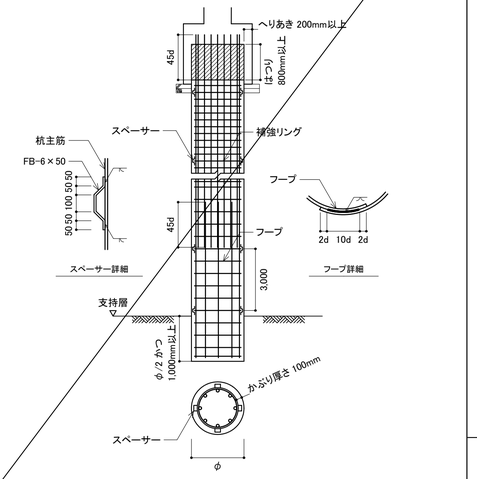
鉄筋種別	Fc (N/mm²)	La	Lb	Lc
SD295A	18	20d	15d	10d
	21以上	15d	15d	
SD345	18, 21	20d	20d	10d
	24, 27	20d	15d	
	30～60	15d	15d	
SD390	21～27	20d	20d	10d
	30～36	20d	15d	
	39～60	15d	15d	
SD490	24～36	25d	―	10d
	39～60	20d	―	



2 杭

1. 場所打ちコンクリート杭

- スペーサー：FB- 6 x 50　平面上に 4 ヶ所以上 @ 3,000
- 補強リング：FB- 9 x 65　@ 3,000 以下かつ 1 節につき 3 ヶ所以上
- 鉄筋のかぶり厚さは 100mm とする。
- 主筋の重ね継手およびフーチングへの定着長さは、45d 以上とする。
- フープは正しく円形に加工し、片面 10d 以上のフレアグループアーク溶接にて接合する。



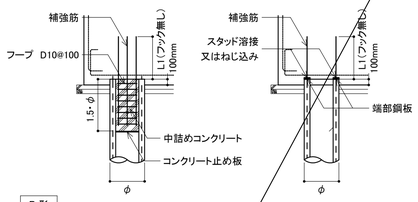
2. 既製杭

(1) PHC杭又はPRC杭

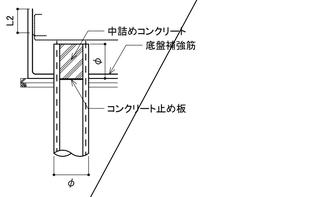
- 適用する工法、補強筋の径及び本数は構造図による。

A 形

- 補強筋にはフックをつけない。

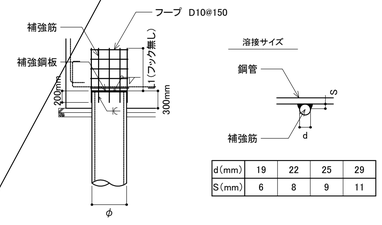


B 形



(2) 鋼管杭

- 補強筋の径及び本数は構造図による。



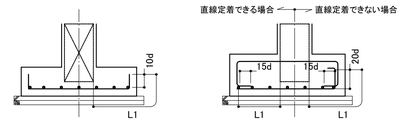
d(mm)	19	22	25	29
S(mm)	6	8	9	11

3 基礎

1. 基礎フーチングの納まり

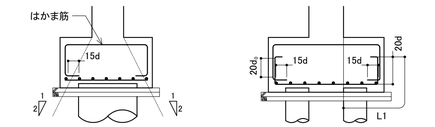
(1) 独立基礎、連続基礎

A. はかま筋が不要な場合　　B. はかま筋が必要な場合

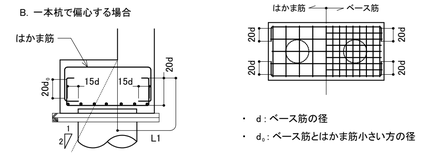


~~(2) 杭基礎~~

A. 一本杭の場合　　C. 二本杭以上の場合



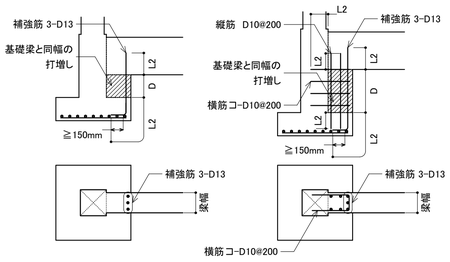
B. 一本杭で偏心する場合



- d：ベース筋の径
- d_o：ベース筋とはかま筋小さい方の径

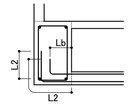
2. 基礎フーチングと基礎梁の接合部

(1) 0<D≦500 の場合　　(2) 500<D≦1,000 の場合

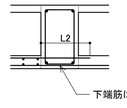


3. 耐圧スラブ(べた基礎)の納まり

(1) 最終端



(2) 連続端

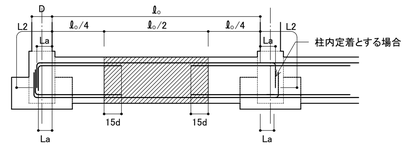


4 基礎梁

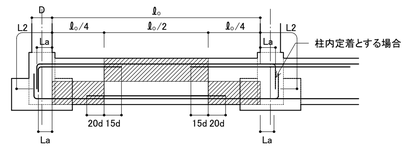
1. 継手位置、定着及び余長

- 主筋の継手位置は下図の ▨ 内とする。
- 基礎梁の連続端で柱に接する梁筋が同数の場合、主筋は柱をまたいで引き通す。柱をまたいで主筋を引き通すことができない場合は、柱内に定着する。
- 梁主筋ののみ込み長さは柱せいの3/4倍以上とする。

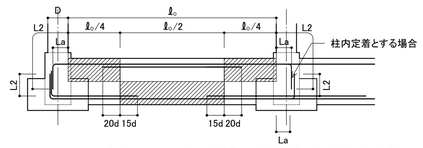
(1) 独立基礎、杭基礎で基礎梁にスラブが付かない場合



(2) 独立基礎、杭基礎で基礎梁にスラブが付く場合



(3) 連続基礎、べた基礎で地反力を受ける場合



L2hを確保できない場合は、4.継手及び定着(1)継手および定着基準による。

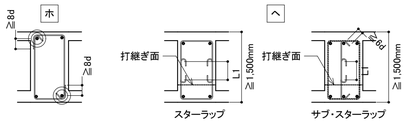
2. スターラップ

(1) 形状及びサブ・スターラップ(中子筋)

A. 梁せいが 1,500mm 未満の場合 → 6．2－(1)、(2)による。

B. 梁せいが 1,500mm 以上の場合

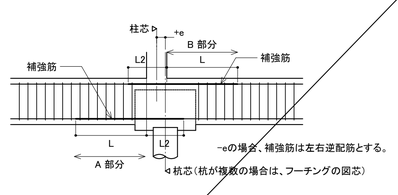
- 梁の上下にスラブが付く場合、ホおよびへの形状も可能とする。
- ホは、90°フック(◎印)側にスラブが付く場合にのみ可能とする。
- へで、重ね継手の代わりに特殊継手を用いる場合は監理者の承諾を得ること。



3. 腹筋及び幅止め筋 → 6．3 による。

4. 打増し補強筋 → 6．4 による。

5. 杭芯ずれに対する補強方法(例)



- 実際の補強方法は、監理者の指示による。
- e≦100mm の場合、補強は不要とする。
- 耐力壁付きの梁については、原則として補強は不要とする。
- 下表の範囲を超える場合は、監理者に確認を得ること。

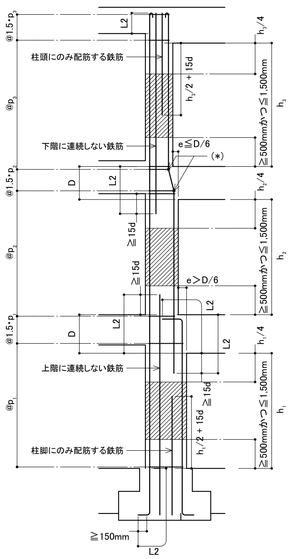
杭 本数	杭 径	偏心距離(mm)	A 部分 補強筋	A 部分 L(mm)	B 部分 補強筋	B 部分 L(mm)	せん断補強
		100<e≦200					
		200<e≦300					
		100<e≦200					
		200<e≦300					
		100<e≦200					
		200<e≦300					

		特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
			東秩父村新庁舎建設工事			構造	S-004
			図面名称 RC基準図 (1)				

5 柱

1. 継手位置、定着及び余長、フープの割付け

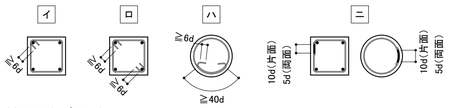
- 主筋の継手位置は下図の ▨ 内とする。
- 柱頭の定着長さ L2 が確保できない場合の定着方法は、構造図の特記による。
- 柱頭の主筋のうち出隅に位置するものには180°フックを設ける。
- ── はフープの割付け基線（第一帯筋）を示し、梁上端筋の直上及び下端筋の直下に設ける。
- (*)e≦D/6 の場合、柱主筋の折曲げ基点は梁主筋との交点とする。フープは、一般部と同径、同材質のものを2本重ねる。



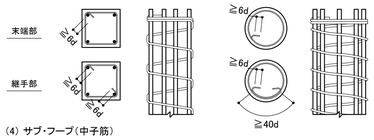
2. フープ

- フープの形状は構造図の特記による。特記がない場合はH 形とし、135°フックが困難な場合は W-1 形とする。
- フック及び継手位置は上下階で同一箇所に集中させず、交互にずらす。
- SP 形において、柱頭及び柱脚の端部は1.5巻き以上の添巻きを行う。

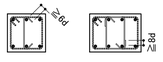
(1) H 形（フック先曲げ）　(2) W-1 形（溶接閉鎖）



(3) SP 形（スパイラル）

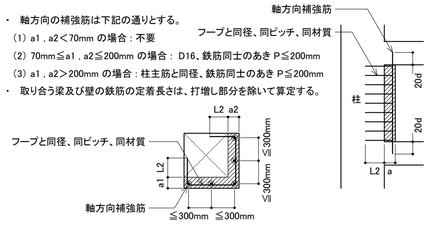


(4) サブ・フープ（中子筋）



3. 打増し補強筋

- 軸方向の補強筋は下記の通りとする。
  (1) a1，a2＜70mm の場合：不要
  (2) 70mm≦a1，a2≦200mm の場合： D16、鉄筋同士のあき P≦200mm
  (3) a1，a2＞200mm の場合：柱主筋と同径、鉄筋同士のあき P≦200mm
- 取り合う梁及び壁の鉄筋の定着長さは、打増し部分を除いて算定する。

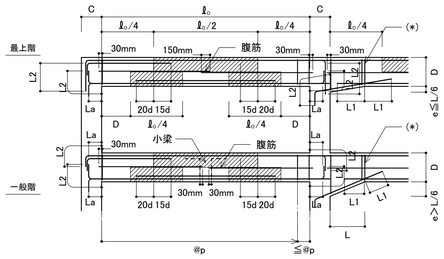


6 梁

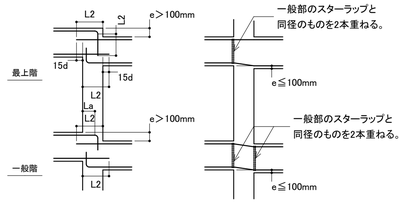
1. 継手位置、定着及び余長、スターラップの割付け

- 主筋の継手位置は下図の ▨ 内とする。
- 下端筋は上向き定着とする。やむを得ず下向き定着する場合は、監理者の承諾を得ること。
- 梁の連続端では、主筋は柱をまたいで引き通すことを原則とする。
  柱をまたいで主筋を引き通すことができない場合は、柱内に定着する。
  やむを得ない場合のみ、柱面から定着長さ L2 を確保して反対側の梁に定着する。
- 特記無き場合、梁主筋ののみ込み長さは柱せいの3/4倍以上とする。
- ── はスターラップの割付け基線を示し、第一スターラップは柱側面を基準に割り付ける。
- 特記無き場合、梁ハンチの傾斜は 1/4 とする。
- (*)ハンチの折曲げ基点には、一般部のスターラップと同径、同材質のものを2本重ねる。

(1) 大 梁

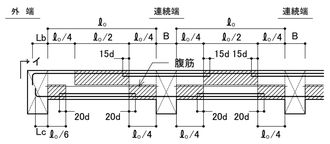


- 柱に取り付く両側の大梁に段差(e)がある場合の定着方法は下図による。

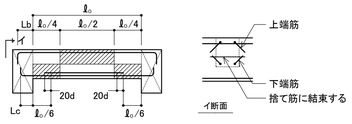


(2) 小 梁

- 連続梁



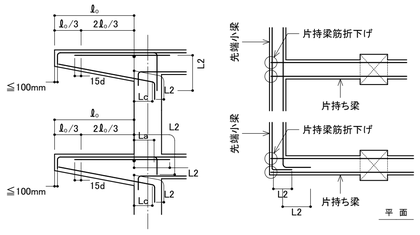
- 単純梁



- 大梁に取り付く両側の小梁に段差がある場合の定着方法は、大梁の場合に準ずる。

(3) 片持ち梁

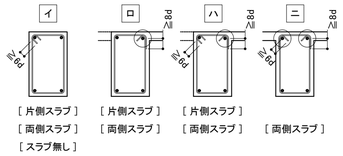
- 梁筋が引き通せない場合は、取り合い部材に定着する。
- 柱と取り合う場合、全数引き通せる場合においても、上端筋は2本以上を柱内定着とする。
- 柱内定着とする場合、梁主筋は柱の中心線を越えて曲げる。
- 上端筋の先端は下端筋位置まで折下げる。
- 先端小梁の終端部の主筋は、片持ち梁に水平定着とする。
- 先端小梁の連続端の主筋は、片持ち梁の先端を貫通する通し筋として良い。



2. スターラップ

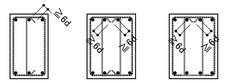
(1) 形 状

- 90°フック（○印）は、スラブ側にのみ設けて良い。それ以外は135°フックとする。
- イの135°フックの位置は交互とする。
- ロ～ニはスラブと同時にコンクリートを打ち込む場合に用いて良い。



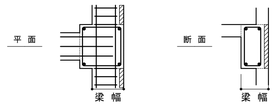
(2) サブ・スターラップ（中子筋）

- 末端は原則として135°フックとするが、スラブが付く側のみ90°フックとしても良い。



(3) 柱面と梁面が同一になる場合の納まり

- 柱主筋径だけスターラップ幅を狭めて加工する。



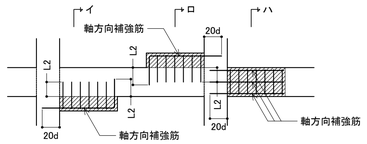
3. 腹筋及び幅止め筋

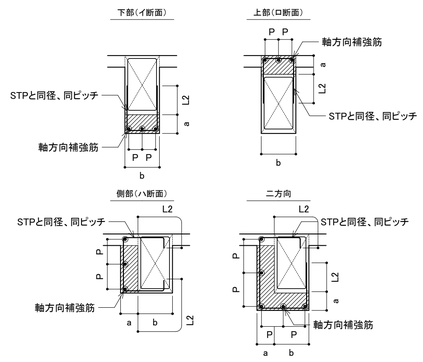
梁せい(mm)	段 数	腹 筋	幅止め筋
D＜600	不 要		
600≦D＜900	1	2－D10	D10@1,000mm
900≦D＜1,200	2	4－D10	
1,200≦D＜1,500	3	6－D10	
1,500≦D＜1,800	4	8－D13	

- 梁せいが上表を超える場合、梁せい 300mm ごとに1段(2-D13)を加える。
- 腹筋端部は、梁の第一スターラップから 30mm 程度つきだしてスターラップに結束する。

4. 打増し補強筋

- 軸方向の補強筋は下記の通りとする。
  (1) a＜70mm の場合：不要
  (2) 70mm≦a≦200mm の場合： D16、鉄筋同士のあき P≦150mm
  ただし、打増し部に耐力壁（耐震壁、土圧壁）が取付く場合で、壁筋がD19以上の場合は壁筋と同径以上とする。
  (3) a＞200mm の場合：梁主筋と同径、鉄筋同士のあき P≦150mm
- 梁の打増し部分に取り合う梁、壁、スラブの鉄筋の定着長さは打増し部分を除いて算定する。



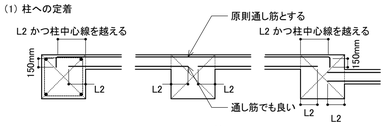


7 壁

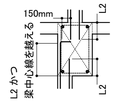
1. 継手及び定着

- 重ね継手長さは、耐力壁（耐震壁、土圧壁）はL1、その他はL2とし、定着長さはL2 とする。
- 幅止め筋は、縦横とも D10@1,000mm とする。

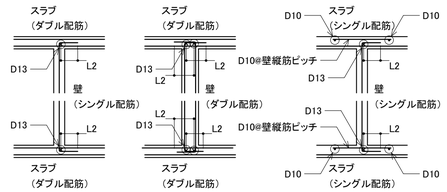
(1) 柱への定着



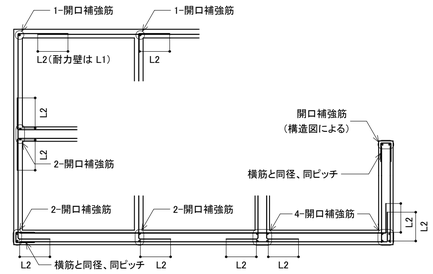
(2) 梁への定着



(3) スラブへの定着（非耐力壁）

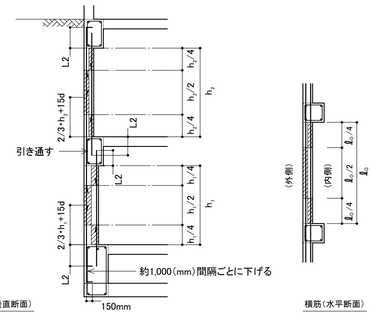


(4) 壁の交差部及び端部



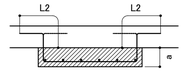
2. 地下外壁の継手及び定着

- 地下外壁の継手位置は下図の ▨ 内とする。
- 外側縦筋は基礎梁主筋の内側に納め、約1,000mmピッチごとに耐圧板上端もしくは基礎梁打継面まで下げる。中間階では通し配筋とする。



3. 打増し補強筋

(1) a＜50mm の場合：不要
(2) 50mm≦a＜200mm の場合：縦筋は D10@200、横筋は D10@横筋と同ピッチ
(3) 200mm≦a の場合：縦筋、横筋とも壁筋と同径、同ピッチ

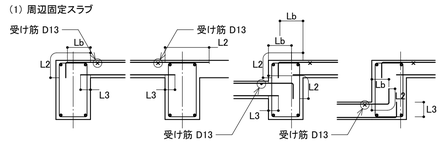


8 スラブ

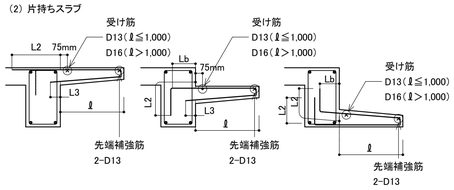
1. 定 着

- スラブ筋のかぶり厚さの確保は、バーサポート(@600 以下)によること。

(1) 周辺固定スラブ

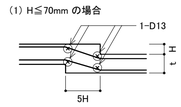


(2) 片持ちスラブ

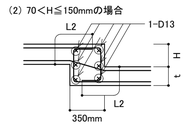


2. スラブ段差の納まり

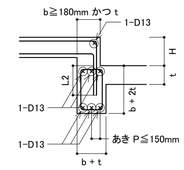
(1) H≦70mm の場合



(2) 70＜H≦150mmの場合



(3) 150＜H≦300mmの場合

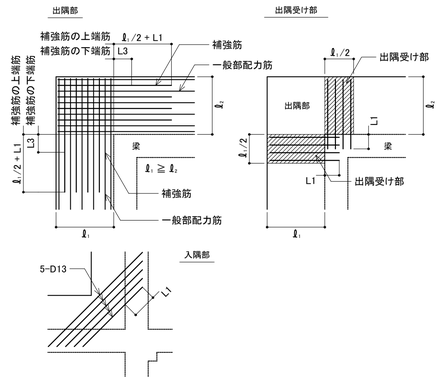


(4) 300mm＜H の場合：構造図の特記により小梁を設ける。

3. 出隅、入隅部分の補強

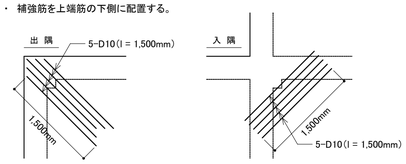
(1) 片持ちスラブ

- 出隅部補強筋はスラブ主筋と同径、同ピッチとし、ダブル配筋とする。
- 出隅受け部補強筋はスラブ主筋と同径@100mmピッチとし、ダブル配筋とする。



(2) 屋根スラブ

- 補強筋を上端筋の下側に配置する。



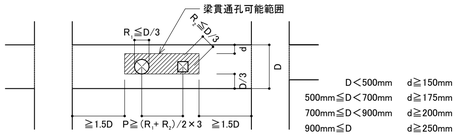
特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
	東秩父村新庁舎建設工事			構造	S-005
	図面名称 RC基準図 (2)				

9 開口補強

1. 梁貫通孔

（1）貫通孔の径、位置、配置

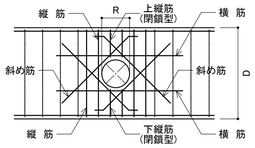
- 孔径は、梁せい D の 1/3 以下とする。孔が円形でない場合はこれの外接円とする。
- 孔の上下方向の位置の限度 d は下図の通りとする。
  梁中央下端は梁下端よりD/3の範囲に設けてはならない。
- 孔の左右方向の位置の限度は、柱及び直交する梁（小梁）面から原則として 1.5D 以上離す。
  ただし、梁せいの大きい基礎梁などではこの限りではない。
- 孔が並列する場合の中心間隔（水平距離）は、隣接する孔径の平均値の3倍以上とする。
  孔が円形でない場合は、孔の対角距離を用いることとする。



D＜500mm	d≧150mm
500mm≦D＜700mm	d≧175mm
700mm≦D＜900mm	d≧200mm
900mm≦D	d≧250mm

（2）補強要領

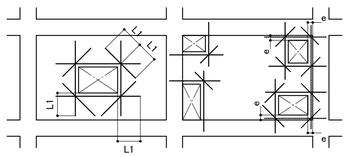
- 補強方法は、原則として下図の方法とする。これ以外の配筋要領とする場合、もしくは、既製品による補強を行う場合は監理者の承諾を得ること。
- 縦筋及び上下筋は、あばら筋の形に配筋する。
- 補強筋は、原則として主筋の内側とする。
- 孔径が梁せいの 1/10 以下かつ150mm 未満のものは、補強を省略する事ができる。
- 上下縦筋は閉鎖型とする。



記号	貫通孔径 R(mm)	符号	斜め筋	縦 筋	横 筋	上縦筋 下縦筋	箇所数
H1	～150	B3	2-2-D13	な し	な し	な し	－
	～200	B3を除くRC小梁					
	～200	基礎梁					
H2	～400	基礎梁	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13		－
H3	600	FG2a,FG4,FG5を除く基礎梁	4-2-D16	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	－
H4	600	FG2a, FG4, FG5		4-2-D13			－
H5	－	－	4-2-D19	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	－
H6	－	－		4-2-D16	4-2-D16		－
H7	－	－	4-2-D19	4-2-D19	4-2-D22		－
H8	－	－	4-4-D25	4-2-D22	4-2-D22		－

2. 壁開口

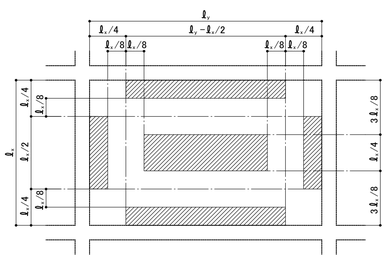
- 補強筋の径、本数は構造図による。
- 開口部の最大径が 200mm 以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより開口部を避けて配筋できる配筋できる場合は補強を省略できる。
- e≦200mm の場合、破線で示した補強筋は不要とする。



3. スラブ開口

（1）開口の範囲

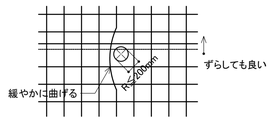
- スラブの開口可能範囲は、原則として下図の ▨ 以外の部分とする。
- 施工時に一時的に設ける開口（ダメ穴）は、原則として設けないこととするが、やむを得ず設ける場合は下図に準じて配置の計画をし、監理者の承諾を得ること。



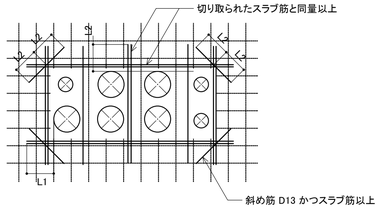
（2）補強要領

A 開口部の最大径が 200mm 以下の場合

- 単独の開口（孔径の3倍以上離れている場合も含む）で、鉄筋を緩やかに曲げることで開口を避けて配筋できる場合は補強を省略できる。この場合、スラブ筋をずらしても良い。

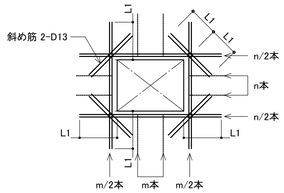


- 複数の開口を連続して設けた場合、開口群を一つの開口と見なして補強筋を設置する。



B 開口部の最大径が 700mm 以下の場合

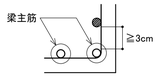
- 開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に 2-D13 シングルを上下筋の内側に配筋する。



10 設備配管

1. 柱・梁

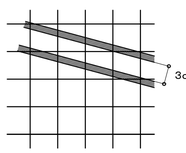
- 柱への打込みは行わないこと。コンセント・ボックスなどを設置する場合は柱断面を打増し、5．3 に従って補強筋を配筋すること。
- 梁に打込む場合は、事前に監理者の承諾を得ること。



2. スラブ

- 上下スラブ筋の間に通す。
- スラブ筋と平行に沿わせないこと。
- スラブ内に配管が集中する場合は、事前に監理者に報告の上、協議すること。

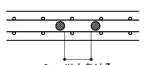
・上下スラブ筋の間に通す。



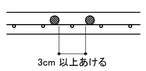
・スラブ筋に沿わせない。

3. 壁

- ダブル配筋の場合、壁筋の内側に通す。

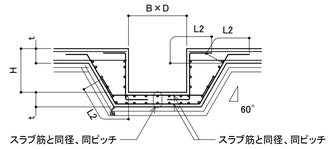


- シングル配筋の場合、壁の中央に通す。



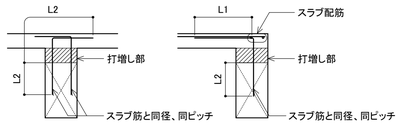
11 雑配筋詳細

1. 基礎スラブピット

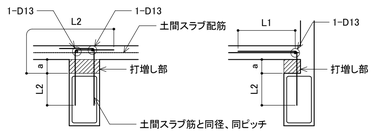


釜場記号	位 置		大きさ			スラブ厚
	軸	通 り	B(mm)	D(mm)	H(mm)	t(mm)

2. 置きスラブと基礎梁の接合（シアコネクター）

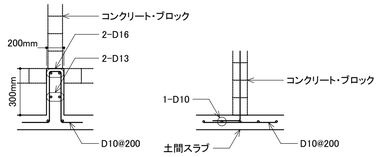


3. 土間スラブの補強



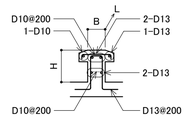
4. コンクリート・ブロック受け

- 水平、垂直とも同様とする。

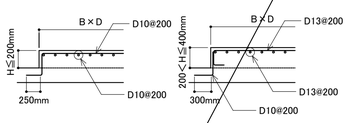


5. 機械基礎

A 形

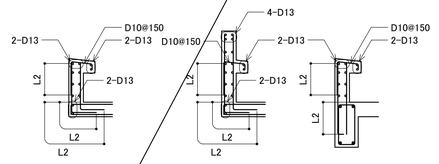


B 形

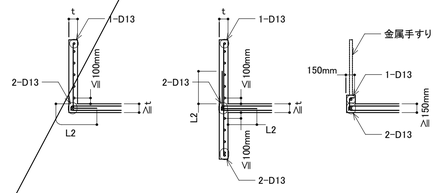


基礎記号	位 置		形 状	大きさ		
	軸	通 り		B(mm)	D，L(mm)	H(mm)

6. パラペット



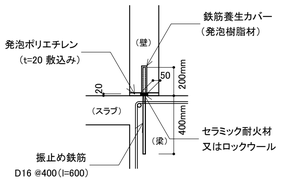
7. 手すり



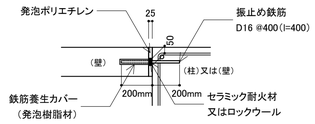
8. 耐震スリット（完全絶縁型）

- スリットの位置は構造図の特記による。

水平スリット

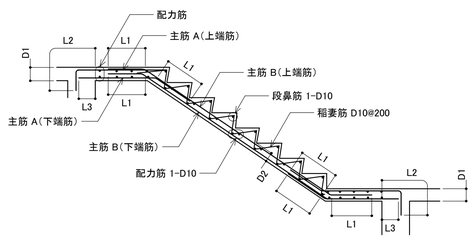


鉛直スリット



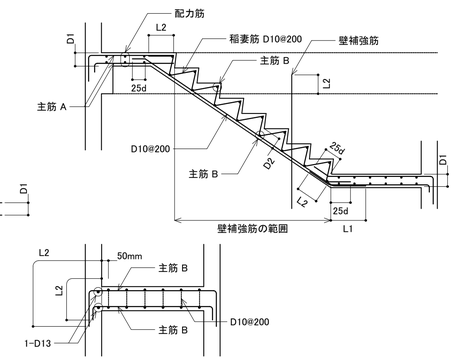
9. 階 段

（1） 一方向スラブ階段



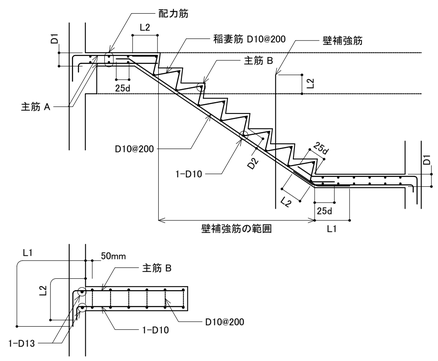
階段記号	厚 さ		位 置	配 筋		
	D1(mm)	D2(mm)		主筋 A	主筋 B	配力筋
			上端筋			
			下端筋			
			上端筋			
			下端筋			
			上端筋			
			下端筋			

（2） 二辺固定スラブ階段



階段記号	厚 さ		配 筋			
	D1(mm)	D2(mm)	主筋 A	主筋 B	配力筋	壁補強筋

（3） 片持ちスラブ階段



階段記号	厚 さ		配 筋			
	D1(mm)	D2(mm)	主筋 A	主筋 B	配力筋	壁補強筋

特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
	東秩父村新庁舎建設工事			構造	S-006
	図面名称 RC基準図 (3)				

1. 一般事項

(1)共通事項

・鉄骨詳細図と本規準との間にくい違いが生じている場合は、鉄骨詳細図を優先とする。また、詳細図に明示のない部分については、全て本規準図に準拠すること。

・本規準に記載のない事項は、「JASS6」「鉄骨工事技術指針」(日本建築学会)による。

(2)製作一般

・選定した鉄骨製作工場は、監理者の承諾を受ける。

・鉄骨製作および施工に先立ち、「鉄骨工事施工要領書」を提出し監理者の承諾を受ける。

(3)使用材料

・使用材料はJIS規格品または(社)日本建築センターの評定・評価を取得した材料とする。

・鋼材の材質表示は、下記の記号または特記による。

材 質	SS400	SN400A	SN400B	STK400	SN490A	SN490B	STK490
記 号	無印	□	B	無印	○	Ⓑ	○

(4)ボルト接合

・本締めするボルトと、仮締めボルトとを併用しないこと。

・ボルト表示は、下記の記号または特記による。

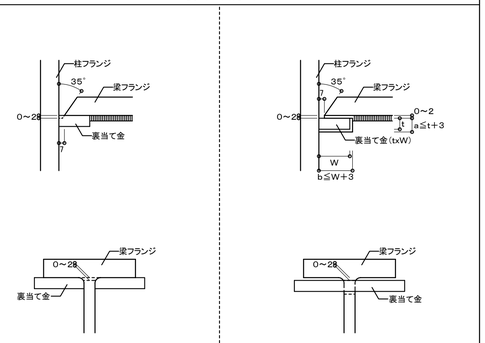
ボルト径(呼び)	現場HTB	工場HTB	中ボルト
M16	✳	✳	✳
M20	✳	✳	✳
M22	✦	✦	✦
M24	◈		◈

2. ノンスカラップ工法

・原則として、ノンスカラップ工法とする(ノンスカラップ製作要領書を提出すること)。

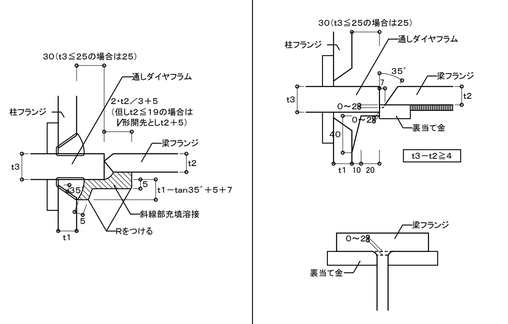
柱通しタイプ ノンスカラップ工法(工場溶接)

裏当て金方式



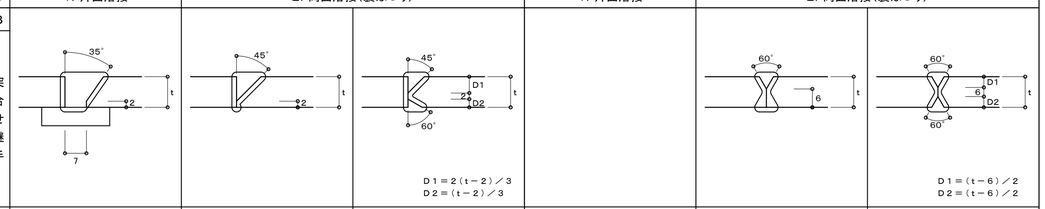
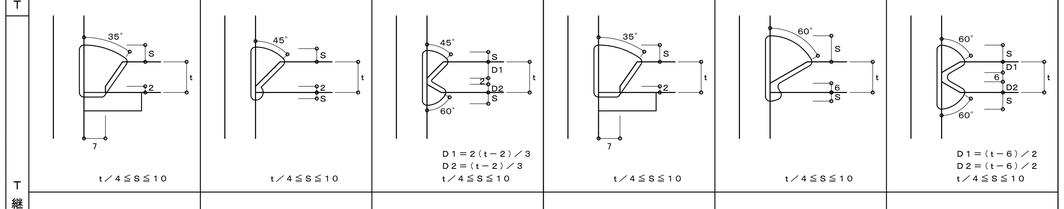
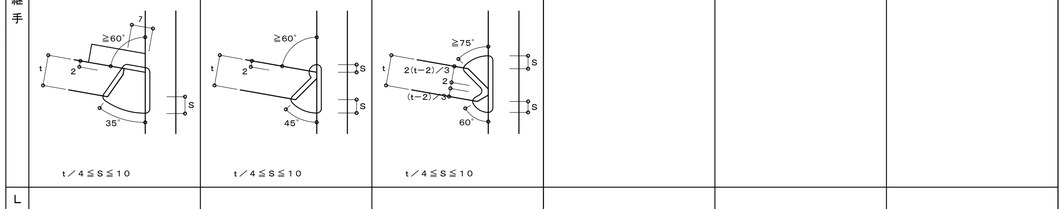
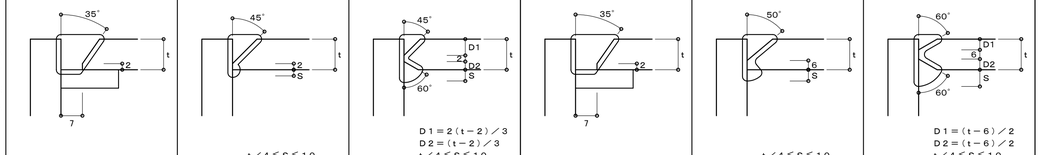
梁通しタイプ ノンスカラップ工法(工場溶接)

裏はつり方式	裏当て金方式

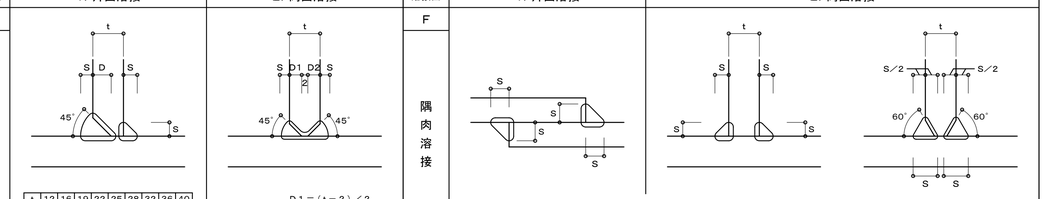


3. 開先規準

(単位:mm)

溶接方法	H	アーク手溶接 ガスシールドアーク手溶接 セルフガスシールドアーク手溶接		A	サブマージアーク自動溶接	
溶接面		1. 片面溶接	2. 両面溶接(裏はつり)		1. 片面溶接	2. 両面溶接(裏はつり)
完全溶込み溶接 B 突合せ継手						
完全溶込み溶接 T T継手						
完全溶込み溶接 T T継手						
完全溶込み溶接 L かど継手						
適用板厚		t≦19	19<t		t≦22	22<t

(単位:mm)

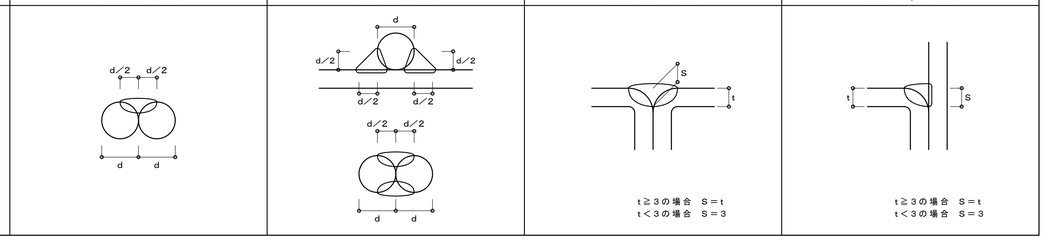
溶接面	1. 片面溶接	2. 両面溶接	溶接面	1. 片面溶接	2. 両面溶接	
P 部分溶込み溶接			F 隅肉溶接			
適用板厚	12≦t≦40	16≦t≦40	適用板厚	t≦16	t≦16	16<t≦40

t	12	16	19	22	25	28	32	36	40
D	10	11	12	13	13	14	15	15	16

t／4≦S≦10

t	t<4	4～7	8	9	10～11	12	13～14	15	16	19	22	25	28	32	36	40
S	1.5t	5	6	7	8	9	10	11	12	11	13	15	17	19	21	24

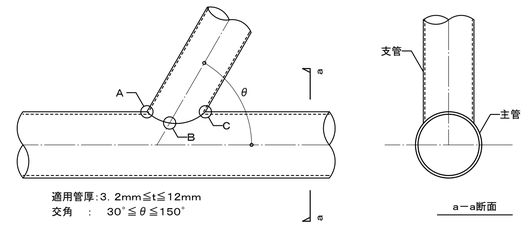
(単位:mm)

FL	丸鋼等片面溶接	丸鋼等両面溶接	軽量形鋼V形溶接	軽量形鋼/形溶接
フレア溶接				

t≧3の場合 S=t
t<3の場合 S=3

4. 鋼管分岐継手

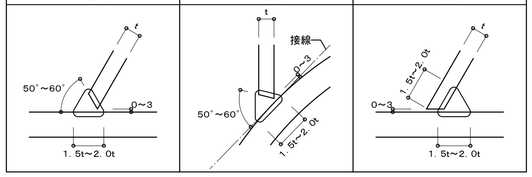
・主管の管軸と支管の管軸は一致させること。



適用管厚:3.2mm≦t≦12mm
交角 : 30°≦θ≦150°

(単位:mm)

A 断 面	B 断 面	C 断 面

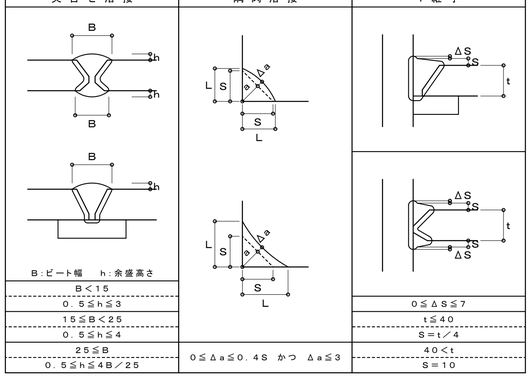


5. 溶接の製作目標値

・余盛高さおよび完全溶込み溶接T継手の補強隅肉溶接の製作目標値は、下記による。

(単位:mm)

余盛高さ		補強隅肉溶接
突合せ溶接	隅肉溶接	T継手



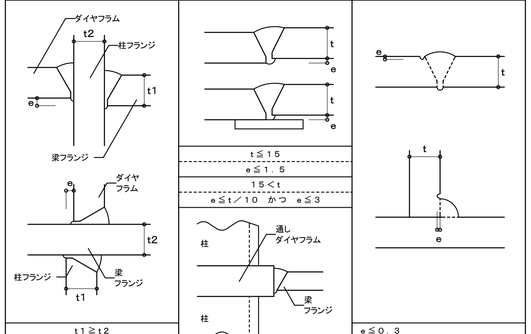
B:ビード幅 h:余盛高さ

B<15		0≦ΔS≦7
0.5≦h≦3		t≦40
15≦B<25		S=t／4
0.5≦h≦4		40<t
25≦B	0≦Δa≦0.4S かつ Δa≦3	S=10
0.5≦h≦4B／25		

6. 溶接部の寸法許容差

(単位:mm)

ダイヤフラムとフランジのずれ	突合せ継手の食違い	アンダーカット



t1≧t2	t≦15	e≦0.3
e≦t1／5 かつ e≦4	e≦1.5	ただし、上記の数値を超え1mm以下の
t1<t2	15<t	場合、溶接長の1／10以下であり断面
e≦t1／4 かつ e≦5	e≦t／10 かつ e≦3	が鋭角的でないものは許容できる。
	フランジはダイヤフラムの厚み内で溶接する。	

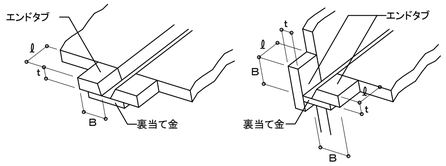
・溶接部の寸法許容値を超える部分がある場合には監理者と協議後「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル:建築研究所監修」により補強を行うこととする。

特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
	東秋父村新庁舎建設工事			構造	S-007
	図面名称 鉄骨基準図 (1)				

7. エンドタブ・裏当て金および裏はつり

・完全溶込み溶接は原則として、エンドタブを使用する。ただし、回し溶接等により健全な溶接部が得られると認められる場合は、省略することができる。

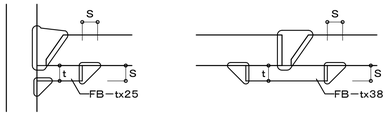
・鋼製エンドタブおよび裏当て金の材質は、母材と同等以上のものを用い、エンドタブの寸法形状は下記を標準とする。



（単位：mm）

溶接方法	エンドタブ		
	ℓ	B	t
手溶接	35以上	30～50	母材と同厚
半自動	38以上		
自動	70以上		

・片面溶接に用いる裏当て金の溶接は、下記要領で補強隅肉溶接を行なう。



裏当て金の厚さ （単位：mm）

溶接方法	t
手溶接	6以上
半自動	9以上
自動	12以上

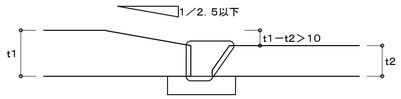
溶接のサイズ （単位：mm）

裏当て金の厚さ	S
t≦9	5
9<t	9

・完全溶込み溶接における両面溶接は、原則として裏はつりを行なう。
ただし、自動溶接において、完全溶込みが超音波探傷試験等で確認できる場合は、裏はつりを省略することができる。

8. 溶接部分の段差

・突合せ継手において、突合せる部材の板厚の差が10mmを超える場合は、表面の形が緩やかに移行するように余盛をする。

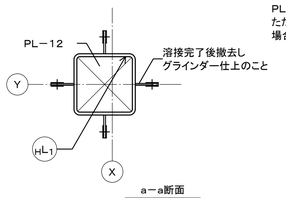


9. その他溶接加工一般

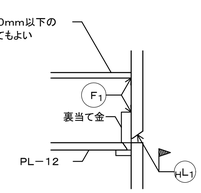
・組立溶接のビートの間隔は、300mm～400mm程度とする。
・やむを得ず開先内に組立溶接を行わなければならない場合は、本溶接後の品質が十分に確保できる方法とする。
・溶接は適当な治具を使用し、原則として下向きで行う。
・溶接部は溶接に先立ち、水分・油・スラグ・塗装・錆等の溶接に支障となるものを除去する。
ただし、溶接に支障のないミルスケールおよび塗料は除去しなくてもよい。
・溶接棒は常に乾燥した場所に保管し、必要に応じ乾燥器に入れ乾燥させる。
・溶接による変形や収縮については、なるべくこれを少なくするように適切な対策を立て、出来上がり寸法・形状を正確に保つようにする。
・隅肉溶接の端部は回し溶接を行う。
・工事現場においては母材をいためるような仮設ピース等の取付溶接は行わない。

10. 仕口部の溶接

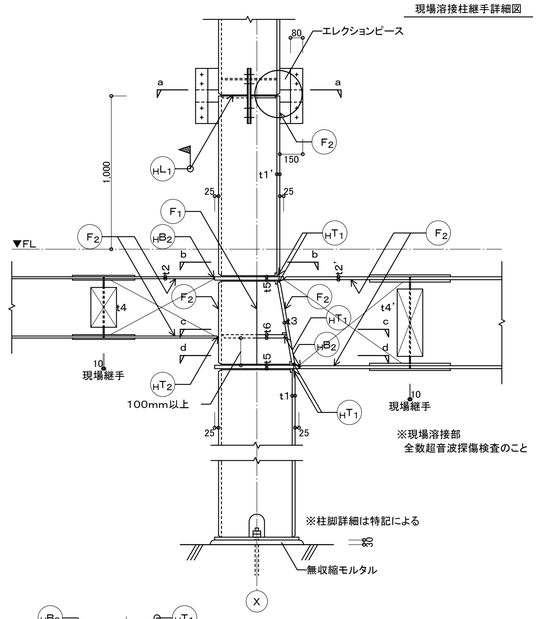
・材質は、取り付く梁フランジ材および柱材のうち、強度および溶接性の最も優れたものと同等以上のものとする。
・板厚は以下の通りとする。
t3：上下の柱材の板厚（t1・t1'）以上で、かつ寄り合う梁のウェブ板厚（t4・t4A）以上とする。
ただし、段違い梁が取り付く場合は、上記かつ梁フランジ板厚（t2）以上とする。
t5：寄り合う梁フランジ板厚（t2・t2A・・・）のうち最大の板厚の2サイズアップでかつt3以上とする。
t6：寄り合う梁フランジ板厚1サイズアップでかつt3の板厚の1サイズアップ以下とする。

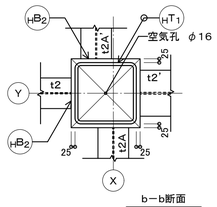


a－a断面

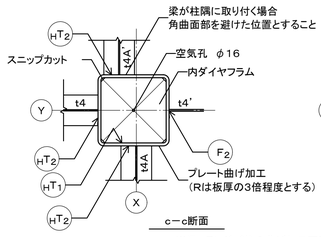


現場溶接柱継手詳細図



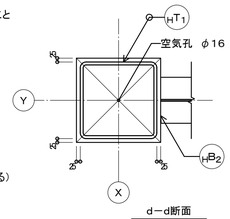


b－b断面



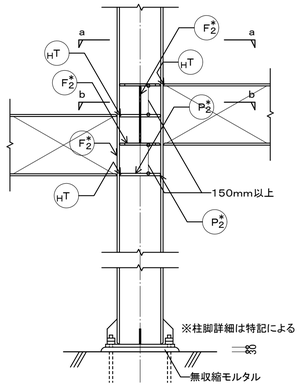
c－c断面

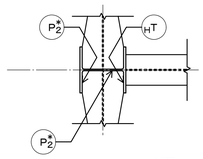
※梁フランジが柱の曲げ加工面にかかる場合は通しダイヤフラム形式とする



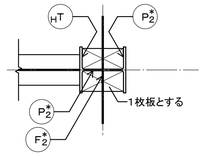
d－d断面

11. 仕口部の溶接（H形鋼）





a－a断面

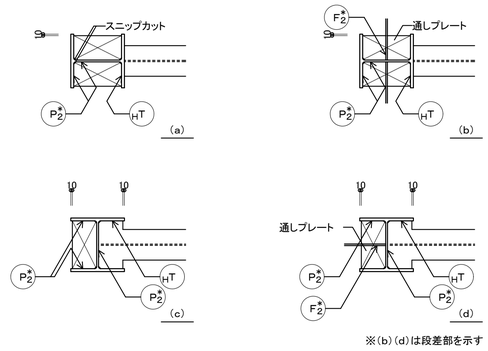


b－b断面

F2＊：ウェブ厚が16mm以上のものについてはP2とする。
P2＊：水平スチフナ厚が12mm以下の場合はF2とする。

12. 水平スチフナ

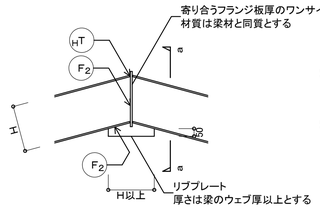
仕口部に設ける水平スチフナの形状および大きさは下記を標準とする。材質は梁フランジ材と同一のものとし、板厚は梁フランジ厚以上とする。

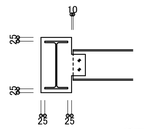


※（b）（d）は段差部を示す

F2＊：ウェブ厚が16mm以上のものについてはP2とする。
P2＊：水平スチフナ厚が12mm以下の場合はF2とする。

13. 山形ラーメン棟部分

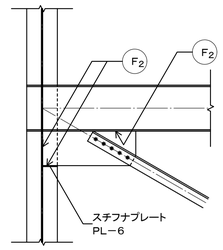




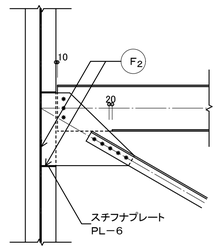
a－a断面

14. 鉛直ブレース仕口

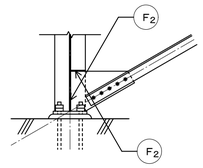
・柱、梁およびガセットプレートの部材芯は、原則として一致させる。
・ガセットプレートの幅は、材端ボルト位置で図（4）に示すLの長さを確保することを原則とする。



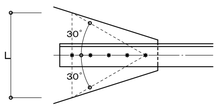
（1）柱頭（梁が剛接合の場合）



（2）柱頭（梁がピン接合の場合）



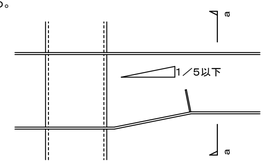
（3）柱脚

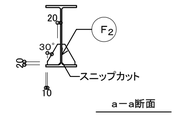


（4）ガセットプレートの形状

15. 梁ハンチ

・梁にハンチを設ける場合は、下図のリブプレートを設ける。材質、板厚は梁ウェブに同じとする。

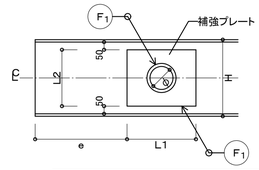


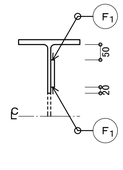


a－a断面

16. 梁貫通孔の補強

・梁貫通孔の内径寸法φはH／2（H：鉄骨せい）以下とする。
・梁貫通孔位置は、原則として中心位置を柱面より2H＋φ／2以上離すこと。
・梁貫通孔のピッチは、隣り合う貫通孔の平均径の3倍以上とする。
・梁貫通孔の補強方法は、原則として補強プレート法とする。
・補強を既製品（認定品）を使用してもよい。その場合は監理者の承諾を得ること。





貫通孔径φ	補強PL				箇所数
	ウェブ厚さ	補強板厚	幅 L1	高さ L2	
100			250	250	－
150	6以下	片面 6	350	350	－
200	7～9	片面 9	450	450	－
250	10～12	片面 12	550	550	－
300	13～18	両面 9	650	650	－
350	19～24	両面 12	750	750	－
400			850	850	－
450			950	950	－

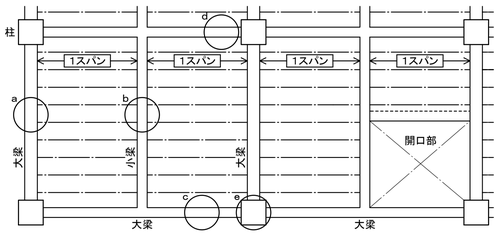
※上記の規定を満たさないものは、補強トラス法による。

（注）・L1は3φまたはL2のうち小さい方とする。
・L2は図示寸法とする。
・補強プレートの厚さは特記による。
・補強プレートの厚さが16mm以上となる場合は、必要な厚さの1／2の補強プレートを、ウェブ両面から溶接する。
・鉄骨のひずみ矯正上、材端の補強プレートとの間隔eはe≧Hとすることが望ましい。
・補強プレートは丸形としてもよい。また、上下フランジとのあき（50mm）については、施工性を考慮し小さくすることができる。

特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
	東秩父村新庁舎建設工事			構造	S-008
	図面名称 鉄骨基準図 (2)				

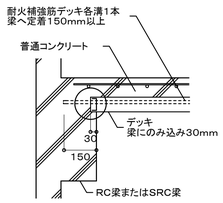
合成デッキ標準図

支持梁：鉄筋コンクリートおよび鉄骨鉄筋コンクリート梁

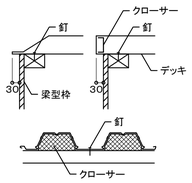


a：外周梁（デッキスパン方向）
b：内部梁（デッキスパン方向）
c：外周梁（デッキ幅方向）
d：内部梁（デッキ幅方向）
e：柱廻り

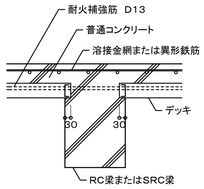
a部　建物外廻り　デッキスパン方向



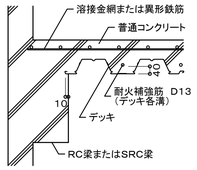
a部　左図　円部詳細



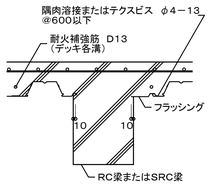
b部　内部大梁・小梁　デッキスパン方向



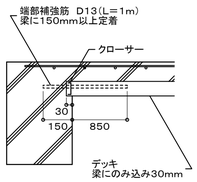
c部　建物外廻り　デッキ幅方向



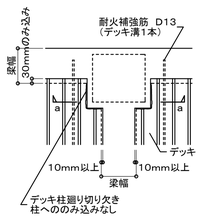
d部　建物内部大梁　デッキ幅方向



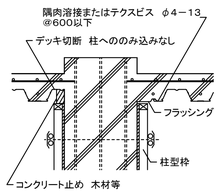
a部　外周梁（デッキ連続の時）



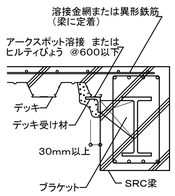
e部　柱廻り納まり



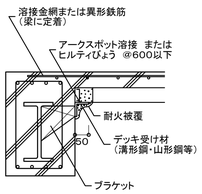
e部　柱廻り（左図a－a断面）



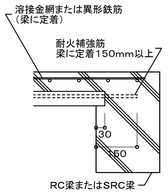
c部　ブラケット支持　デッキ幅方向



a部　ブラケット支持（デッキ連続の時）

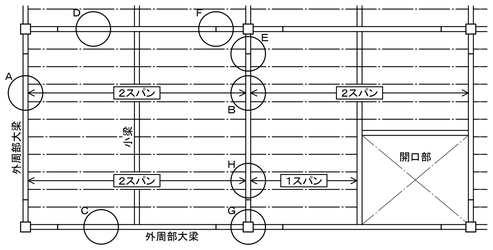


耐火　耐火補強筋の配筋



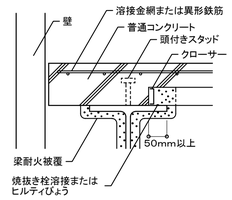
※デッキ幅方向は鉄骨梁の納まりを参照のこと

支持梁：鉄骨梁

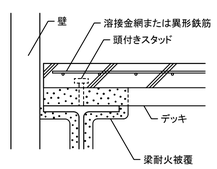


A：外周梁（デッキスパン方向）
B：内部梁（デッキスパン方向）
C：外周梁（デッキ幅方向）
D：内部梁（デッキ幅方向）
E：梁継手（デッキスパン方向）
F：梁継手（デッキ幅方向）
G：柱廻り
H：連続支持と単純支持

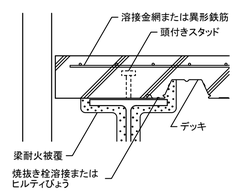
A部　外周梁　デッキスパン方向1



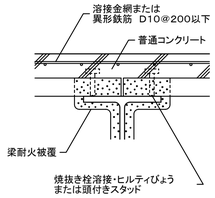
A部　外周梁　デッキスパン方向2



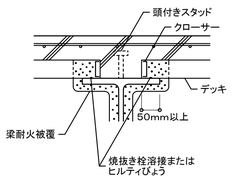
C部　外周梁　デッキ幅方向



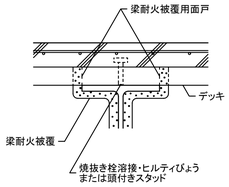
B部　デッキを突き合わせた場合



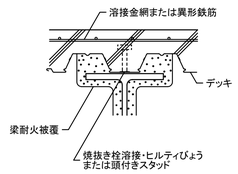
B部　デッキを離した場合



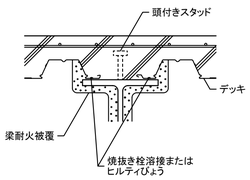
B部　デッキを連続にした場合



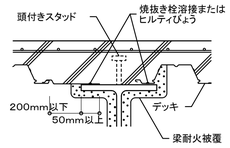
D部　デッキ幅方向　デッキを連続にした場合



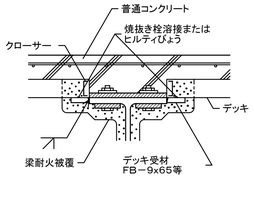
D部　デッキを離した場合



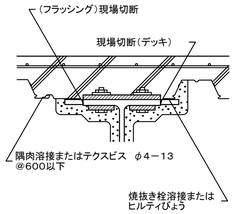
D部　梁との間に隙間がある場合



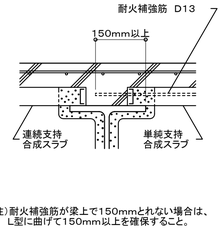
E部　梁継手部　デッキスパン方向



F部　梁継手部　デッキ幅方向

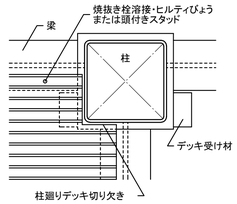


H部　連続支持と単純支持取り合い部

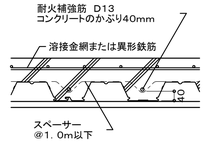


注）耐火補強筋が梁上で150mmとれない場合は、
L型に曲げて150mm以上を確保すること。

G部　柱廻り



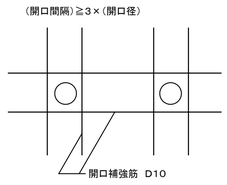
耐火　耐火補強筋の配筋

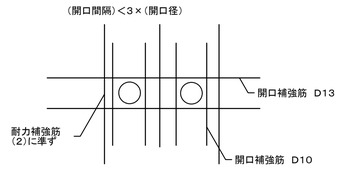


※デッキ長さ方向は左図「H部　連続支持と単純
支持取り合い部」を参照
※配筋は「JASS5　鉄筋コンクリート工事」
による

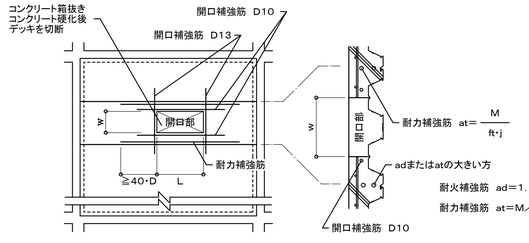
開口部補強案

（1）開口がφ150程度の場合





（2）W：600mm以下　L：900mm程度以下

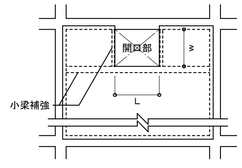


耐火補強筋　ad＝1．27×（1＋n／2）cm^2（単純支持）

耐力補強筋　at＝M／（ft・j）cm^2

n：切断された耐火補強筋の本数

（3）W＞600mmの場合

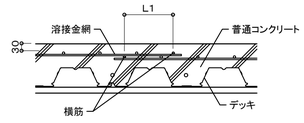


M：開口によって生じる隣接スラブの
増加曲げモーメント

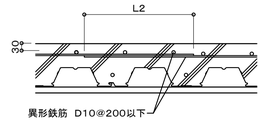
溶接金網

・コンクリート表面よりのかぶり厚さが30mmになるようにレベル保持し、全面に配筋する。

・溶接金網の重ね代L1：1メッシュと50mm以上
　φ6－150x150：200mm以上
　φ6－100x100：150mm以上



・異形鉄筋の重ね代L2：45D以上



※使用する合成スラブは、平成12年12月26日国土交通省告示第1446号に規定される材料で、
平成14年4月16日国土交通省告示第326号に基づき設計されているもの、および床1時間耐火
の国土交通大臣認定を取得しているものとする。

特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
	東秩父村新庁舎建設工事			構造	S-009
	図面名称：合成デッキ標準図				

セレクトベース

角形鋼管

□-350×350 ～ □-1000×1000 用

(一財)日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0314-02」(2021年11月19日付)

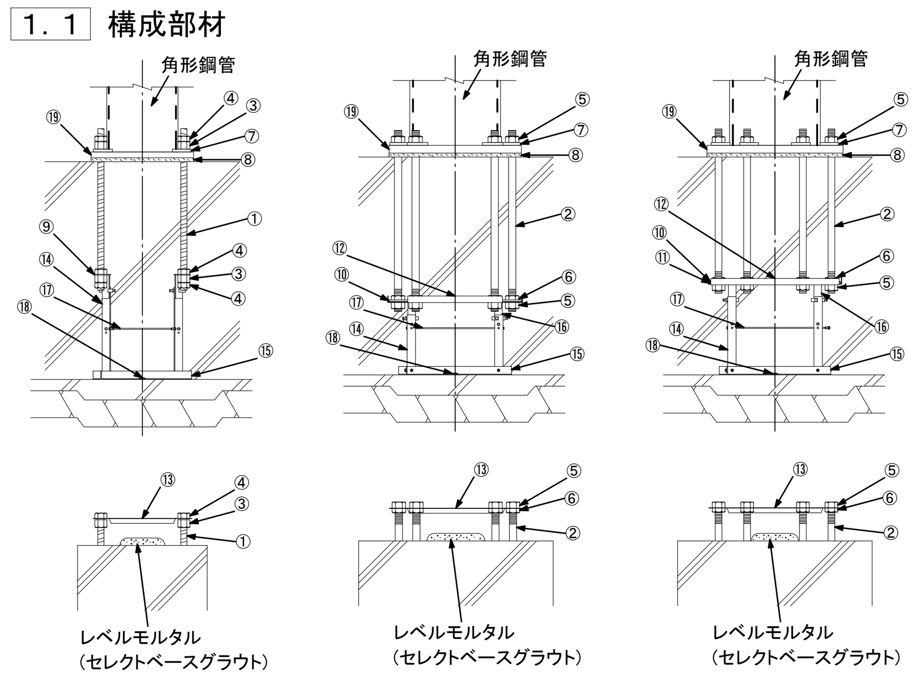
セレクトベース柱脚工法　設計施工標準図

●セレクトベース柱脚工法の設計は「セレクトベース柱脚工法設計ハンドブック」による。

2024年10月作成

1. 工法概要

1.1 構成部材



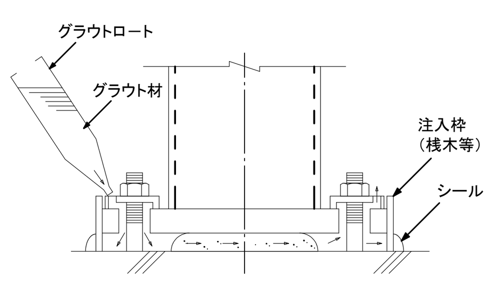
SB 異形アンカー　　SB 丸鋼アンカー

① SB 異形アンカー
② SB 丸鋼アンカー
③ SB Dナット
④ SB Dナット(S)
⑤ SB 丸鋼ナット
⑥ SB 位置決めナット
⑦ SB 注入座金
⑧ セレクトベースグラウト
　(グラウト材)
⑨ SB ポスト付き定着板
⑩ SB 連結定着板
⑪ SB 定着板
⑫ SB 定着ベルト
⑬ テンプレート
⑭ フレームポスト
⑮ フレームベース
⑯ SB ベルト受け金物
⑰ 振れ止め金物
⑱ ステコンアンカー
⑲ ベースプレート

(注)上記 ① ～ ⑫、⑲ の構成部材はセレクトベース構成部品として供給される。

(注)上記⑬ ～ ⑱ は現場状況により仕様が異なる場合がある。

1.2 柱脚の定着方法概要



2. 柱

F値(N/mm²)	鋼種	採用
235	BCP235	
	STKR400	
	SHC400	
295	BCR295	
	JBCR295	
	TSC295	
325	BCP325	
	STKR490	
	SHC490	
	BSH325	
365	UBCR365	
385	JBCR385	

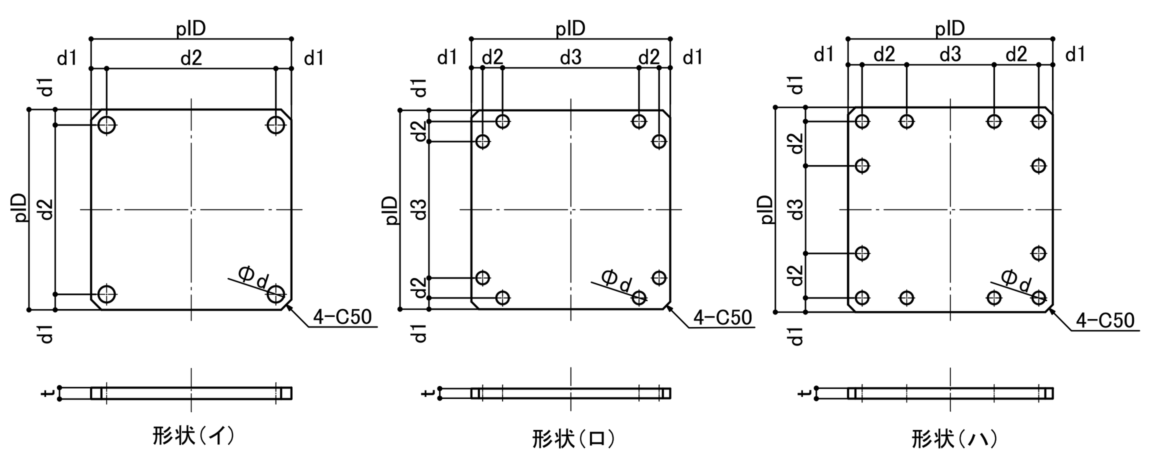
(注)組立柱は適用外

3. 構成部材・寸法

3.1 ベースプレート

●材質　TMCP385B　【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

●形状寸法 各寸法は、各仕様毎に「セレクトベース柱脚工法設計ハンドブック」に記載の値とする。

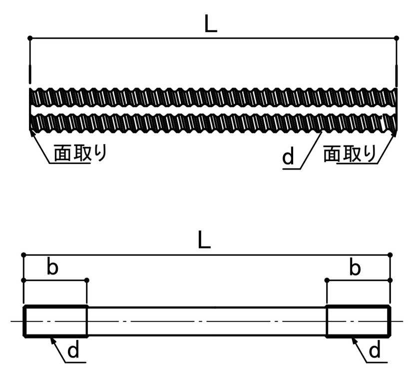


3.2 アンカー用ボルトセット【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

3.2.1 アンカーボルト

SB 異形アンカー

SB 丸鋼アンカー



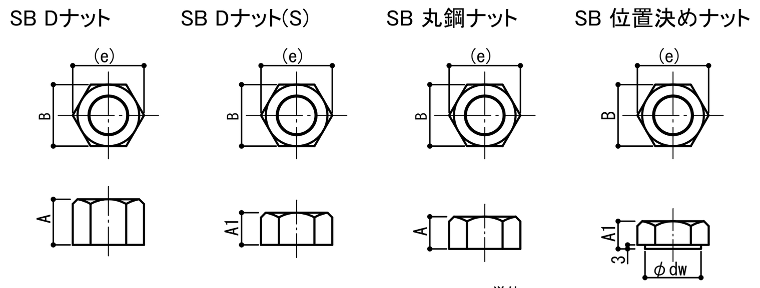
単位 mm

呼びd	L	基準強度(N/mm²)
D35H	920	490
D38H	985	490
D41H	1050	490
D51L	1175	390
D51H	1285	490

単位 mm

呼びd	L	b	基準強度(N/mm²)
M45	1050	140	560
M48	1100	140	560
M52	1195	155	560
M56	1275	160	560
M60	1350	170	560
M64	1430	175	560

3.2.2 ナット



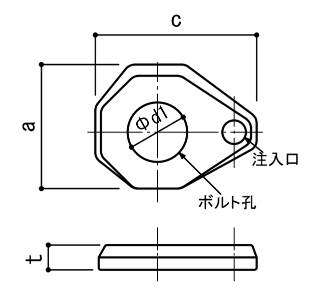
単位 mm

呼びd	A	A1	B	(e)
D35	42	28	60	69
D38	45	30	65	75
D41	48	32	70	80
D51	60	40	80	92

単位 mm

呼びd	A	A1	B	(e)	dw
M45	36	27	70	81	59
M48	38	29	75	87	59
M52	42	31	80	92	59
M56	45	34	85	98	74
M60	48	36	90	104	74
M64	51	38	95	110	74

3.2.3 SB 注入座金

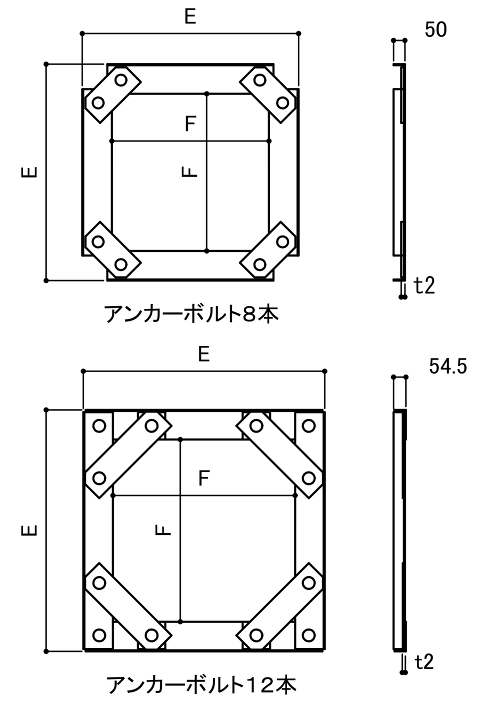


単位 mm

適用アンカーボルト	a	c	t	Φd1
D35	86	122	18	39
D38	90	125	22	43
M45,D41	96	128	22	46
M48	102	133	22	49
M52	110	140	22	53
M56,D51	116	147	22	58
M60	122	153	22	61
M64	128	159	22	65

3.3 定着部材

3.3.1 SB 定着ベルト



単位 mm

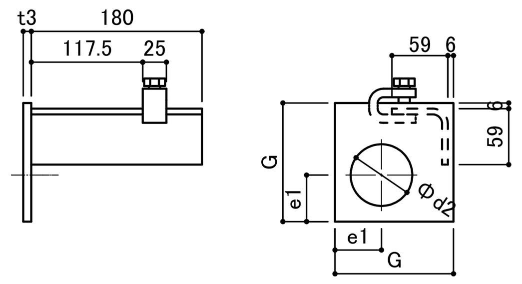
品名	E	F	t2
35-8H35	580	360	10.5
35-8H38	580	360	10.5
35-8H41	590	370	10.5
40-8H35	630	410	10.5
40-8H38	630	410	10.5
40-8H41	640	420	10.5
45-8H35	680	460	10.5
45-8H38	690	470	10.5
45-8H41	690	470	10.5
50-8H38	740	520	10.5
50-8H41	750	530	10.5
50-8L51	790	550	10.5
50-8H51	790	550	10.5
50-8M52	810	550	9.0
55-8H41	800	580	10.5
55-8L51	840	600	10.5
55-8M52	860	600	9.0
55-8M60	890	610	9.0
60-8M45	870	630	13.5
60-8M52	910	650	9.0
60-8M60	940	660	9.0
60-8M64	970	670	9.0
65-8M48	950	690	16.5
65-8M56	980	700	9.0
65-8M60	990	710	9.0
65-8M64	1020	720	9.0

単位 mm

品名	E	F	t2
70-8M52	1010	750	9.0
70-8M60	1040	760	9.0
75-8M56	1080	800	9.0
80-8M52	1110	850	9.0
80-8M64	1170	870	9.0
85-8M56	1180	900	9.0
90-8M60	1240	960	9.0
95-8M64	1320	1020	9.0
100-8M64	1370	1070	9.0
70-12M56	1030	750	9.0
70-12M60	1040	760	9.0
75-12M52	1060	800	9.0
75-12M60	1090	810	9.0
75-12M64	1120	820	9.0
80-12M60	1140	860	9.0
80-12M64	1170	870	9.0
85-12M56	1180	900	9.0
85-12M64	1220	920	9.0
90-12M56	1230	950	9.0
90-12M64	1270	970	9.0
95-12M60	1290	1010	9.0
95-12M64	1320	1020	9.0
100-12M60	1340	1060	9.0
100-12M64	1370	1070	9.0

t2:アンカーボルト孔位置における最小厚さ

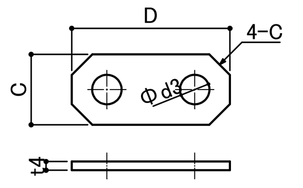
3.3.2 SB ポスト付き定着板



単位 mm

品名	G	Φd2	e1	t3
4D35-6	100	40	35	6
4D38-6	125	43	50	6
4D41-6	125	46	50	6
4D51-6	125	58	50	6
4M45-16	125	60	55	16
4M52-19	150	60	71	19
4M56-22	150	75	71	22
4M60-22	150	75	71	22

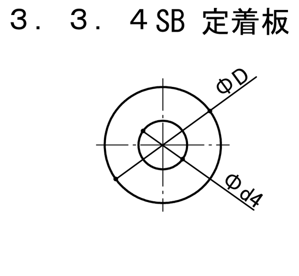
3.3.3 SB 連結定着板



単位 mm

品名	C	Φd3	D	t4
8M52-9	124	60	286	9
8M56-12	135	75	297	12
8M60-12	141	75	331	12
8M64-16	154	75	344	16
70-12M56-12	135	75	446	12
70-12M60-12	141	75	452	12
75-12M52-9	124	60	449	9
75-12M60-12	141	75	473	12
75-12M64-16	154	75	486	16
80-12M60-12	141	75	487	12
80-12M64-16	154	75	507	16
85-12M56-12	135	75	495	12
85-12M64-16	154	75	521	16
90-12M56-12	135	75	516	12
90-12M64-16	154	75	542	16
95-12M60-12	141	75	544	12
95-12M64-16	154	75	557	16
100-12M60-12	141	75	558	12
100-12M64-16	154	75	578	16

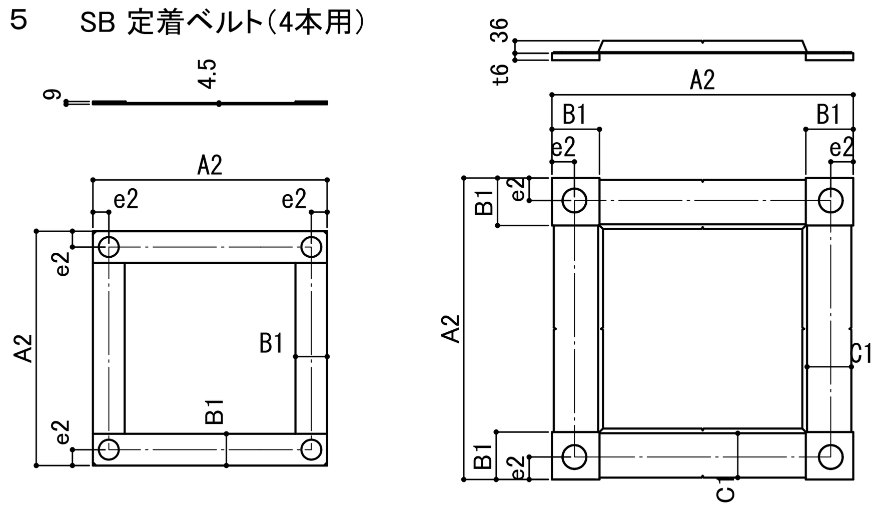
3.3.4 SB 定着板



単位 mm

呼びd	ΦD	Φd4	t5
12M52-9	124	60	9
12M56-12	135	75	12
12M60-12	141	75	12
12M64-16	154	75	16

3.3.5 SB 定着ベルト(4本用)



単位 mm

品名	A2	B1	e2
35-4H35	490	70	35
35-4H41	530	100	50
40-4H38	570	100	50
40-4L51	590	100	50
45-4H41	630	100	50
50-4H41	670	100	50
55-4L51	740	100	50

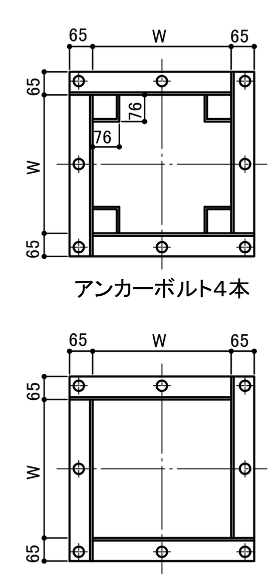
単位 mm

品名	A2	B1	C1	e2	t6
45-4M45	640	125	125	55	16
60-4M52	802	150	125	71	19
65-4M56	862	150	140	71	22
70-4M56	902	150	140	71	22
75-4M60	962	150	140	71	22

(注)4本タイプはSBポスト付き定着板の代わりに
上記に示すSB定着ベルトを用いることができる。

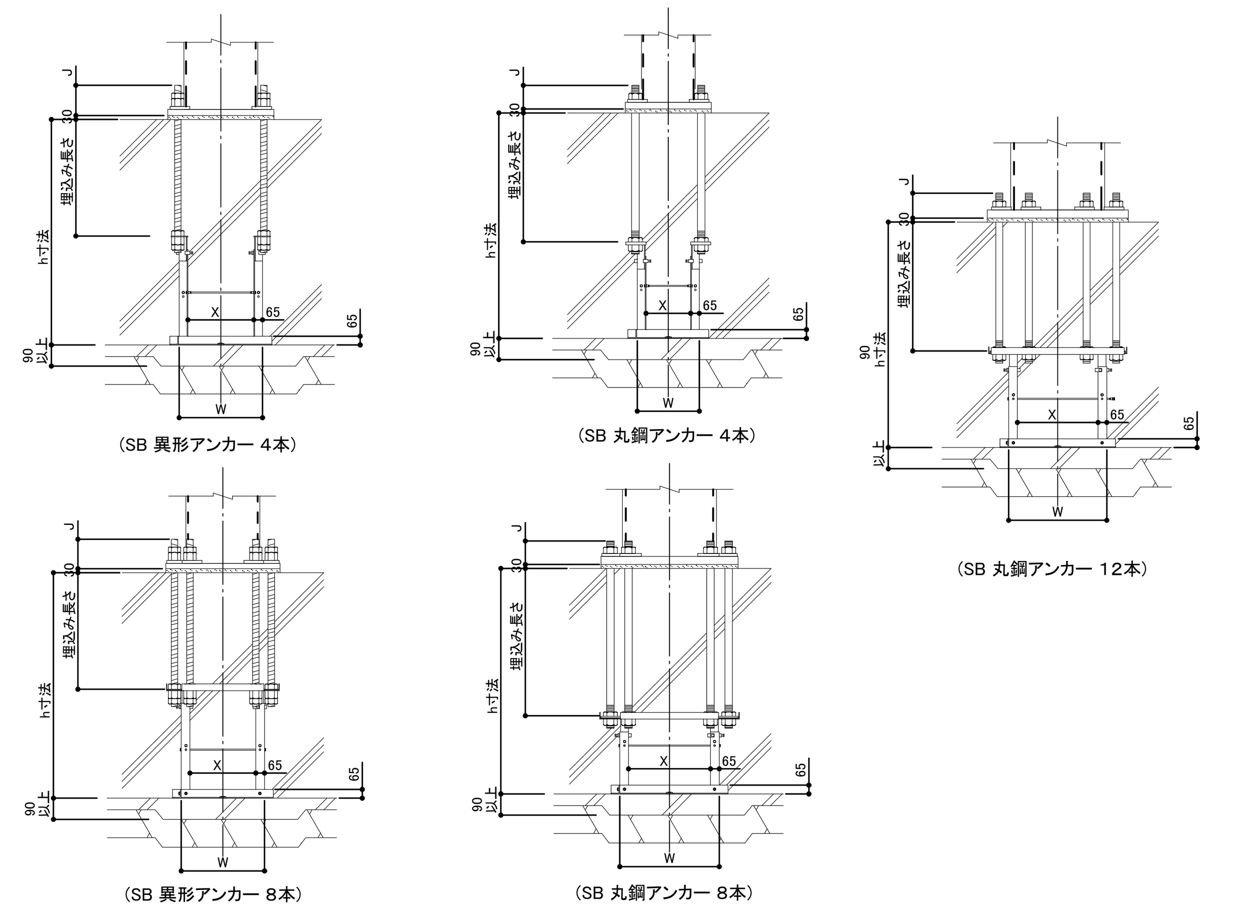
3.4 フレームベース

wは3.5に記載のフレームベース内法寸法とする。



3.5 アンカーフレーム形状および据付け時諸寸法

●セレクトベースの据付け高さ(h寸法)はフレームベース下端からコンクリート柱型天端までを示す。
据付けに最低限必要な高さ(最低h寸法)およびJ寸法は「セレクトベース柱脚工法設計ハンドブック」に記載の値とする。

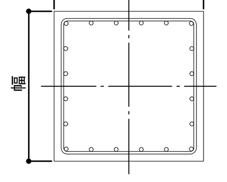


セレクトベース記号	フレームベース内法 寸法 W (mm)	フレームポスト間 寸法 X (mm)
35-4H35	430	290
35-4H41	420	280
35-8H35	340	210
35-8H38	340	210
35-8H41	350	220
40-4H38	460	320
40-4L51	480	340
40-8H35	390	260
40-8H38	390	260
40-8H41	400	270
45-4H41	520	380
45-4M45	530	390
45-8H35	440	310
45-8H38	450	320
45-8H41	450	320
50-4H41	560	420
50-8H38	500	370
50-8H41	510	380
50-8L51	530	400
50-8H51	530	400
50-8M52	530	400
55-4L51	630	490
55-8H41	560	430
55-8L51	580	450
55-8M52	580	450
55-8M60	590	460
60-4M52	642	502
60-8M45	610	480
60-8M52	630	500
60-8M60	640	510
60-8M64	650	520

セレクトベース記号	フレームベース内法 寸法 W (mm)	フレームポスト間 寸法 X (mm)
65-4M56	702	562
65-8M48	670	540
65-8M60	680	560
65-8M64	700	570
70-4M56	742	602
70-8M52	730	600
70-8M60	740	610
70-12M56	730	600
70-12M60	740	610
75-4M60	802	662
75-8M56	780	650
75-12M52	780	650
75-12M60	790	660
75-12M64	800	670
80-8M52	830	700
80-8M64	850	720
80-12M60	840	710
80-12M64	850	720
85-8M56	880	750
85-12M56	880	750
85-12M64	900	770
90-8M60	940	810
90-12M56	930	800
90-12M64	950	820
95-8M64	1000	870
95-12M60	990	860
95-12M64	1000	870
100-8M64	1050	920
100-12M60	1040	910
100-12M64	1050	920

4. コンクリート柱型

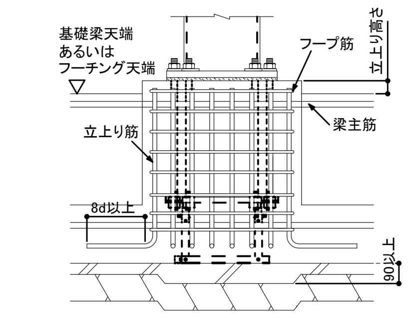
4.1 形状・材質



●コンクリート
普通コンクリートとし、設計基準強度は24N/mm² 以上かつ36N/mm² 以下とする。
ただし、立上り筋D29を採用する場合は設計基準強度27N/mm² 以上かつ36N/mm² 以下とする。

●鉄筋
立上り筋:SD345、SD390
フープ筋:SD295

4.2 配筋・基礎立上り



●立上り筋の下部折り曲げは8d以上とする。

●立上り筋の下部折り曲げは梁下端筋より下方に配筋する。

●基礎立上り部の高さは、50mm以下とする。

●立上り筋の頂部にはフックをもうけなくてよい。

4.3 特記事項

4.1及び4.2によらない場合は下記による。

採用

□ 立上り筋に頂部フックが必要

□ 立上り筋の下部折り曲げ不要

5. 工場製作(溶接)

■組立

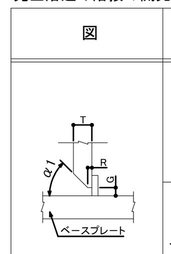
●ベースプレートの中心に柱材軸心を合わせる。

■溶接方法(完全溶込み溶接)

●完全溶込み溶接とする。

(JASS6 鉄骨工事による)

完全溶込み溶接の開先標準(JASS6 鉄骨工事 2018年版より)

図	溶接方法	適用板厚 T(mm)	ルート間隔G(mm) 標準値	ルート間隔G(mm) 許容差	ルート面R(mm) 標準値	ルート面R(mm) 許容差	開先角度α1(°) 標準値	開先角度α1(°) 許容差	溶接姿勢
	被覆アーク溶接	6〜	7	−2,+∞ (−3,+∞)	2	−2,+1 (−2,+2)	α:45	−2.5,+∞ (−5,+∞)	下向き
			9	−2,+∞ (−3,+∞)	2	−2,+1 (−2,+2)	α:35		
	ガスシールドアーク溶接 セルフシールドアーク溶接	6〜	6	−2,+∞ (−3,+∞)	2	−2,+1 (−2,+2)	α:45	−2.5,+∞ (−5,+∞)	下向き
			7	−2,+∞ (−3,+∞)	2	−2,+1 (−2,+2)	α:35		

許容差 ・記号+∞は制限無しを示す。
・2段書きは「鉄骨精度検査基準」に規定する許容差(上段:管理許容差、下段括弧内:限界許容差)を示す。

■ベースプレートの予熱

●気温(鋼材表面温度)が5℃以上でのベースプレートの予熱は次に示す予熱温度標準により行う。
その他必要に応じて適切な予熱をする。

■検査方法:溶接部の検査は超音波探傷検査により行う。探傷は柱側から行う。

■不良溶接部の補正:有害な欠陥のある溶接部は削除再溶接する。

■施工管理:7.本工法の施工及び施工管理参照。

ベースプレートの予熱温度の標準

溶接方法 ＼ 材質・板厚 (mm)	TMCP385B 40≦t≦75
低水素系被覆アーク溶接	50℃
CO_2 ガスシールドアーク溶接	予熱なし

フラックス入りワイヤによる炭酸ガスシールドアーク溶接の予熱温度は、被覆アーク溶接(低水素系)に準じる。

6. 工事場施工

6.1 基礎工事

●柱脚部の捨てコンの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

6.2 アンカーボルトの据付け

●4本仕様のアンカーボルトの据付けは、4隅のアンカーボルト4本で組立を行う。
8本及び12本仕様のアンカーボルトの据付けは、予め捨てコン上にセットされたフレーム上に、定着ベルト・アンカーボルト・テンプレート等でアンカーユニットを組立て、フレームに固定する。

●異形アンカー仕様の定着部材下方に位置するナットはダブルナットとする。

●フレームベースは、ステコンアンカーにより水平に固定する。

●位置決めは、テンプレートの中心位置と地墨等の柱心を合致させることにより行う標準許容差は下図による。

6.3 配筋およびコンクリート打設

●配筋はアンカーフレームもしくはアンカーユニットおよびフレームとの取り合いを考慮する。

●コンクリート打設前にテンプレート位置精度を確認する。

6.4 建方

●レベルモルタル施工は、セレクトベースグラウト(グラウト材)を使用し、大きさは下図による。

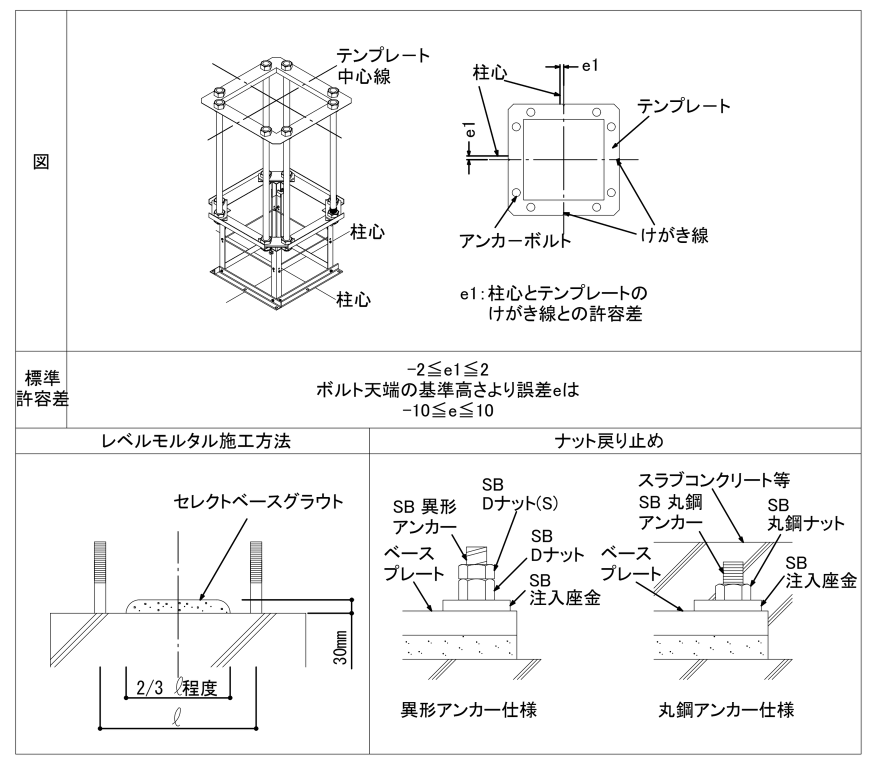
6.5 アンカーボルトの本締め(戻り止め)

●本締めはグラウト材の充填前に行い、異形アンカー仕様はダブルナットを標準とする。丸鋼アンカー仕様はSB丸鋼ナットによるシングルナットを標準とし、コンクリートに埋込む等の戻り止め処置を行う。

6.6 セレクトベースグラウト(グラウト材)の注入

●グラウト材のカクハンは、グラウト材1袋(25kg)に対して、計量カップで4.0〜4.6ℓの水を加え、電動カクハン機で混練することにより行う。

●グラウト材の注入は、グラウトロートを注入座金にセットし、グラウト材の自重圧により他の注入座金からグラウト材が噴き出るまで行う。



7. 本工法の施工及び施工管理

●本工法は、建築施工会社の工事管理者(元請)の管理のもとで実施するものとする。

●本工法のうち6.2アンカーボルトの据付けおよび6.6セレクトベースグラウト(グラウト材)の注入は、ベースパック・セレクトベース施工技術委員会によって認定された有資格者(セレクトベース施工管理技術者・施工技能者)が施工を実施し、チェックシート等により施工管理を行うものとする。

●ベースプレート溶接部の施工管理は、鉄骨製作作業者に属する鉄骨制作管理技術者等による。

特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
	東秩父村新庁舎建設工事			構造	S-010
	図面名称 鉄骨柱脚標準図 (1)				

セレクトベース

角形鋼管

□-350×350 ～ □-1000×1000 用

（一財）日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0314-02」（2021年11月19日付）

セレクトベース柱脚工法　柱脚仕様一覧表

●セレクトベース柱脚工法の設計は「セレクトベース柱脚工法設計ハンドブック」による。

2024年10月作成

採用	セレクトベース記号	柱 外径（mm）	柱 板厚範囲（mm）	ベースプレート 材質	ベースプレート 形状	寸法（mm） plD	t	d1	d2	d3	Φd	アンカーボルト 本数-呼び	埋込長さ（mm）	コンクリート柱型（寸法、補強鉄筋、設計基準強度Fc） 幅（mm）	立上り筋 Fc=24N/mm² 以上36N/mm² 以下 中柱※1 採用	SD345	採用	SD345	側・隅柱 採用	SD345	採用	SD345	立上り筋※2 Fc=27N/mm² 以上36N/mm² 以下 中柱※1 採用	SD345	採用	SD390	側・隅柱 採用	SD345	採用	SD390	フープ筋 中柱	側・隅柱	SB ポスト付き定着板	SB 定着ベルト	SB 連結定着板	SB 定着板	フレームベース内法 寸法 W（mm）	フレームポスト間 寸法 X（mm）	最低h寸法（mm）	J寸法（mm）
	35-4H35	□350	12～25	TMCP385B	(イ)	540	36	60	420	－	55	4-D35H	610	690		12-D22		8-D25		12-D22		8-D25		8-D29		8-D29		8-D29		8-D29	D13@100	D13@100	4D35-6	－	－	－	430	290	860	160
	35-4H41	□350	12～25	TMCP385B	(イ)	560	40	65	430	－	65	4-D41H	710	730		12-D22		8-D25		16-D22		12-D25		8-D29		8-D29		8-D29		8-D29	D13@100	D13@100	4D41-6	－	－	－	420	280	970	180
	35-8H35	□350	12～25	TMCP385B	(ロ)	580	36	50	85	310	55	8-D35H	610	810		16-D22		12-D25		16-D22		12-D25		12-D29		12-D29		12-D29		12-D29	D13@100	D13@100	－	35-8H35	－	－	340	210	860	160
	35-8H38	□350	12～25	TMCP385B	(ロ)	590	36	55	85	310	60	8-D38H	660	810		16-D22		12-D25		20-D22		16-D25		12-D29		12-D29		16-D29		16-D29	D13@100	D13@100	－	35-8H38	－	－	340	210	910	170
	35-8H41	□350	12～25	TMCP385B	(ロ)	600	40	55	100	290	65	8-D41H	710	840		20-D22		16-D25		20-D22		20-D25		12-D29		12-D29		16-D29		16-D29	D13@100	D13@100	－	35-8H41	－	－	350	220	970	180
	40-4H38	□400	14～25	TMCP385B	(イ)	600	36	65	470	－	60	4-D38H	660	770		12-D22		12-D25		12-D22		12-D25		8-D29		8-D29		8-D29		8-D29	D13@100	D13@100	4D38-6	－	－	－	460	320	910	170
	40-4L51	□400	14～25	TMCP385B	(イ)	640	45	75	490	－	75	4-D51L	780	790		16-D22		12-D25		16-D22		12-D25		8-D29		8-D29		12-D29		12-D29	D13@100	D13@100	4D51-6	－	－	－	480	340	1070	210
	40-8H35	□400	14～25	TMCP385B	(ロ)	630	36	50	85	360	55	8-D35H	610	860		16-D22		12-D25		16-D22		16-D25		12-D29		12-D29		12-D29		12-D29	D13@100	D13@100	－	40-8H35	－	－	390	260	860	160
	40-8H38	□400	14～25	TMCP385B	(ロ)	640	36	55	85	360	60	8-D38H	660	860		16-D22		12-D25		20-D22		20-D25		12-D29		12-D29		16-D29		16-D29	D13@100	D13@100	－	40-8H38	－	－	390	260	910	170
	40-8H41	□400	14～25	TMCP385B	(ロ)	650	40	55	100	340	65	8-D41H	710	890		20-D22		16-D25		24-D22		20-D25		12-D29		12-D29		16-D29		16-D29	D13@100	D13@100	－	40-8H41	－	－	400	270	970	180
	45-4H41	□450	14～32	TMCP385B	(イ)	660	40	65	530	－	65	4-D41H	710	830		16-D22		12-D25		16-D22		12-D25		12-D29		12-D29		12-D29		12-D29	D13@100	D13@100	4D41-6	－	－	－	520	380	970	180
	45-4M45	□450	14～32	TMCP385B	(イ)	660	40	65	530	－	65	4-M45	780	840		16-D22		12-D25		16-D22		12-D25		12-D29		12-D29		12-D29		12-D29	D13@100	D13@100	4M45-16	－	－	－	530	390	1050	150
	45-8H35	□450	14～32	TMCP385B	(ロ)	680	40	50	85	410	55	8-D35H	610	890		20-D22		16-D25		20-D22		16-D25		12-D29		12-D29		12-D29		12-D29	D16@100	D16@100	－	45-8H35	－	－	440	310	860	160
	45-8H38	□450	14～32	TMCP385B	(ロ)	700	40	55	85	420	60	8-D38H	660	900		20-D22		16-D25		20-D22		16-D25		12-D29		12-D29		16-D29		16-D29	D16@100	D16@100	－	45-8H38	－	－	450	320	910	170
	45-8H41	□450	14～32	TMCP385B	(ロ)	700	40	55	100	390	65	8-D41H	710	900		20-D22		16-D25		24-D22		16-D25		12-D29		12-D29		16-D29		16-D29	D16@100	D16@100	－	45-8H41	－	－	450	320	970	180
	50-4H41	□500	16～36	TMCP385B	(イ)	700	40	65	570	－	65	4-D41H	710	870		16-D22		12-D25		16-D22		12-D25		12-D29		12-D29		12-D29		12-D29	D13@100	D13@100	4D41-6	－	－	－	560	420	970	180
	50-8H38	□500	16～36	TMCP385B	(ロ)	760	40	60	85	470	60	8-D38H	660	950		20-D22		16-D25		20-D22		16-D25		12-D29		12-D29		16-D29		16-D29	D16@100	D16@100	－	50-8H38	－	－	500	370	910	170
	50-8H41	□500	16～36	TMCP385B	(ロ)	760	40	55	100	450	65	8-D41H	710	960		20-D22		16-D25		24-D22		20-D25		12-D29		12-D29		16-D29		16-D29	D16@100	D16@100	－	50-8H41	－	－	510	380	970	180
	50-8L51	□500	16～36	TMCP385B	(ロ)	810	40	70	115	440	75	8-D51L	780	1000		24-D22		20-D25		28-D22		20-D25		16-D29		16-D29		16-D29		20-D29	D16@100	D16@100	－	50-8L51	－	－	530	400	1070	210
	50-8H51	□500	16～36	TMCP385B	(ロ)	800	50	65	115	440	75	8-D51H	880	1060		32-D22		24-D25		36-D22		28-D25		20-D29		20-D29		20-D29		20-D29	D16@100	D16@100	－	50-8H51	－	－	530	400	1170	220
	50-8M52	□500	16～36	TMCP385B	(ロ)	800	50	65	115	440	70	8-M52	900	1050		36-D22		28-D25		40-D22		28-D25		24-D29		16-D29		24-D29		20-D29	D16@100	D16@100	－	50-8M52	8M52-9	－	530	400	1170	165
	55-4L51	□550	16～40	TMCP385B	(イ)	790	45	75	640	－	75	4-D51L	780	950		20-D22		16-D25		20-D22		16-D25		12-D29		12-D29		12-D29		12-D29	D13@100	D13@100	4D51-6	－	－	－	630	490	1070	210
	55-8H41	□550	16～40	TMCP385B	(ロ)	810	40	55	100	500	65	8-D41H	710	1010		24-D22		20-D25		24-D22		20-D25		16-D29		16-D29		16-D29		16-D29	D16@100	D16@100	－	55-8H41	－	－	560	430	970	180
	55-8L51	□550	16～40	TMCP385B	(ロ)	850	40	65	115	490	75	8-D51L	780	1050		28-D22		20-D25		28-D22		24-D25		16-D29		16-D29		16-D29		20-D29	D16@100	D16@100	－	55-8L51	－	－	580	450	1070	210
	55-8M52	□550	16～40	TMCP385B	(ロ)	850	55	65	115	490	70	8-M52	900	1100		36-D22		28-D25		40-D22		32-D25		24-D29		16-D29		24-D29		20-D29	D16@100	D16@100	－	55-8M52	8M52-9	－	580	450	1170	165
	55-8M60	□550	16～40	TMCP385B	(ロ)	870	60	70	135	460	80	8-M60	1030	1220		48-D22		36-D25		52-D22		40-D25		28-D29		20-D29		32-D29		28-D29	D16@100	D16@100	－	55-8M60	8M60-12	－	590	460	1310	180
	60-4M52	□600	22～40	TMCP385B	(イ)	800	45	70	660	－	70	4-M52	900	1010		24-D22		20-D25		24-D22		20-D25		16-D29		16-D29		16-D29		16-D29	D16@100	D16@100	4M52-19	－	－	－	642	502	1150	165
	60-8M45	□600	22～40	TMCP385B	(ロ)	860	50	55	100	550	65	8-M45	780	1080		28-D22		20-D25		28-D22		24-D25		16-D29		16-D29		20-D29		20-D29	D16@100	D16@100	－	60-8M45	－	－	610	480	1050	150
	60-8M52	□600	22～40	TMCP385B	(ロ)	900	55	65	115	540	70	8-M52	900	1140		40-D22		32-D25		40-D22		32-D25		24-D29		20-D29		24-D29		20-D29	D16@100	D16@100	－	60-8M52	8M52-9	－	630	500	1170	165
	60-8M60	□600	22～40	TMCP385B	(ロ)	920	60	70	135	510	80	8-M60	1030	1190		52-D22		40-D25		52-D22		40-D25		32-D29		20-D29		32-D29		28-D29	D16@100	D16@75	－	60-8M60	8M60-12	－	640	510	1310	180
	60-8M64	□600	22～40	TMCP385B	(ロ)	950	60	80	135	520	85	8-M64	1100	1250		56-D22		44-D25		60-D22		44-D25		36-D29		20-D29		36-D29		32-D29	D16@100	D16@75	－	60-8M64	8M64-16	－	650	520	1380	185
	65-4M56	□650	22～40	TMCP385B	(イ)	870	50	75	720	－	75	4-M56	970	1070		24-D22		20-D25		24-D22		20-D25		16-D29		16-D29		16-D29		16-D29	D16@100	D16@100	4M56-22	－	－	－	702	562	1250	170
	65-8M48	□650	22～40	TMCP385B	(ロ)	930	55	60	100	610	65	8-M48	830	1160		32-D22		28-D25		36-D22		28-D25		20-D29		20-D29		24-D29		24-D29	D16@100	D16@100	－	65-8M48	－	－	670	540	1100	150
	65-8M56	□650	22～40	TMCP385B	(ロ)	950	60	65	115	590	75	8-M56	970	1190		44-D22		36-D25		48-D22		36-D25		28-D29		20-D29		28-D29		24-D29	D16@100	D16@75	－	65-8M56	8M56-12	－	680	550	1250	170
	65-8M60	□650	22～40	TMCP385B	(ロ)	970	60	70	135	560	80	8-M60	1030	1230		52-D22		40-D25		56-D22		44-D25		32-D29		20-D29		32-D29		28-D29	D16@100	D16@75	－	65-8M60	8M60-12	－	690	560	1310	180
	65-8M64	□650	22～40	TMCP385B	(ロ)	990	65	75	135	570	85	8-M64	1100	1300		60-D22		44-D25		60-D22		48-D25		36-D29		24-D29		36-D29		32-D29	D16@100	D16@75	－	65-8M64	8M64-16	－	700	570	1380	185
	70-4M56	□700	25～40	TMCP385B	(イ)	910	50	75	760	－	75	4-M56	970	1110		28-D22		20-D25		28-D22		20-D25		16-D29		16-D29		16-D29		16-D29	D16@100	D16@100	4M56-22	－	－	－	742	602	1250	170
	70-8M52	□700	25～40	TMCP385B	(ロ)	1000	55	65	115	640	70	8-M52	900	1230		40-D22		32-D25		44-D22		32-D25		24-D29		20-D29		28-D29		24-D29	D16@100	D16@100	－	70-8M52	8M52-9	－	730	600	1170	165
	70-8M60	□700	25～40	TMCP385B	(ロ)	1020	60	70	135	610	80	8-M60	1030	1270		56-D22		44-D25		56-D22		44-D25		32-D29		20-D29		36-D29		28-D29	D16@100	D16@75	－	70-8M60	8M60-12	－	740	610	1310	180
	70-12M56	□700	25～40	TMCP385B	(ハ)	1050	60	90	220	430	75	12-M56	970	1450		68-D22		52-D25		64-D22		48-D25		44-D29		28-D29		40-D29		32-D29	D16@100	▦ D16@100	－	70-12M56	70-12M56-12	12M56-12	730	600	1250	170
	70-12M60	□700	25～40	TMCP385B	(ハ)	1050	65	85	220	440	80	12-M60	1030	1670		72-D22		56-D25		68-D22		52-D25		44-D29		36-D29		44-D29		36-D29	D16@75	▦ D16@100	－	70-12M60	70-12M60-12	12M60-12	740	610	1310	180
	75-4M60	□750	25～40	TMCP385B	(イ)	970	55	75	820	－	80	4-M60	1030	1170		32-D22		24-D25		32-D22		24-D25		20-D29		20-D29		20-D29		20-D29	D16@100	D16@100	4M60-22	－	－	－	802	662	1290	180
	75-8M56	□750	25～40	TMCP385B	(ロ)	1050	60	65	115	690	75	8-M56	970	1290		48-D22		36-D25		52-D22		40-D25		28-D29		24-D29		32-D29		24-D29	D16@100	D16@100	－	75-8M56	8M56-12	－	780	650	1250	170
	75-12M52	□750	25～40	TMCP385B	(ハ)	1080	55	80	230	460	70	12-M52	900	1430		64-D22		48-D25		60-D22		44-D25		40-D29		28-D29		36-D29		32-D29	D16@100	▦ D16@100	－	75-12M52	75-12M52-9	12M52-9	780	650	1170	165
	75-12M60	□750	25～40	TMCP385B	(ハ)	1110	60	90	235	460	80	12-M60	1030	1660		76-D22		60-D25		72-D22		56-D25		48-D29		36-D29		44-D29		36-D29	D16@75	▦ D16@100	－	75-12M60	75-12M60-12	12M60-12	790	660	1310	180
	75-12M64	□750	25～40	TMCP385B	(ハ)	1130	70	95	235	470	85	12-M64	1100	1720		88-D22		68-D25		84-D22		64-D25		52-D29		40-D29		48-D29		44-D29	D16@75	▦ D16@100	－	75-12M64	75-12M64-16	12M64-16	800	670	1380	185
	80-8M52	□800	25～40	TMCP385B	(ロ)	1110	60	70	115	740	70	8-M52	900	1330		44-D22		32-D25		44-D22		36-D25		24-D29		24-D29		28-D29		24-D29	D16@100	D16@100	－	80-8M52	8M52-9	－	830	700	1170	165
	80-8M64	□800	25～40	TMCP385B	(ロ)	1140	65	75	135	720	85	8-M64	1100	1380		68-D22		52-D25		60-D22		48-D25		40-D29		24-D29		36-D29		32-D29	D16@100	▦ D16@100	－	80-8M64	8M64-16	－	850	720	1380	185
	80-12M60	□800	25～40	TMCP385B	(ハ)	1150	65	85	245	490	80	12-M60	1030	1710		76-D22		60-D25		76-D22		56-D25		48-D29		36-D29		44-D29		40-D29	D16@75	▦ D16@100	－	80-12M60	80-12M60-12	12M60-12	840	710	1310	180
	80-12M64	□800	25～40	TMCP385B	(ハ)	1180	70	95	250	490	85	12-M64	1100	1790		88-D22		68-D25		84-D22		64-D25		52-D29		40-D29		48-D29		40-D29	D16@75	▦ D16@100	－	80-12M64	80-12M64-16	12M64-16	850	720	1380	185
	85-8M56	□850	28～40	TMCP385B	(ロ)	1160	60	70	115	790	75	8-M56	970	1390		48-D22		36-D25		44-D22		36-D25		28-D29		24-D29		28-D29		20-D29	D16@100	▦ D16@100	－	85-8M56	8M56-12	－	880	750	1250	170
	85-12M56	□850	28～40	TMCP385B	(ハ)	1190	55	85	255	510	75	12-M56	970	1550		72-D22		56-D25		68-D22		52-D25		44-D29		32-D29		40-D29		36-D29	D16@100	▦ D16@100	－	85-12M56	85-12M56-12	12M56-12	880	750	1250	170
	85-12M64	□850	28～40	TMCP385B	(ハ)	1230	70	95	260	520	85	12-M64	1100	1870		88-D22		68-D25		84-D22		64-D25		52-D29		44-D29		48-D29		40-D29	D16@75	▦ D16@100	－	85-12M64	85-12M64-16	12M64-16	900	770	1380	185
	90-8M60	□900	32～40	TMCP385B	(ロ)	1220	60	70	135	810	80	8-M60	1030	1450		60-D22		44-D25		56-D22		44-D25		36-D29		28-D29		32-D29		28-D29	D16@100	▦ D16@100	－	90-8M60	8M60-12	－	940	810	1310	180
	90-12M56	□900	32～40	TMCP385B	(ハ)	1240	55	85	270	530	75	12-M56	970	1600		76-D22		56-D25		68-D22		52-D25		44-D29		32-D29		44-D29		36-D29	D16@100	▦ D16@100	－	90-12M56	90-12M56-12	12M56-12	930	800	1250	170
	90-12M64	□900	32～40	TMCP385B	(ハ)	1280	70	95	275	540	85	12-M64	1100	1890		88-D22		68-D25		84-D22		64-D25		52-D29		48-D29		52-D29		40-D29	D16@75	▦ D16@100	－	90-12M64	90-12M64-16	12M64-16	950	820	1380	185
	95-8M64	□950	32～40	TMCP385B	(ロ)	1290	65	75	135	870	85	8-M64	1100	1530		68-D22		52-D25		64-D22		48-D25		40-D29		28-D29		40-D29		32-D29	D16@100	▦ D16@100	－	95-8M64	8M64-16	－	1000	870	1380	185
	95-12M60	□950	32～40	TMCP385B	(ハ)	1300	60	85	285	560	80	12-M60	1030	1790		84-D22		64-D25		80-D22		60-D25		48-D29		40-D29		48-D29		40-D29	D16@75	▦ D16@100	－	95-12M60	95-12M60-12	12M60-12	990	860	1310	180
	95-12M64	□950	32～40	TMCP385B	(ハ)	1330	70	95	285	570	85	12-M64	1100	1870		92-D22		72-D25		88-D22		68-D25		56-D29		44-D29		52-D29		44-D29	D16@75	▦ D16@100	－	95-12M64	95-12M64-16	12M64-16	1000	870	1380	185
	100-8M64	□1000	32～40	TMCP385B	(ロ)	1340	65	75	135	920	85	8-M64	1100	1580		68-D22		52-D25		64-D22		52-D25		44-D29		32-D29		40-D29		32-D29	D16@100	▦ D16@100	－	100-8M64	8M64-16	－	1050	920	1380	185
	100-12M60	□1000	32～40	TMCP385B	(ハ)	1350	60	85	295	590	80	12-M60	1030	1860		84-D22		64-D25		80-D22		60-D25		48-D29		44-D29		48-D29		40-D29	D16@75	▦ D16@100	－	100-12M60	100-12M60-12	12M60-12	1040	910	1310	180
	100-12M64	□1000	32～40	TMCP385B	(ハ)	1380	70	95	300	590	85	12-M64	1100	1930		92-D22		72-D25		88-D22		68-D25		56-D29		48-D29		52-D29		44-D29	D16@75	▦ D16@100	－	100-12M64	100-12M64-16	12M64-16	1050	920	1380	185

※1 立上り部の高さが50mm以下の基礎梁が4方向から取り付く場合は中柱とする。
ただし中柱であっても、取り付く基礎梁内のスタラップ筋がD13@200を下回る場合は、側・隅柱による。

※2 立上り筋D29を採用する場合はコンクリートの設計基準強度27N/mm 以上かつ36N/mm 以下とする。

特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
	東秩父村新庁舎建設工事			構造	S-010a
	図面名称 鉄骨柱脚標準図 (2)				

円形鋼管用
ベースパック

円形鋼管
F値235N/mm^2　φ190～φ812 用
F値325N/mm^{2}以下　φ190～φ812 用

（一財）日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0093-19」（令和6年6月21日付）

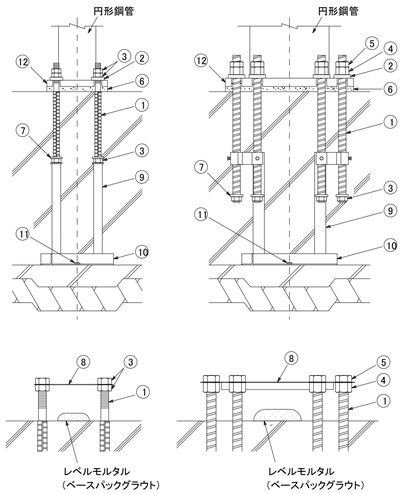
ベースパック柱脚工法　標準図

●ベースパック柱脚工法の設計は「ベースパック柱脚工法設計ハンドブック」による。
●本標準図は1/2～2/2で構成されている。

2024年10月作成

1. 工法概要

1. 1　構成部材

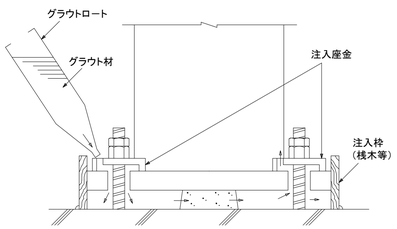


（Mアンカーボルト）　（Dアンカーボルト）

①アンカーボルト
②注入座金
③Mナット
④Dナット
⑤Dナット(S)
⑥ベースパックグラウト(グラウト材)
⑦定着座金
⑧テンプレート
⑨フレームポスト
⑩フレームベース
⑪ステコンアンカー（コンクリートアンカー）
⑫ベースプレート

(注)上記①～⑫の構成部材はベースパック構成部品として供給される。
(注)上記⑧～⑪は現場状況により仕様が異なる場合がある。
(注)アンカーボルト12本の場合はつなぎプレートが取り付く。

1. 2　柱脚の定着方法概要



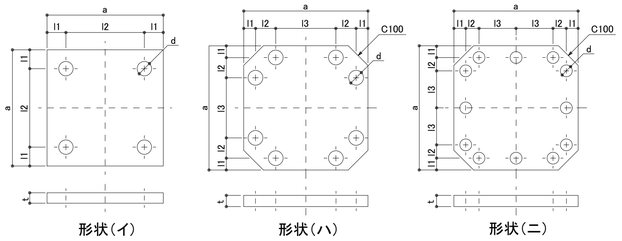
2. 柱

F値(N/mm^2)	鋼種	採用
235	STK400	
	STKN400	
325	STK490	
	STKN490	

3. 構成部材・寸法

3. 1　ベースプレート

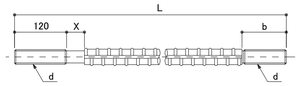
●材質
SN490B　【JIS G 3136】
TMCP325B　【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】
TMCP385B　【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】
BT-HT440B-SP　【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】
（建築構造用高溶接性高性能590N/mm^2 鋼材）



3. 2　アンカーボルト【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

●Mアンカーボルト

i) アンカーフレーム Aタイプ の場合

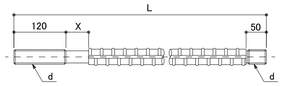


単位 mm

呼び d	異形部呼び名	L 注1)	X	b 注1)	基準強度 (N/mm^2)
M30	D32	695	45	133	490
M33	D35	690,735	45	95,140	490

注1)据付け高さが低い場合に短いアンカーボルトを使用する。

ii) アンカーフレーム Cタイプ の場合

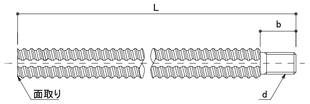


単位 mm

呼び d	異形部呼び名	L	X	基準強度 (N/mm^2)
M30	D32	695	45	490
M33	D35	720	45	490

●Dアンカーボルト

iii) アンカーフレーム Cタイプ・Dタイプ の場合

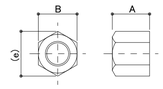


単位 mm

呼び	L	b	端部ねじd	基準強度(N/mm^2)
D38	850	46	M33	390
D41	900	49	M36	390
D41H	995	49	M36	490
D51	1110	57	M45	390
D51H	1215	57	M45	490

3. 3　Mナット・Dナット

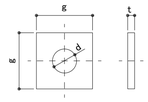
【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】



単位 mm

	呼び	A	B	(e)
Mナット	M30	24	46	53
	M33	26	50	58
	M36	29	55	64
	M45	36	70	81
Dナット	D38	45	65	75
	D41	48	70	80
	D51	60	80	92
Dナット(S)	D38	30	65	75
	D41	32	70	80
	D51	40	80	92

3. 4　定着座金



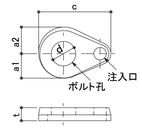
単位 mm

適用アンカーボルト	g	t	d	材質
M30	55	9	31	SS400
M33	60	9	34	
D38	65	12	37	
D41,D41H	70	12	37	SS490
D51,D51H	85	12	46	

3. 5　注入座金

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料,SS490】

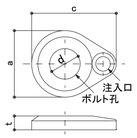
i) Mアンカーボルト用



単位 mm

記号	適用アンカーボルト	a1	a2	c	t	d
PM30	M30	32	42	101	18	31
PM33	M33	35	45	110	18	34

ii) Dアンカーボルト用

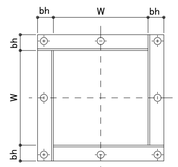


単位 mm

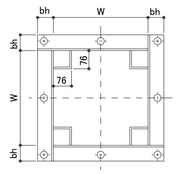
記号	適用アンカーボルト	a	c	t	d
PD38	D38	96	122	20	43
PD41	D41,D41H	100	127	20	46
PD51	D51	110	140	20	58

3. 6　フレームベース

i）　Aタイプ・Cタイプ



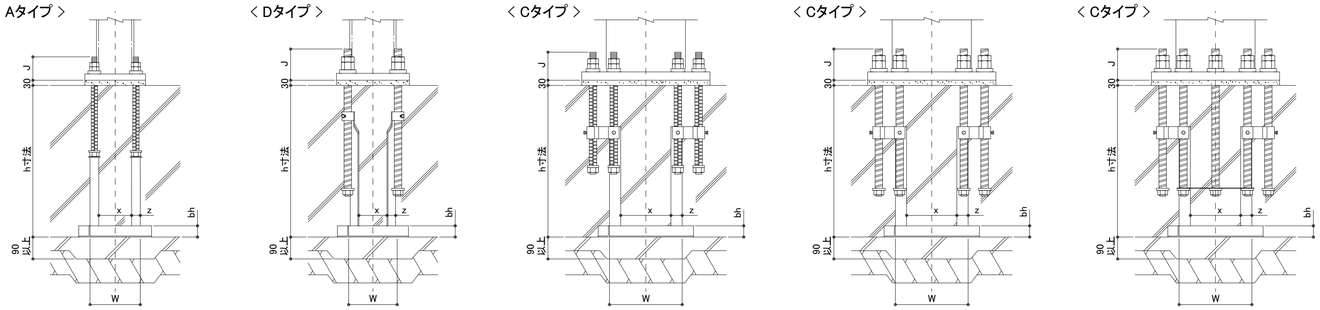
ii）　Dタイプ



3. 7　アンカーフレーム形状および据付け時諸寸法

●ベースパックの据付け高さ(h寸法)はフレームベース下端からコンクリート柱型天端までを示す。据付けに最低限必要な高さ(最低h寸法)は「円形鋼管用ベースパック柱脚工法設計施工標準図2/2」(以下「標準図2/2」と記す)の表に記載の値とする。

＜Aタイプ＞　＜Dタイプ＞　＜Cタイプ＞　＜Cタイプ＞　＜Cタイプ＞



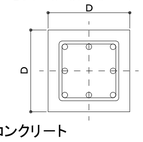
（Mアンカーボルト4本）　（Dアンカーボルト4本）　（Mアンカーボルト8本）　（Dアンカーボルト8本）　（Dアンカーボルト12本）

単位 mm

4. コンクリート柱型

4. 1　形状・材質

●形状
形状は正方形とし、寸法は「標準図2/2」表に記載の値とする。

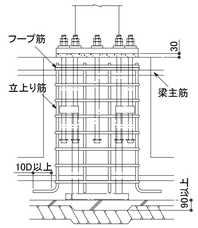


●コンクリート
普通コンクリートとし、設計基準強度は「標準図2/2」表に記載の値とする。

●鉄筋
SD295(D13,D16)
SD345(D19,D22,D25)

4. 2　配筋

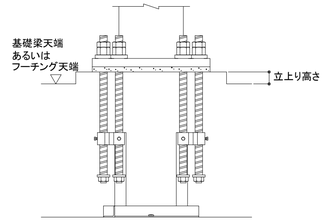
配筋仕様は「標準図2/2」の表による。



※立上り筋の頂部にはフックを設けなくてよい。
※トップフープはダブルとし、柱型上端近くに配置する。

4. 3　基礎立上がり

●基礎立上がり高さは50mm以下とする。



4. 4　特記事項

上記内容によらない場合は下記による。

採用
☐「標準図2/2」表標準柱型寸法からの変更あり（「柱型寸法最大・最小値一覧」による）
☐「標準図2/2」表標準配筋仕様からの変更あり
☐ 立上り筋に頂部フックが必要

5. 工場製作（溶接）

■組立
●ベースプレートの中心線（ケガキ線）に柱材軸心を合わせる。

■溶接方法（完全溶込み溶接）
●完全溶込み溶接とする。JASS 6　鉄骨工事による）
完全溶込み溶接の開先標準（JASS 6　鉄骨工事 2018年版より）

図	溶接方法	適用板厚T(mm)	ルート間隔G(mm) 標準値	ルート間隔G(mm) 許容差	ルート面R(mm) 標準値	ルート面R(mm) 許容差	開先角度α1(°) 標準値	開先角度α1(°) 許容差	溶接姿勢
	被覆アーク溶接	6～	7	−2,+∞ (−3,+∞)	2	−2,+1 (−2,+2)	α1:45	−2.5,+∞ (−5,+∞)	下向き
			9	−2,+∞ (−3,+∞)	2	−2,+1 (−2,+2)	α1:35		
	ガスシールドアーク溶接 セルフシールドアーク溶接	6～	6	−2,+∞ (−3,+∞)	2	−2,+1 (−2,+2)	α1:45	−2.5,+∞ (−5,+∞)	下向き
			7	−2,+∞ (−3,+∞)	2	−2,+1 (−2,+2)	α1:35		

許容差- 記号+∞は制限無しを示す。

■ベースプレートの予熱
●気温(鋼材表面温度)が5°C以上でのベースプレートの予熱は次に示す予熱温度標準により行う。その他必要に応じて適切な予熱をする。

溶接方法	鋼種	板厚(mm) 32≦t＜40	40≦t≦50	50＜t≦75
低水素系被覆アーク溶接	SN490B	50 ℃	50 ℃	
	BT-HT440B-SP		予熱なし	予熱なし
	TMCP325B		25 ℃	
	TMCP385B ※2		50 ℃	
CO_2ガスシールドアーク溶接 ※1	SN490B	予熱なし	予熱なし	
	BT-HT440B-SP		予熱なし	予熱なし
	TMCP325B		予熱なし	
	TMCP385B ※2		予熱なし	

※2「建築構造用TMCP鋼材溶接施工指針(2021)」に準拠し、TMTMCP385Bは上記予熱温度の適用に当たり、各メーカーのJ形溶接割れ試験(JIS Z 3158による)の実績または溶接施工指針を確認している。

■検査方法：溶接部の検査は超音波探傷検査により行う。
■施工管理：7. 本工法の施工及び施工管理参照。

特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
	東秩父村新庁舎建設工事			構造	S-011
	図面名称 鉄骨柱脚標準図 (3)				

円形鋼管用
ベースパック

円形鋼管

F値235N/mm^2　　φ190～φ812 用
F値325N/mm^{2}以下　φ190～φ812 用

（一財）日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0093-19」（令和6年6月21日付）

ベースパック柱脚工法　標準図

●ベースパック柱脚工法の設計は「ベースパック柱脚工法設計ハンドブック」による。
●本標準図は1/2～2/2で構成されている。

2024年10月作成

6. 工事場施工

6．1　基礎工事

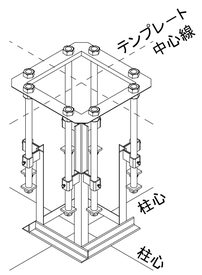
●柱脚部の捨コンの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

6．2　アンカーボルト据付け

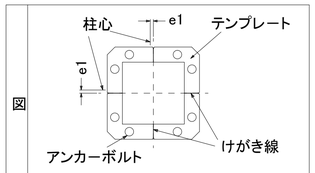
●アンカーボルト（フレーム）の組立ては、4隅のアンカーボルト4本(8本)で組立てを行う。

●フレームベースはステコンアンカーにより水平に固定する。

●位置決めは、テンプレートの中心線と地墨等の柱心を合致させることにより行い、標準許容差は下図による。



図



e1 :柱心とテンプレートのけがき線との許容差

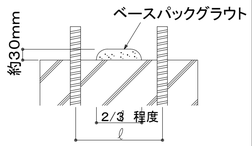
標準許容差　-2≦e1≦2
基準高さより誤差は
-3≦e≦10

6．3　配筋およびコンクリート打設

●配筋はアンカーボルト（フレーム）との取り合いを考慮する。
●コンクリート打設前にテンプレート位置精度を確認する。

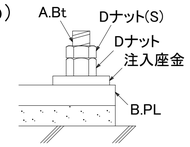
6．4　建方

●レベルモルタルはベースパックグラウト（グラウト材）を使用し大きさは右図による。



6．5　アンカーボルトの本締め（弛み止め）

●本締めはグラウト材の充填前に行い、ダブルナットを標準とする。
●Dナット(S)による弛み止めは右図による。



6．6　ベースパックグラウト(グラウト材)の注入

●グラウト材のカクハンは、グラウト材1袋(6kg)に対して、計量カップで1.0～1.1ℓの水を加え、電動カクハン機で混練することにより行う。

●グラウト材の注入は、グラウトロートを注入座金にセットし、グラウト材の自重圧により他の注入座金からグラウト材が噴き出るまで行う。

7. 本工法の施工及び施工管理

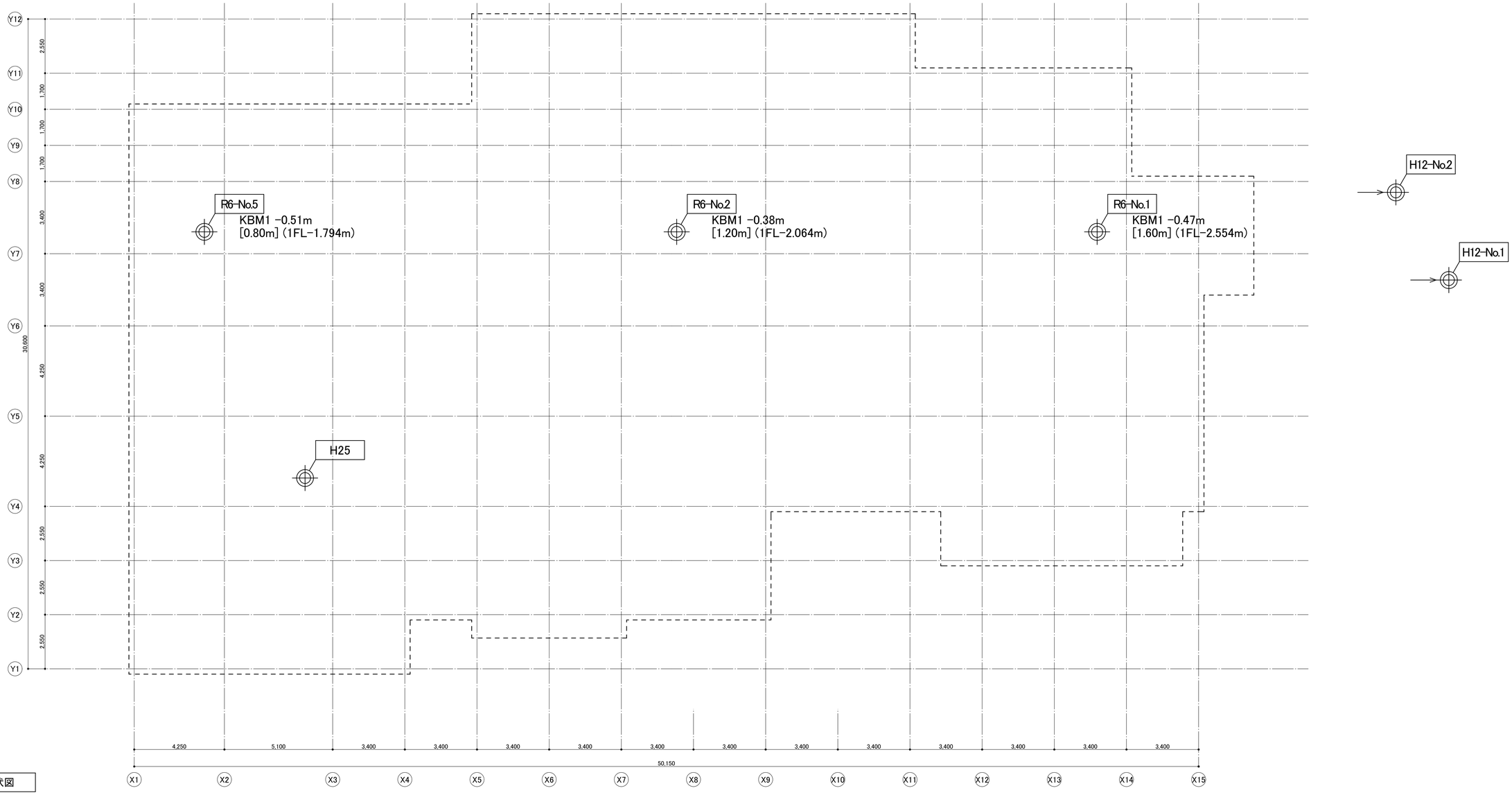
●本工法は、管理者又は施工者（元請）の管理のもとで実施するものとする。

●本工法のうち6．2アンカーボルト据付け及び6．6ベースパックグラウトの注入は、ベースパック・セレクトベース施工技術委員会によって認定された有資格者（ベースパック施工管理技術者・施工技能者）が施工を実施し、チェックシート等により施工管理を行うものとする。

●ベースプレート溶接部の施工管理は、鉄骨製作業者に属する鉄骨製作管理技術者等による。

種別	採用	ベースパック記号	柱 外径(mm)	柱 板厚(mm)	ベースプレート 材質	形状	寸法(mm) a	t	l1	l2	l3	d	アンカーボルト 本数-呼び	基準強度 (N/mm^2)	コンクリート柱型 寸法(mm) D	配筋 立上り筋	配筋 フープ筋	設計基準強度 (N/mm^2)	アンカーフレームタイプ	フレームベース 寸法(mm) W	bh	フレームポスト間 寸法(mm) x	z	最低h寸法 (mm)	J寸法 (mm)
V2 柱材F値235用		216-13V2	φ190.7,φ216.3	t≦12.7	SN490B	(イ)	350	36	55	240	－	φ45	4-M30	490	540	12-D16	D13@100	21以上	A	290	50	190	50	600	135
		216-16V2	φ190.7,φ216.3	t≦16.0	SN490B	(イ)	350	36	55	240	－	φ50	4-M33	490	540	12-D19	D13@100	21以上	A	290	50	190	50	600	135
		267-13V2	φ267.4	t≦12.7	SN490B	(イ)	400	36	55	290	－	φ50	4-M33	490	590	12-D19	D13@100	21以上	A	340	50	240	50	600	135
		267-16V2	φ267.4	t≦16.0	SN490B	(イ)	420	40	65	290	－	φ60	4-D38	390	580	12-D19	D13@100	21以上	D	324	50	184	50	800	180
		318-13V2	φ300.0,φ318.5	t≦12.7	SN490B	(イ)	460	40	65	330	－	φ60	4-D38	390	610	12-D19	D13@100	21以上	D	364	50	224	50	800	180
		318-16V2	φ300.0,φ318.5	t≦16.0	SN490B,TMCP325B,TMCP385B	(イ)	460	50	65	330	－	φ65	4-D41	390	610	12-D19	D13@100	21以上	D	364	50	224	50	800	190
		318-25V2	φ300.0,φ318.5	t≦25.0	SN490B,TMCP325B,TMCP385B	(ハ)	530	50	65	85	230	φ60	8-D38	390	690	12-D22	D13@100	21以上	C	280	65	150	65	800	180
		355-13V2	φ350.0,φ355.6	t≦12.7	SN490B	(ハ)	540	36	55	85	260	φ45	8-M30	490	700	16-D19	D13@100	21以上	C	310	50	210	50	600	135
		355-16V2	φ350.0,φ355.6	t≦16.0	SN490B	(ハ)	540	40	55	85	260	φ50	8-M33	490	710	16-D19	D13@100	21以上	C	310	50	210	50	650	135
		355-22V2	φ350.0,φ355.6	t≦22.0	SN490B,TMCP325B,TMCP385B	(ハ)	560	50	65	85	260	φ60	8-D38	390	720	20-D19	D13@100	21以上	C	310	65	180	65	800	180
		406-13V2	φ400.0,φ406.4	t≦12.7	SN490B	(ハ)	600	40	65	85	300	φ45	8-M30	490	750	16-D19	D13@100	21以上	C	350	50	250	50	600	135
		406-19V2	φ400.0,φ406.4	t≦19.0	SN490B,TMCP325B,TMCP385B	(ハ)	600	50	65	85	300	φ60	8-D38	390	760	16-D19	D13@100	21以上	C	350	65	220	65	800	180
		406-22V2	φ400.0,φ406.4	t≦22.0	SN490B,TMCP325B,TMCP385B	(ハ)	600	50	65	85	300	φ65	8-D41	390	760	20-D19	D13@100	21以上	C	350	65	220	65	800	190
		406-25V2	φ400.0,φ406.4	t≦25.0	BT-HT440B-SP	(ハ)	610	44	70	85	300	φ65	8-D41H	490	800	20-D19	D13@100	21以上	C	350	65	220	65	850	200
		457-13V2	φ450.0,φ457.2	t≦12.7	SN490B	(ハ)	610	40	55	85	330	φ50	8-M33	490	790	20-D19	D13@100	21以上	C	380	50	280	50	650	135
		457-19V2	φ450.0,φ457.2	t≦19.0	SN490B,TMCP325B,TMCP385B	(ハ)	630	50	65	85	330	φ65	8-D41	390	800	20-D22	D13@100	21以上	C	380	65	250	65	800	190
		457-25V2	φ450.0,φ457.2	t≦25.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	740	48	65	120	185	φ60	12-D38	390	930	20-D22	D13@100	21以上	C	420	65	290	65	800	180
		457-36V2	φ450.0,φ457.2	t≦36.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	740	60	65	120	185	φ65	12-D41H	490	980	24-D22	D13@100	21以上	C	420	65	290	65	850	200
		508-14V2	φ500.0,φ508.0	t≦14.0	SN490B,TMCP325B,TMCP385B	(ハ)	700	50	65	85	400	φ60	8-D38	390	860	20-D19	D13@100	21以上	C	450	65	320	65	800	180
		508-22V2	φ500.0,φ508.0	t≦22.0	BT-HT440B-SP	(ハ)	700	52	65	85	400	φ65	8-D41H	490	920	24-D22	D13@100	21以上	C	450	65	320	65	850	200
		508-32V2	φ500.0,φ508.0	t≦32.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	810	60	65	135	205	φ65	12-D41H	490	1000	24-D22	D13@100	21以上	C	460	65	330	65	850	200
		508-40V2	φ500.0,φ508.0	t≦40.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	830	65	75	135	205	φ75	12-D51	390	1050	28-D22	D16@100	24以上	C	470	65	340	65	950	230
		558-16V2	φ550.0,φ558.8	t≦16.0	BT-HT440B-SP	(ハ)	710	48	65	85	410	φ65	8-D41H	490	900	20-D22	D13@100	24以上	C	460	65	330	65	850	200
		558-28V2	φ550.0,φ558.8	t≦28.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	850	60	65	135	225	φ65	12-D41H	490	1050	24-D22	D16@100	24以上	C	500	65	370	65	850	200
		558-36V2	φ550.0,φ558.8	t≦36.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	870	65	75	135	225	φ75	12-D51	390	1100	28-D22	D16@100	24以上	C	510	65	380	65	950	230
		609-22V2	φ600.0,φ609.6	t≦22.0	BT-HT440B-SP	(ハ)	820	52	80	110	440	φ75	8-D51	390	1000	24-D22	D16@100	24以上	C	500	65	370	65	950	230
		609-28V2	φ600.0,φ609.6	t≦28.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	910	60	75	155	225	φ75	12-D51	390	1100	28-D22	D16@100	24以上	C	510	65	380	65	950	230
		609-36V2	φ600.0,φ609.6	t≦36.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	910	65	75	155	225	φ75	12-D51	390	1150	24-D25	D16@100	24以上	C	510	65	380	65	950	230
		660-28V2	φ650.0,φ660.4	t≦28.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	970	65	75	160	250	φ75	12-D51	390	1150	28-D22	D16@100	24以上	C	560	65	430	65	950	230
		660-36V2	φ650.0,φ660.4	t≦36.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	970	70	75	160	250	φ75	12-D51H	490	1200	28-D25	D16@100	24以上	C	560	65	430	65	1050	235
		711-28V2	φ700.0,φ711.2	t≦28.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	1030	65	75	175	265	φ75	12-D51	390	1250	28-D25	D16@100	24以上	C	590	65	460	65	950	230
		711-32V2	φ700.0,φ711.2	t≦32.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	1030	70	75	175	265	φ75	12-D51H	490	1300	28-D25	D16@100	24以上	C	590	65	460	65	1050	235
		762-25V2	φ750.0,φ762.0	t≦25.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	1070	65	75	185	275	φ75	12-D51	390	1270	28-D25	D16@100	24以上	C	610	65	480	65	950	230
		762-28V2	φ750.0,φ762.0	t≦28.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	1070	70	75	185	275	φ75	12-D51H	490	1300	28-D25	D16@100	24以上	C	610	65	480	65	1050	235
		812-22V2	φ800.0,φ812.8	t≦22.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	1150	65	75	200	300	φ75	12-D51	390	1350	32-D25	D16@100	24以上	C	660	65	530	65	950	230
		812-28V2	φ800.0,φ812.8	t≦28.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	1150	70	75	200	300	φ75	12-D51H	490	1400	32-D25	D16@100	24以上	C	660	65	530	65	1050	235
V3 柱材F値325以下用		216-10V3	φ190.7 φ216.3	t≦12.7 t≦9.5	SN490B	(イ)	350	36	55	240	－	φ45	4-M30	490	540	12-D16	D13@100	21以上	A	290	50	190	50	600	135
		216-13V3	φ216.3	t≦12.7	SN490B	(イ)	350	36	55	240	－	φ50	4-M33	490	540	12-D19	D13@100	21以上	A	290	50	190	50	600	135
		267-09V3	φ267.4	t≦9.3	SN490B	(イ)	400	36	55	290	－	φ50	4-M33	490	590	12-D19	D13@100	21以上	A	340	50	240	50	600	135
		267-13V3	φ267.4	t≦12.7	SN490B	(イ)	420	40	65	290	－	φ60	4-D38	390	580	12-D19	D13@100	21以上	D	324	50	184	50	800	180
		318-09V3	φ300.0,φ318.5	t≦9.0	SN490B	(イ)	460	40	65	330	－	φ60	4-D38	390	610	12-D19	D13@100	21以上	D	364	50	224	50	800	180
		318-13V3	φ300.0,φ318.5	t≦12.7	TMCP325B,TMCP385B	(イ)	460	50	65	330	－	φ65	4-D41	390	610	12-D19	D13@100	21以上	D	364	50	224	50	800	190
		318-19V3	φ300.0,φ318.5	t≦19.0	TMCP325B,TMCP385B	(ハ)	530	50	65	85	230	φ60	8-D38	390	690	12-D22	D13@100	21以上	C	280	65	150	65	800	180
		355-10V3	φ350.0,φ355.6	t≦9.5	SN490B	(ハ)	540	36	55	85	260	φ45	8-M30	490	700	16-D19	D13@100	21以上	C	310	50	210	50	600	135
		355-13V3	φ350.0,φ355.6	t≦12.7	SN490B	(ハ)	540	40	55	85	260	φ50	8-M33	490	710	16-D19	D13@100	21以上	C	310	50	210	50	650	135
		355-16V3	φ350.0,φ355.6	t≦16.0	TMCP325B,TMCP385B	(ハ)	560	50	65	85	260	φ60	8-D38	390	720	20-D19	D13@100	21以上	C	310	65	180	65	800	180
		406-10V3	φ400.0,φ406.4	t≦9.5	SN490B	(ハ)	600	40	65	85	300	φ45	8-M30	490	750	16-D19	D13@100	21以上	C	350	50	250	50	600	135
		406-13V3	φ400.0,φ406.4	t≦12.7	TMCP325B,TMCP385B	(ハ)	600	50	65	85	300	φ60	8-D38	390	760	16-D19	D13@100	21以上	C	350	65	220	65	800	180
		406-16V3	φ400.0,φ406.4	t≦16.0	TMCP325B,TMCP385B	(ハ)	600	50	65	85	300	φ65	8-D41	390	760	20-D19	D13@100	21以上	C	350	65	220	65	800	190
		406-19V3	φ400.0,φ406.4	t≦19.0	BT-HT440B-SP	(ハ)	610	44	70	85	300	φ65	8-D41H	490	800	20-D19	D13@100	21以上	C	350	65	220	65	850	200
		457-10V3	φ450.0,φ457.2	t≦9.5	SN490B	(ハ)	610	40	55	85	330	φ50	8-M33	490	790	20-D19	D13@100	21以上	C	380	50	280	50	650	135
		457-13V3	φ450.0,φ457.2	t≦12.7	TMCP325B,TMCP385B	(ハ)	630	50	65	85	330	φ65	8-D41	390	800	20-D22	D13@100	21以上	C	380	65	250	65	800	190
		457-19V3	φ450.0,φ457.2	t≦19.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	740	48	65	120	185	φ60	12-D38	390	930	20-D22	D13@100	21以上	C	420	65	290	65	800	180
		457-28V3	φ450.0,φ457.2	t≦28.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	740	60	65	120	185	φ65	12-D41H	490	980	24-D22	D13@100	21以上	C	420	65	290	65	850	200
		508-10V3	φ500.0,φ508.0	t≦9.5	TMCP325B,TMCP385B	(ハ)	700	50	65	85	400	φ60	8-D38	390	860	20-D19	D13@100	21以上	C	450	65	320	65	800	180
		508-16V3	φ500.0,φ508.0	t≦16.0	BT-HT440B-SP	(ハ)	700	52	65	85	400	φ65	8-D41H	490	920	24-D22	D13@100	21以上	C	450	65	320	65	850	200
		508-22V3	φ500.0,φ508.0	t≦22.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	810	60	65	135	205	φ65	12-D41H	490	1000	24-D22	D13@100	21以上	C	460	65	330	65	850	200
		508-32V3	φ500.0,φ508.0	t≦32.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	830	65	75	135	205	φ75	12-D51	390	1050	28-D22	D16@100	24以上	C	470	65	340	65	950	230
		558-13V3	φ550.0,φ558.8	t≦12.7	BT-HT440B-SP	(ハ)	710	48	65	85	410	φ65	8-D41H	490	900	20-D22	D13@100	24以上	C	460	65	330	65	850	200
		558-22V3	φ550.0,φ558.8	t≦22.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	850	60	65	135	225	φ65	12-D41H	490	1050	24-D22	D16@100	24以上	C	500	65	370	65	850	200
		558-28V3	φ550.0,φ558.8	t≦28.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	870	65	75	135	225	φ75	12-D51	390	1100	28-D22	D16@100	24以上	C	510	65	380	65	950	230
		609-16V3	φ600.0,φ609.6	t≦16.0	BT-HT440B-SP	(ハ)	820	52	80	110	440	φ75	8-D51	390	1000	24-D22	D16@100	24以上	C	500	65	370	65	950	230
		609-22V3	φ600.0,φ609.6	t≦22.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	910	60	75	155	225	φ75	12-D51	390	1100	28-D22	D16@100	24以上	C	510	65	380	65	950	230
		609-25V3	φ600.0,φ609.6	t≦25.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	910	65	75	155	225	φ75	12-D51	390	1150	24-D25	D16@100	24以上	C	510	65	380	65	950	230
		660-22V3	φ650.0,φ660.4	t≦22.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	970	65	75	160	250	φ75	12-D51	390	1150	28-D22	D16@100	24以上	C	560	65	430	65	950	230
		660-25V3	φ650.0,φ660.4	t≦25.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	970	70	75	160	250	φ75	12-D51H	490	1200	28-D25	D16@100	24以上	C	560	65	430	65	1050	235
		711-22V3	φ700.0,φ711.2	t≦22.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	1030	65	75	175	265	φ75	12-D51	390	1250	28-D25	D16@100	24以上	C	590	65	460	65	950	230
		711-25V3	φ700.0,φ711.2	t≦25.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	1030	70	75	175	265	φ75	12-D51H	490	1300	28-D25	D16@100	24以上	C	590	65	460	65	1050	235
		762-19V3	φ750.0,φ762.0	t≦19.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	1070	65	75	185	275	φ75	12-D51	390	1270	28-D25	D16@100	24以上	C	610	65	480	65	950	230
		762-22V3	φ750.0,φ762.0	t≦22.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	1070	70	75	185	275	φ75	12-D51H	490	1300	28-D25	D16@100	24以上	C	610	65	480	65	1050	235
		812-19V3	φ800.0,φ812.8	t≦19.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	1150	65	75	200	300	φ75	12-D51	390	1350	32-D25	D16@100	24以上	C	660	65	530	65	950	230
		812-22V3	φ800.0,φ812.8	t≦22.0	BT-HT440B-SP	(ニ)	1150	70	75	200	300	φ75	12-D51H	490	1400	32-D25	D16@100	24以上	C	660	65	530	65	1050	235

特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
	東秩父村新庁舎建設工事			構造	S-011a
	図面名称 鉄骨柱脚標準図 (4)				



地盤柱状図

ボーリング H25

▽ 孔口標高:KBM1-0.312m

深度 [m]	層厚 [m]	土質名	N値
0.60	0.60	埋土	
2.95	2.35	玉石混り砂礫	50
6.00	3.05	輝緑凝灰岩	29
			50
			50
			50
			50

ボーリング H12-No.1

▽ 孔口標高:KBM1-0.494m

深度 [m]	層厚 [m]	土質名	N値
0.40	0.40	表土	
1.00	0.60	粘性土	7
2.20	1.20	礫混り粘性土	45
3.10	0.90	風化岩	50
4.00	0.90	緑色片岩	50

ボーリング H12-No.2

▽ 孔口標高:KBM1-0.504m

深度 [m]	層厚 [m]	土質名	N値
0.50	0.50	表土	
1.90	1.40	粘性土	7
2.45	0.55	礫混り粘性土	46

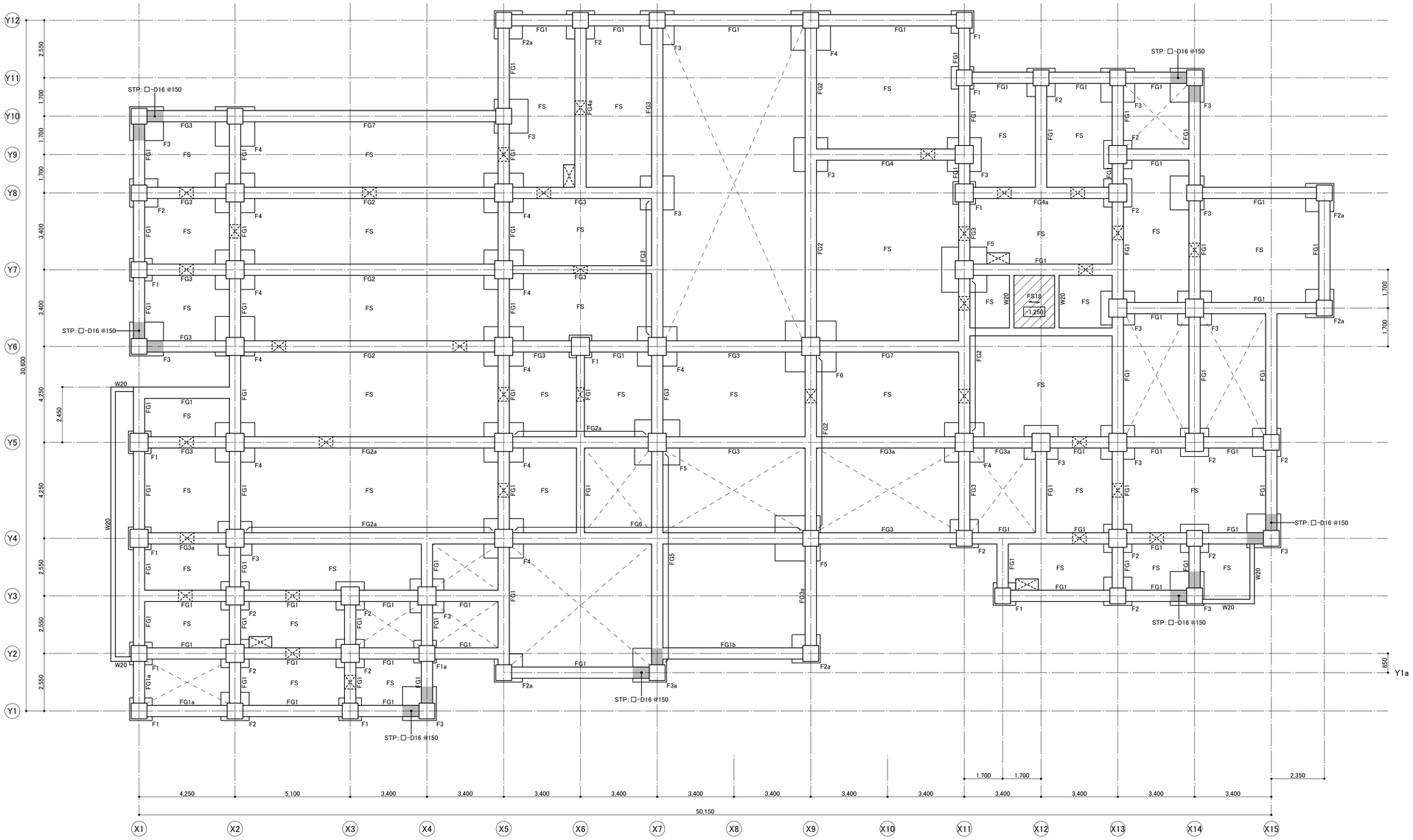
▽ 設計GL±0:TP+151.05

地盤調査位置図

[共通事項]

- 設計GL±0 = TP+151.05
- KBM1 = TP+151.55, KBM2 = TP+150.834
- R6調査位置の表記は下記のとおり
  上段:調査地点高さ
  下段:砂質土出現深度(1FL-XXX)

特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
	東秩父村新庁舎建設工事	1/100(A1)		構造	S-012
	図面名称 地盤調査位置図	1/200(A3)			

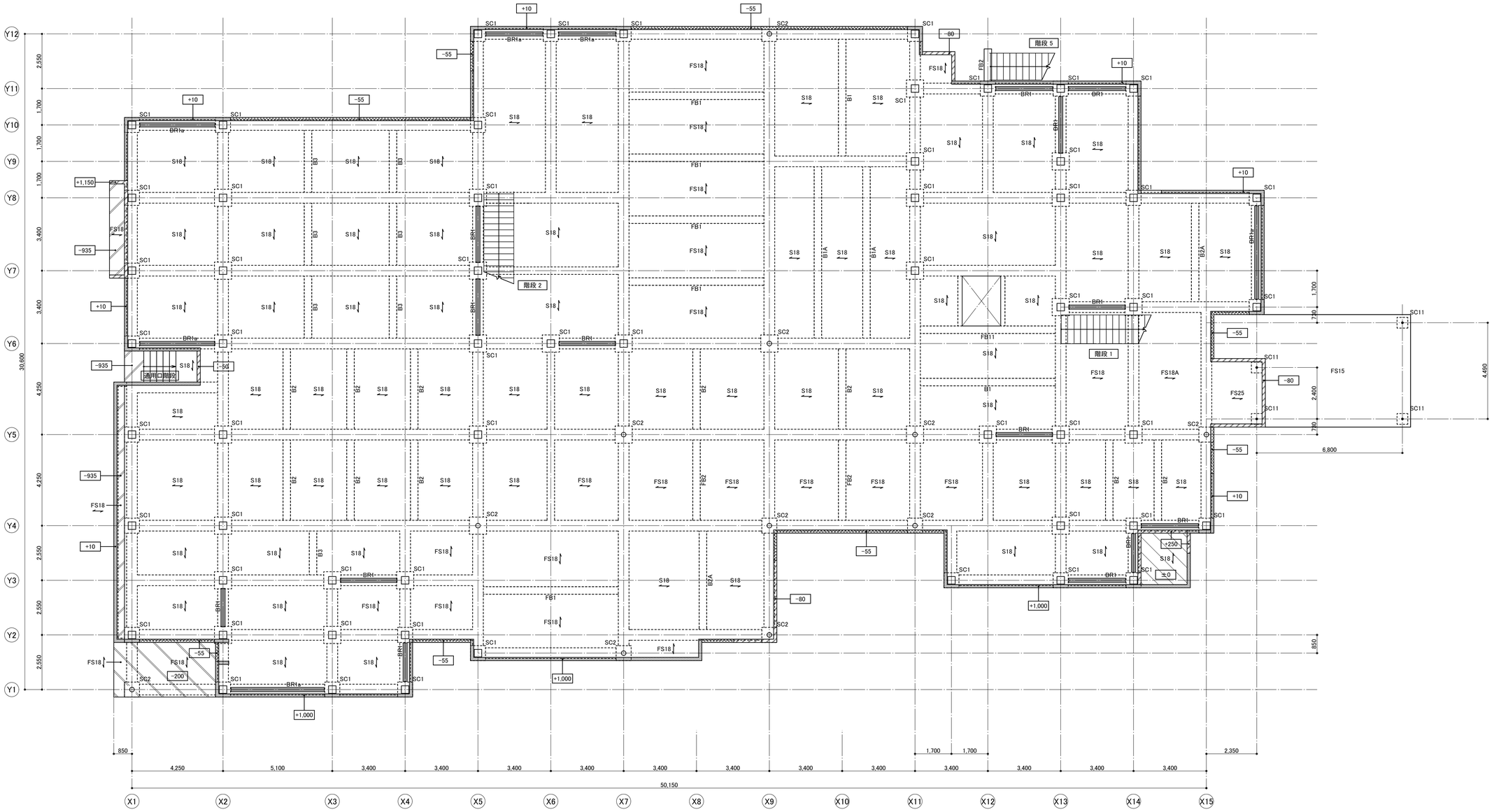


基礎伏図

[共通事項]

- 1FL = KBM +1,260
- 特記なきスラブ天端レベルは 1FL −2,080 とする。
- 特記なき基礎底レベルは 1FL −2,230 とする。
- は 人通口 φ600 を示す。
- は 釜場 H=600 を示す。

特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
	東秩父村新庁舎建設工事	1/100(A1)		構造	S-013
	図面名称 基礎伏図	1/200(A3)			



1階伏図

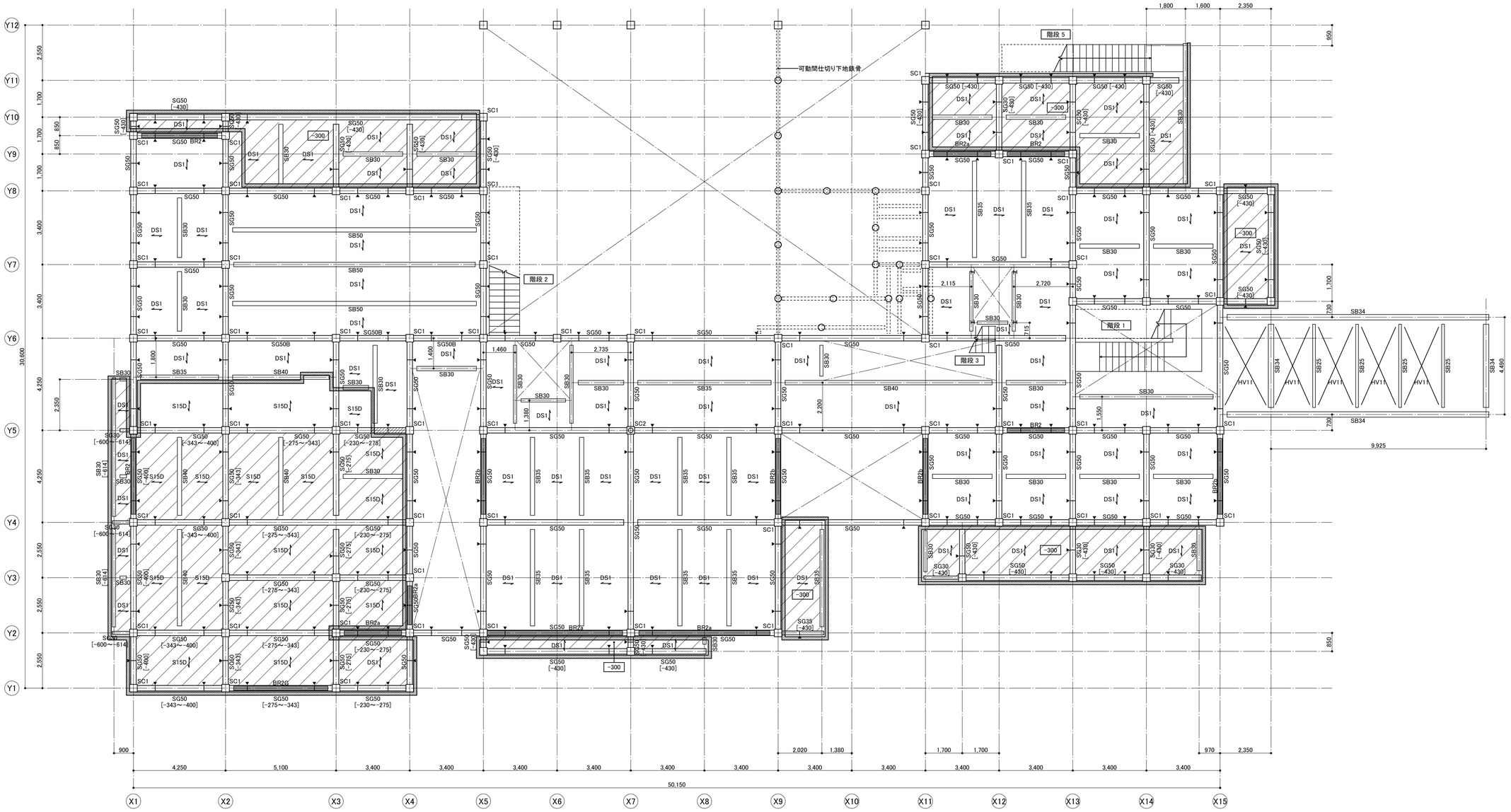
[共通事項]

・1FL = KBM +1,200

・特記なきスラブ天端レベルは 1FL −150 とする。

・特記なき基礎梁天端レベルは 1FL −330 とする。

特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
	東秩父村新庁舎建設工事	1/100(A1)		構造	S-014
	図面名称 1階伏図	1/200(A3)			



2階伏図 (1)

[共通事項]

- 2FL = 1FL +4,000
- 特記なきスラブ天端レベルは 2FL −100 とする。
- 特記なき梁天端レベルは 2FL −230 とする。
- ┼ は梁継手位置を示し、原則芯より1,000mmとする。
- ⋮⋮⋮ は 可動間仕切り下地鉄骨 とする。
- ○ は 可動間仕切り下地鉄骨吊材位置 とする。

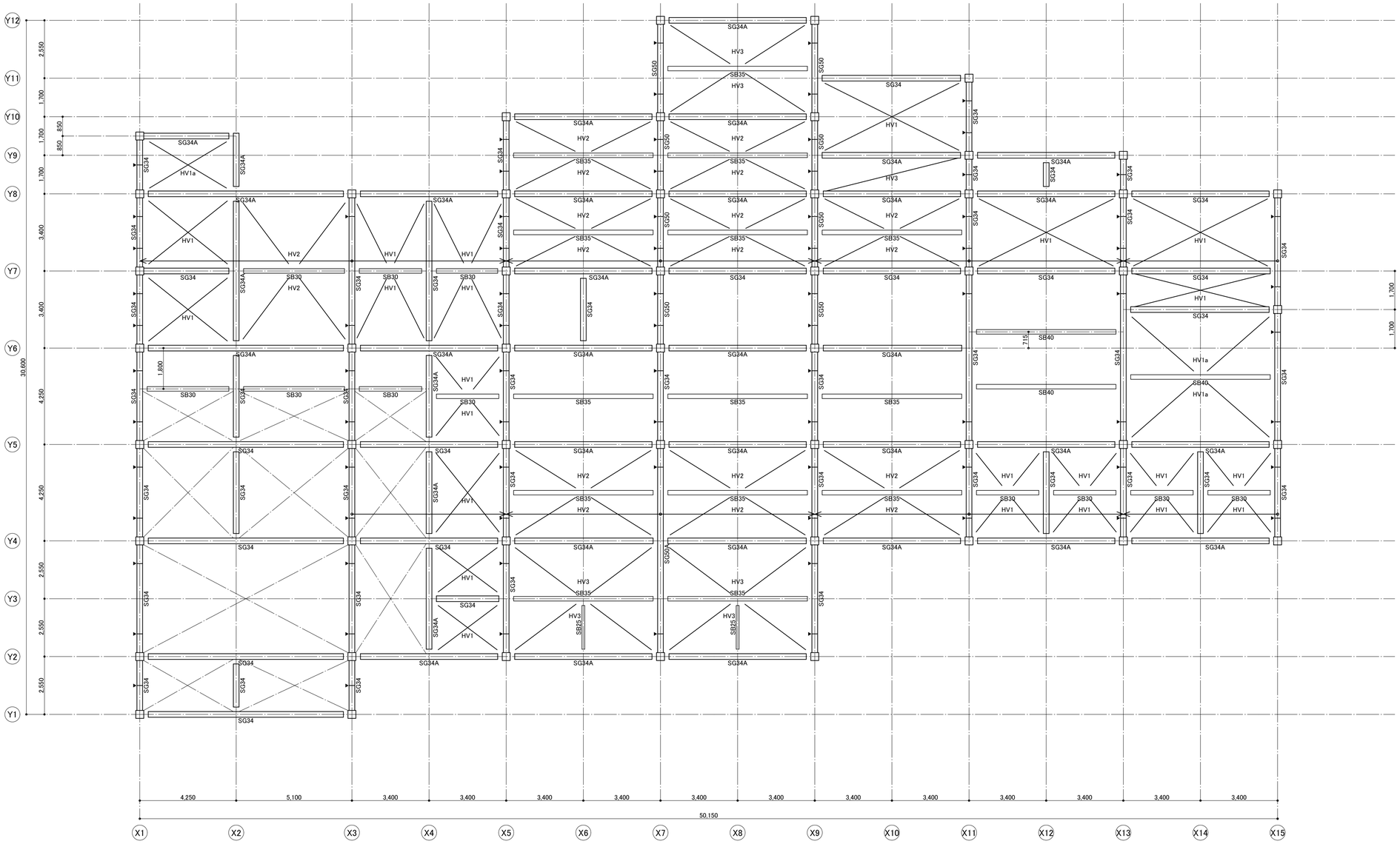
特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
	東秩父村新庁舎建設工事	1/100(A1)		構造	S-015
	図面名称 2階伏図 (1)	1/200(A3)			

2階伏図 (2)

[共通事項]

- M2FL = 2FL +1,500
- 特記なきスラブ天端レベルは M2FL −100 とする。
- 特記なき梁天端レベルは M2FL −230 とする。
- ┼ は梁継手位置を示し、原則芯より1,000mmとする。
- ⋮⋮⋮ は 舞台機構すのこ鉄骨 とする。
- - - - は 客席照明バトン鉄骨 とする。

特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
	東秩父村新庁舎建設工事	1/100(A1)		構造	S-016
	図面名称 2階伏図 (2)	1/200(A3)			

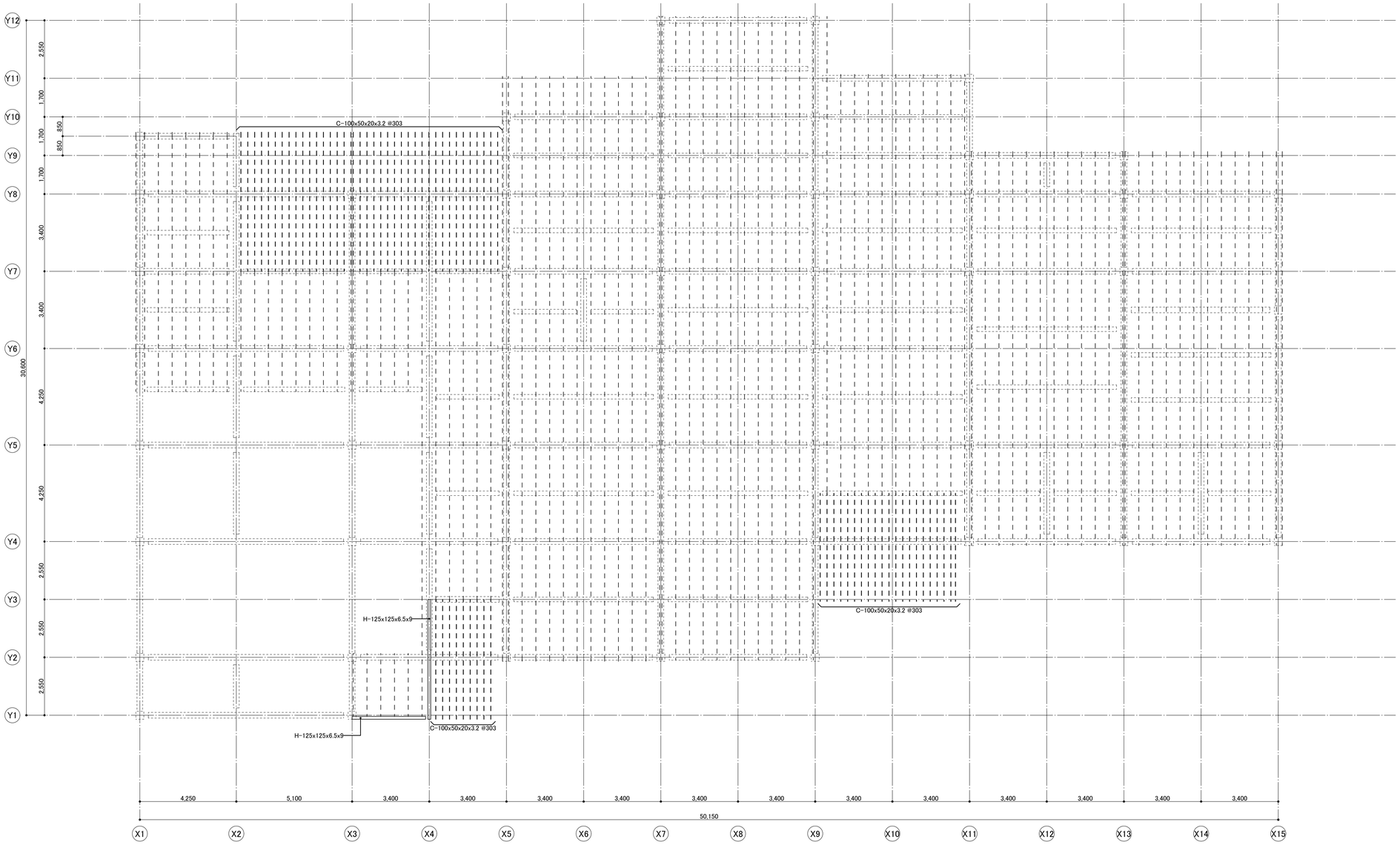


屋根伏図

[共通事項]

・ ⊥ は梁継手位置を示し、原則芯より1,000mmとする。

特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
	東秩父村新庁舎建設工事	1/100(A1)		構造	S-017
	図面名称 屋根伏図	1/200(A3)			

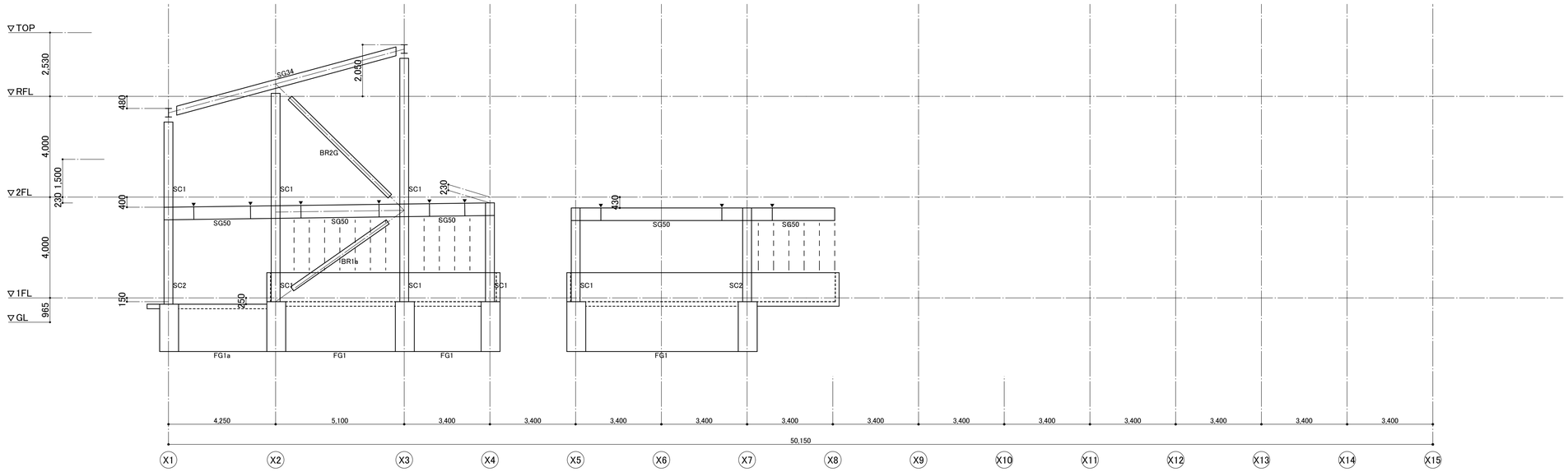


屋根母屋伏図

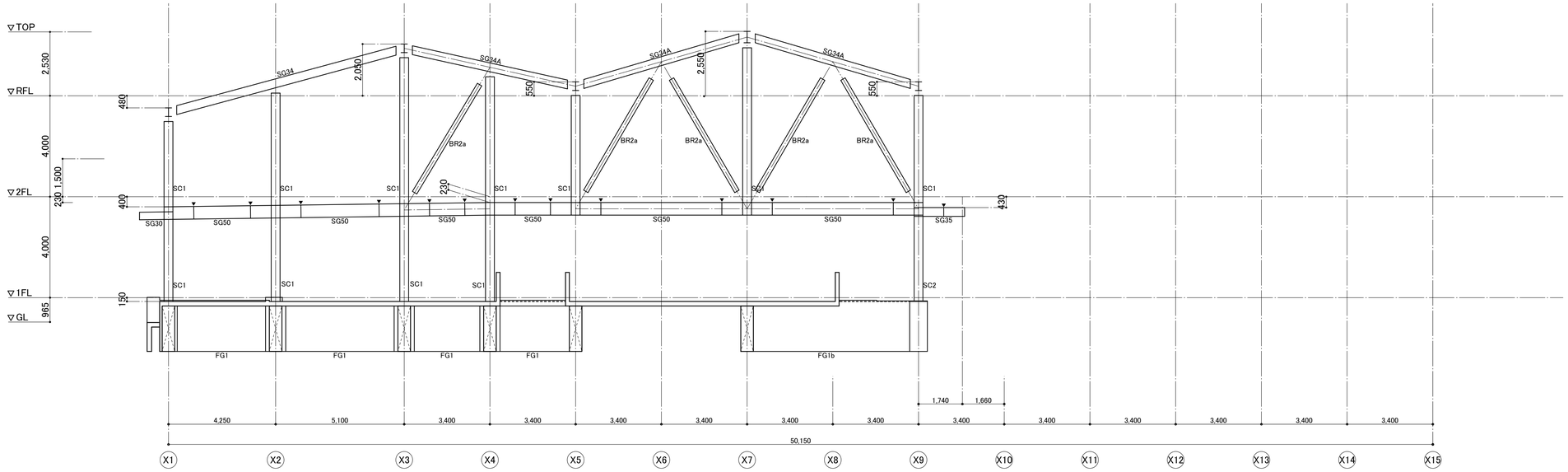
[共通事項]

・特記なき屋根母屋は C-100x50x20x2.3 @606 とする。

			特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
				東秩父村新庁舎建設工事	1/100(A1)		構造	S-018
				図面名称 屋根母屋伏図	1/200(A3)			



Y1通り軸組図

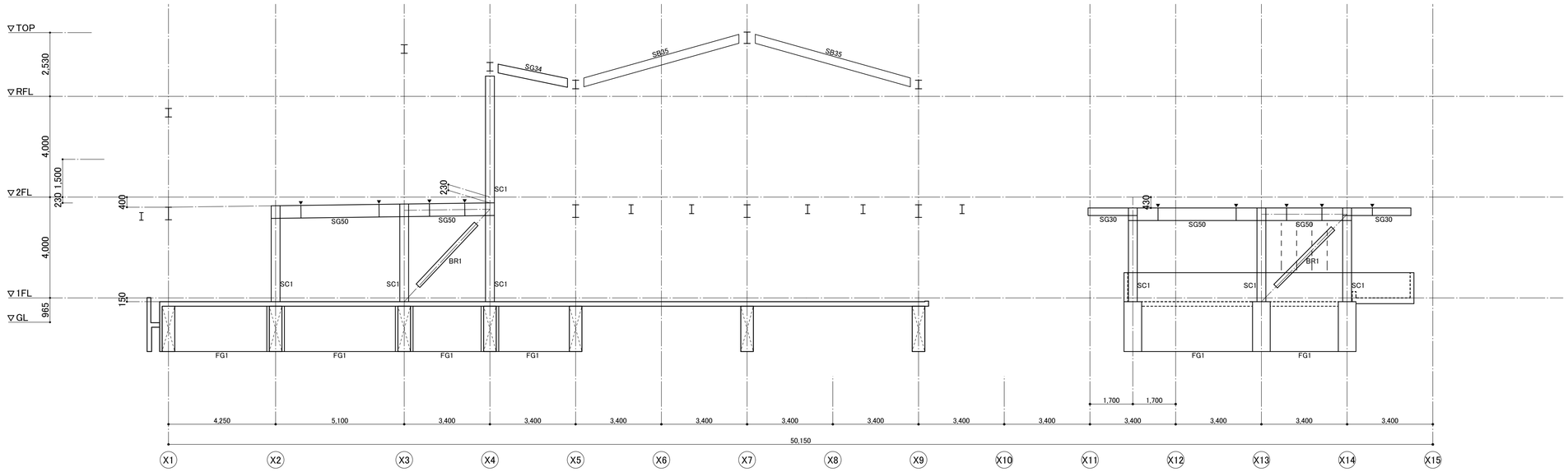


Y2通り軸組図

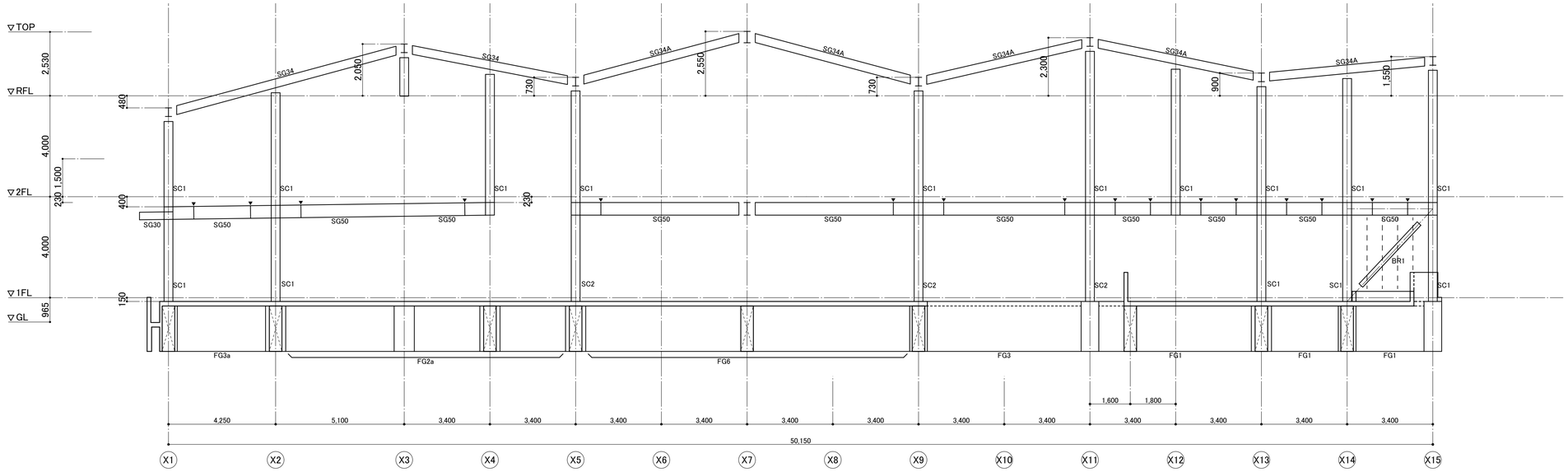
[共通事項]

・ ⊥ は梁継手位置を示し、原則芯より1,000mmとする。

			特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
				東秩父村新庁舎建設工事	1/100(A1)		構造	S-019
				図面名称 軸組図 (1)	1/200(A3)			



Y3通り軸組図

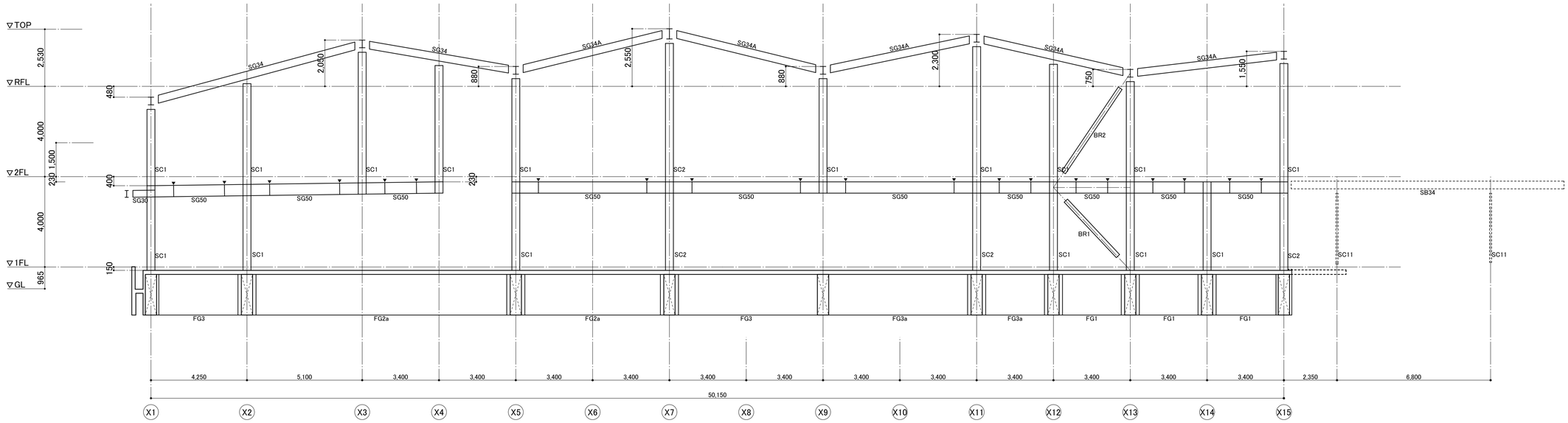


Y4通り軸組図

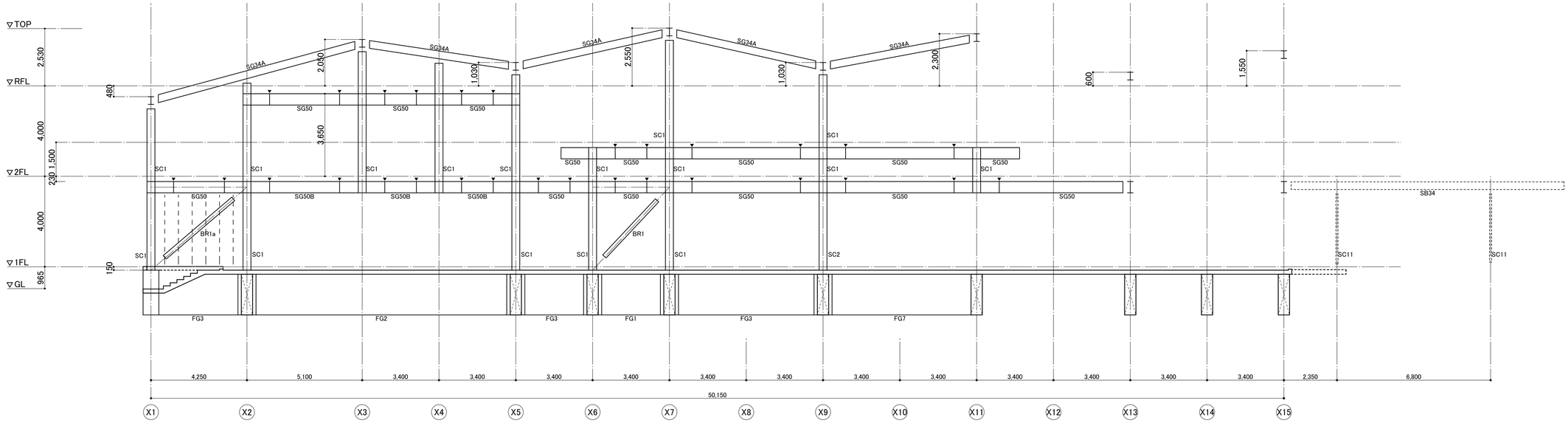
[共通事項]

・ ⊥ は梁継手位置を示し、原則芯より1,000mmとする。

			特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
				東秩父村新庁舎建設工事	1/100(A1)		構造	S-020
				図面名称 軸組図 (2)	1/200(A3)			



Y5通り軸組図

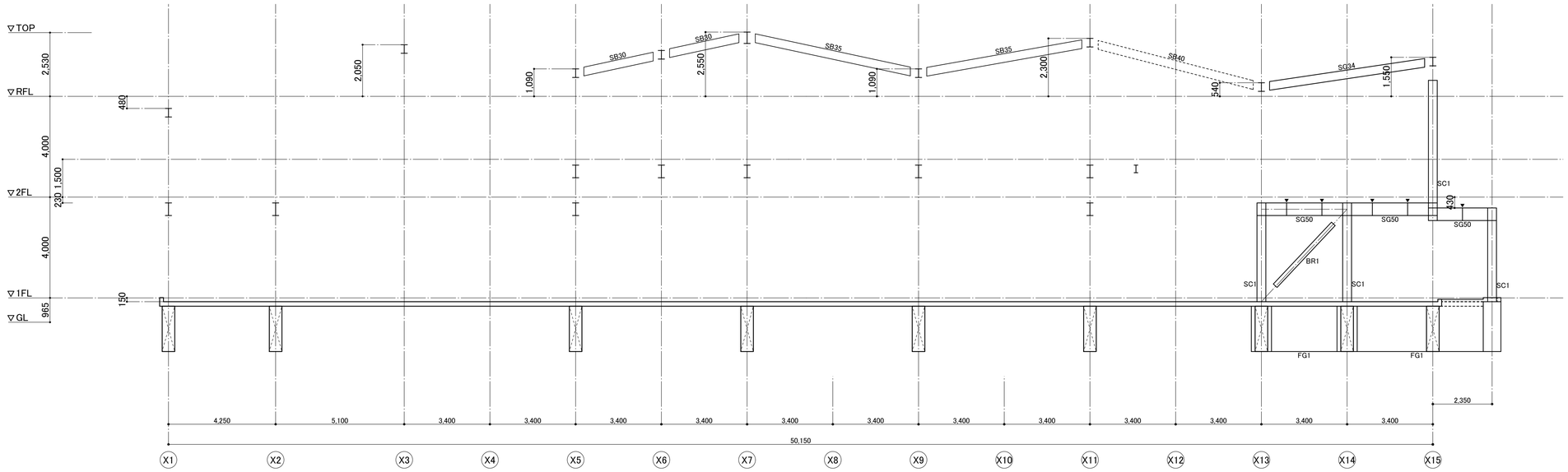


Y6通り軸組図

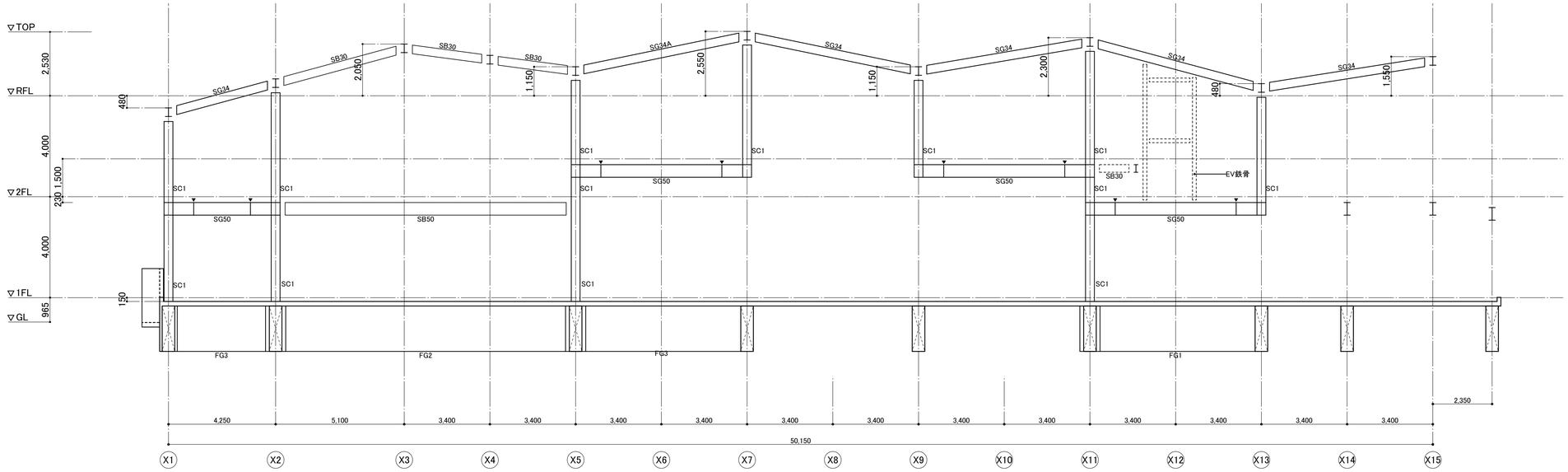
[共通事項]

・ ⊥ は梁継手位置を示し、原則芯より1,000mmとする。

特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
	東秩父村新庁舎建設工事	1/100(A1)		構造	S-021
	図面名称 軸組図 (3)	1/200(A3)			



Y6a通り軸組図

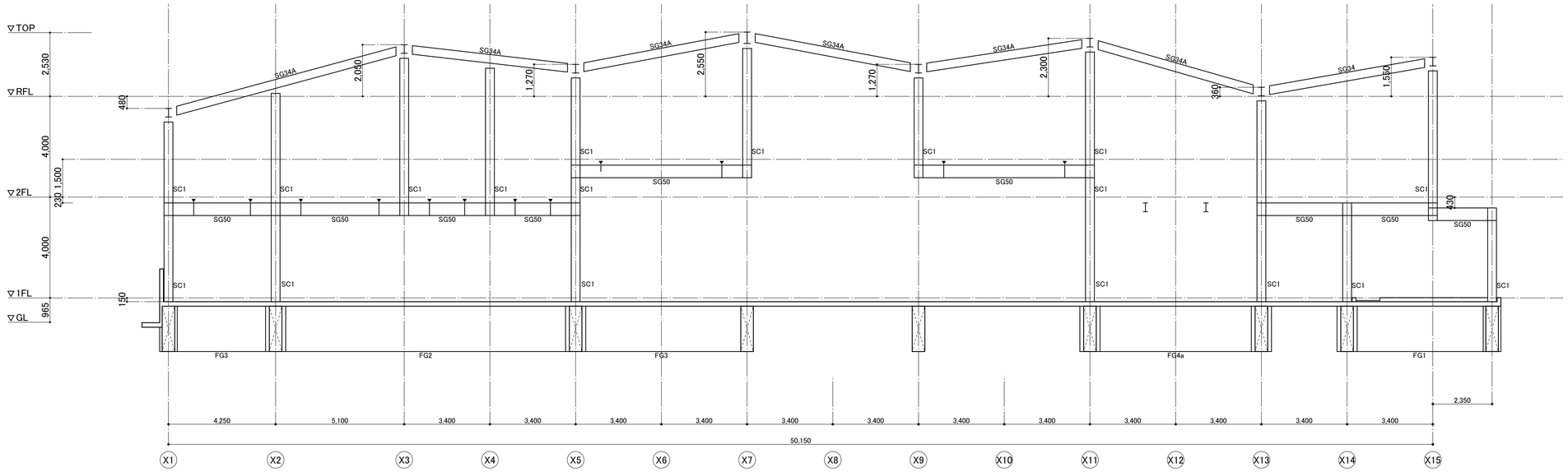


Y7通り軸組図

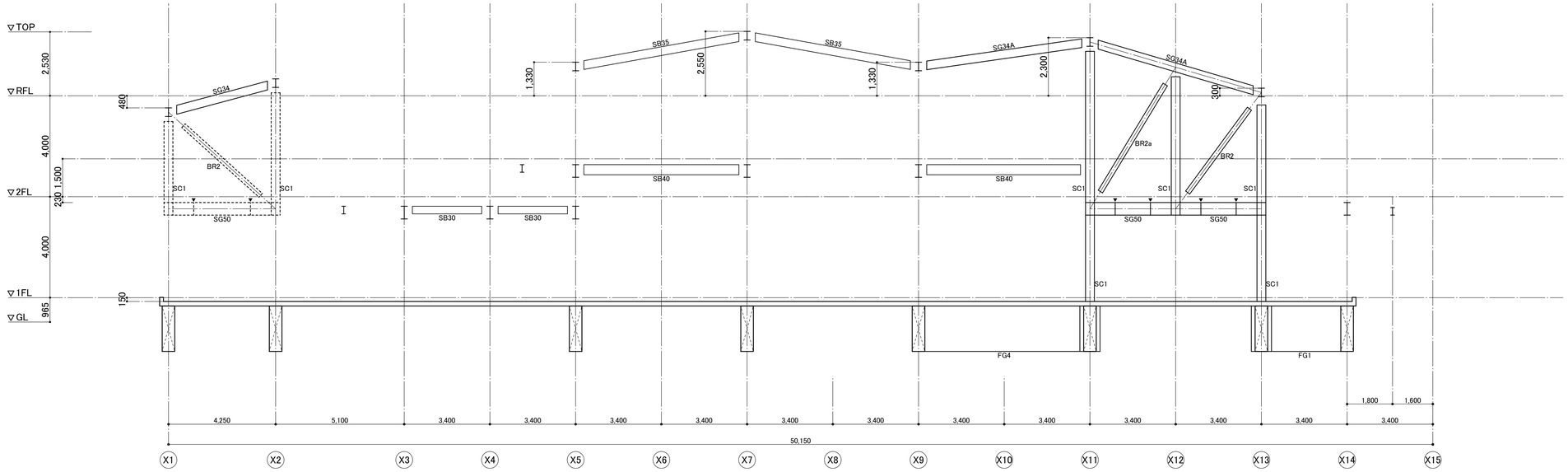
[共通事項]

・ ⊥ は梁継手位置を示し、原則芯より1,000mmとする。

特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
	東秩父村新庁舎建設工事	1/100(A1)		構造	S-022
	図面名称 軸組図 (4)	1/200(A3)			



Y8通り軸組図

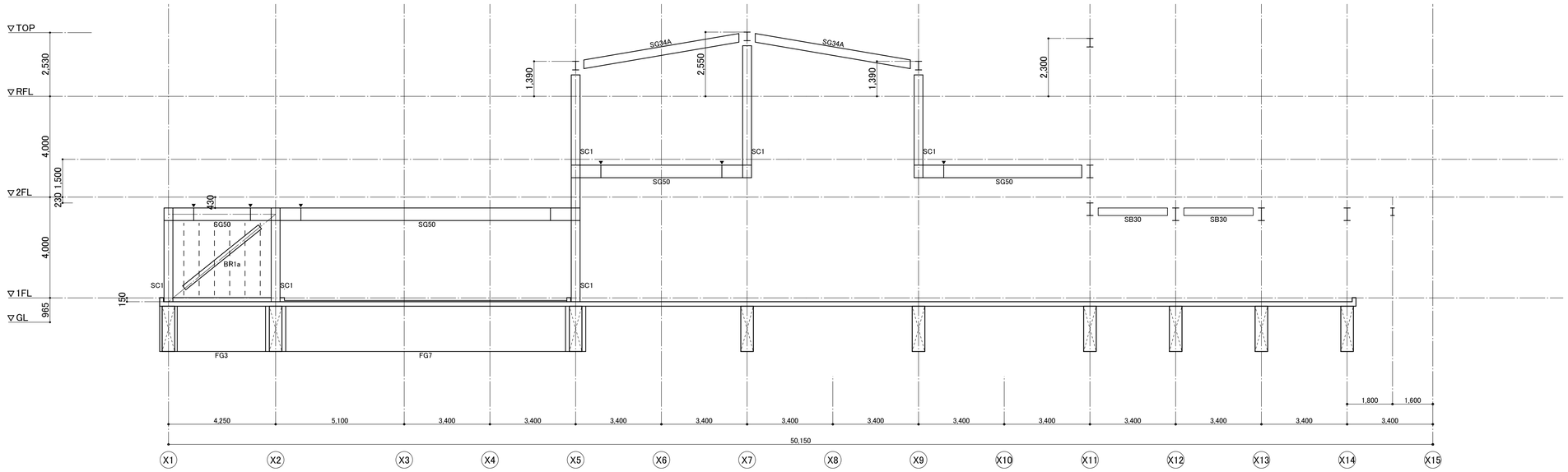


Y9通り軸組図

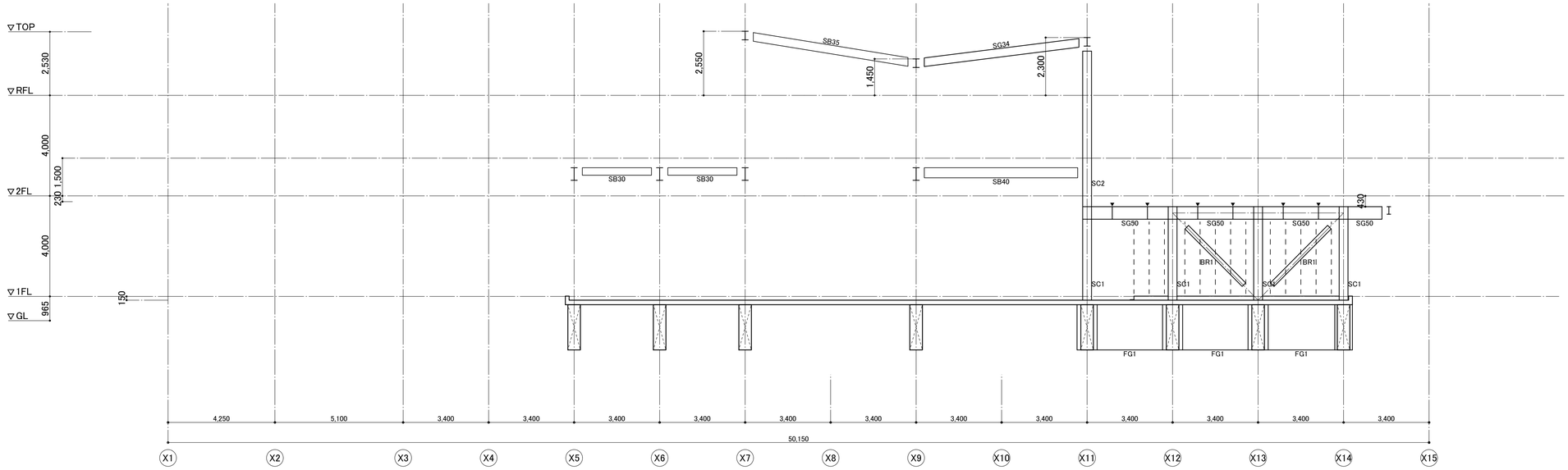
[共通事項]

・ ⊥ は梁継手位置を示し、原則芯より1,000mmとする。

			特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
				東秩父村新庁舎建設工事	1/100(A1)		構造	S-023
				図面名称 軸組図 (5)	1/200(A3)			



Y10通り軸組図

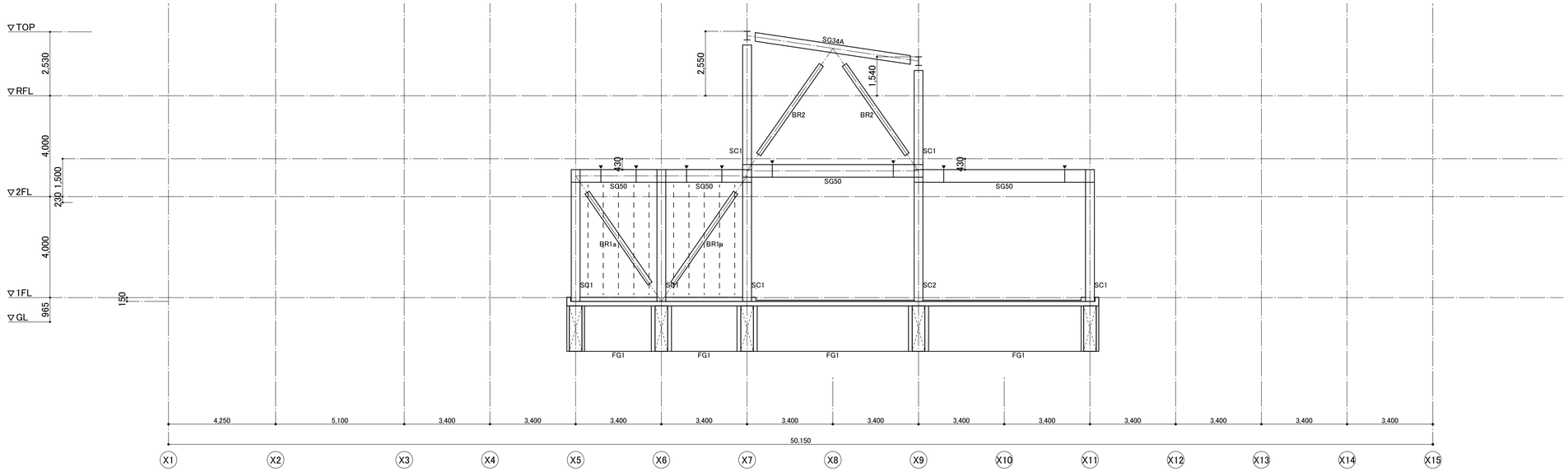


Y11通り軸組図

[共通事項]

・ は梁継手位置を示し、原則芯より1,000mmとする。

			特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
				東秩父村新庁舎建設工事	1/100(A1) 1/200(A3)		構造	S-024
				図面名称 軸組図 (6)				

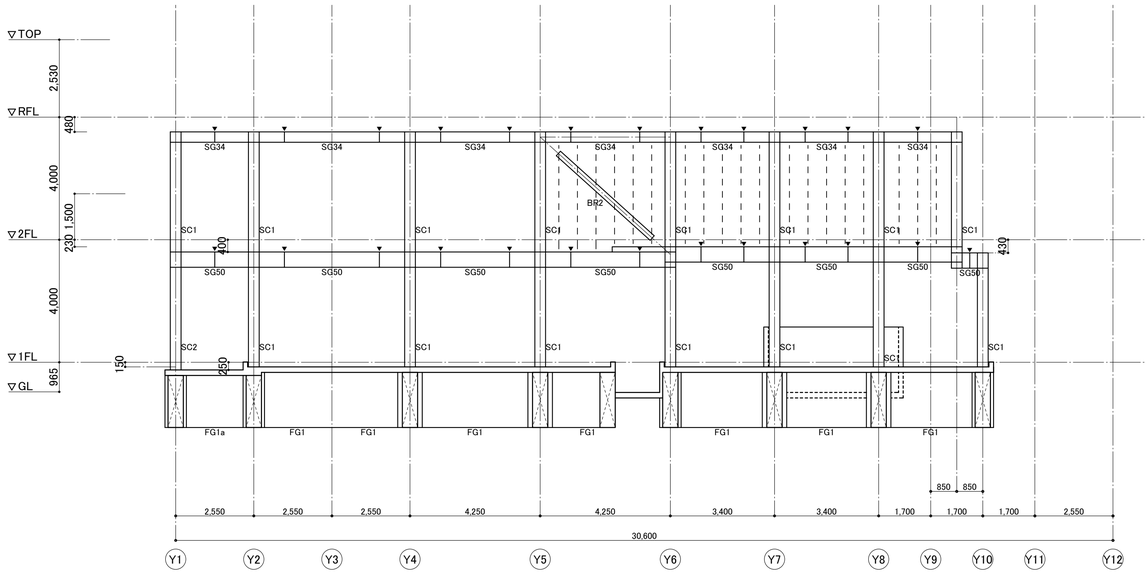


Y12通り軸組図

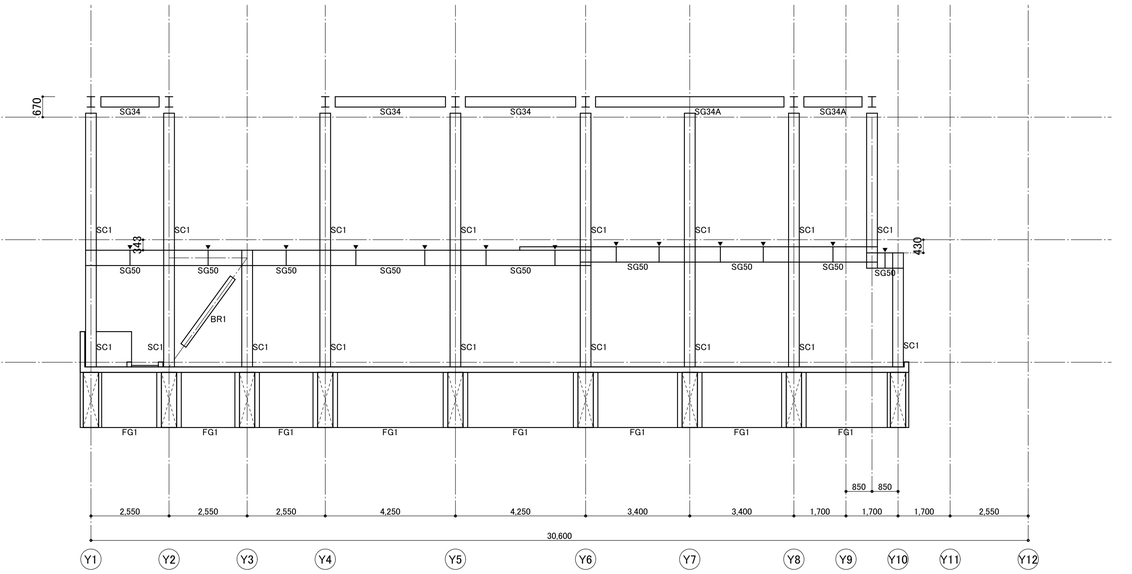
[共通事項]

・ ⊥ は梁継手位置を示し、原則芯より1,000mmとする。

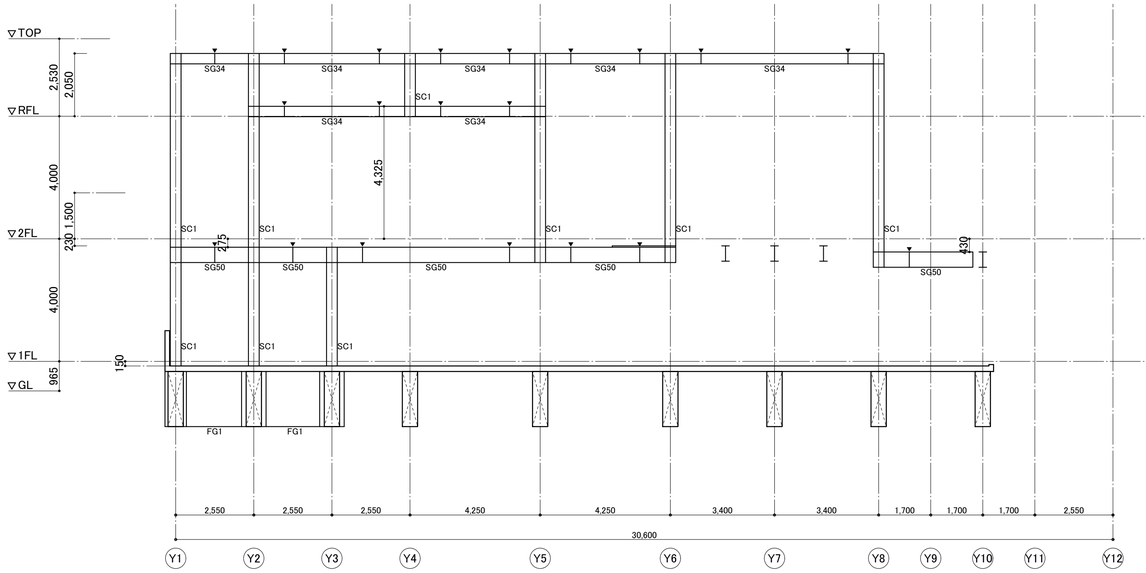
			特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
				東秩父村新庁舎建設工事	1/100(A1)		構造	S-025
				図面名称 軸組図 (7)	1/200(A3)			



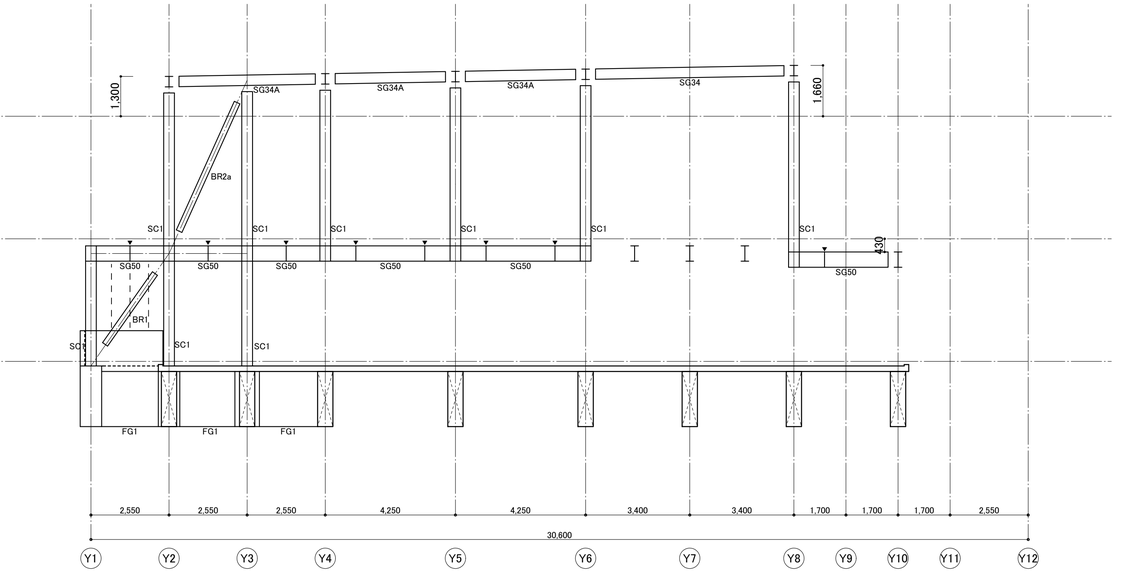
X1通り軸組図



X2通り軸組図



X3通り軸組図

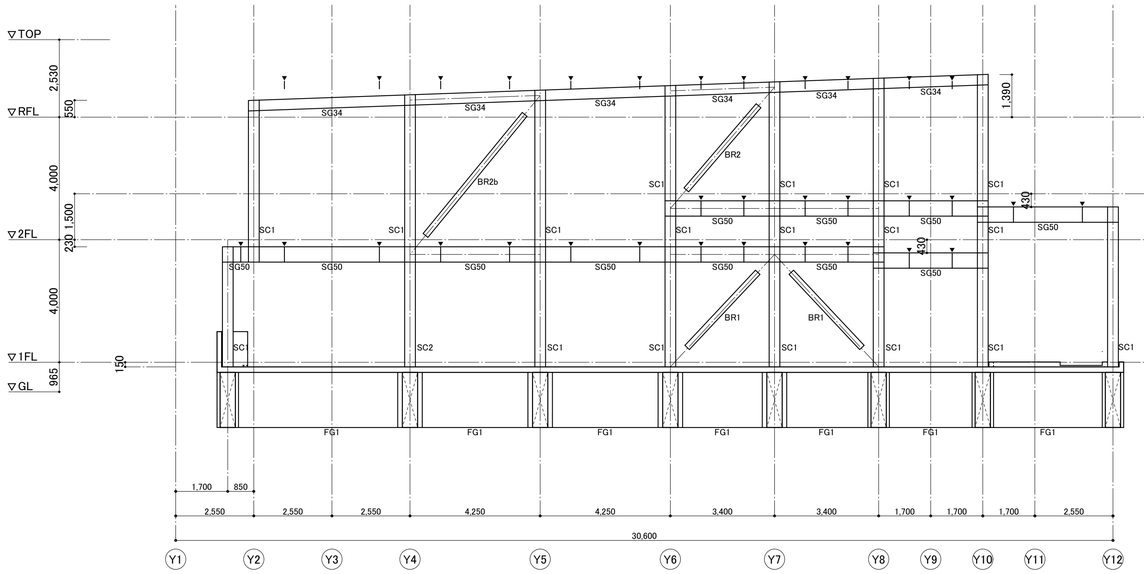


X4通り軸組図

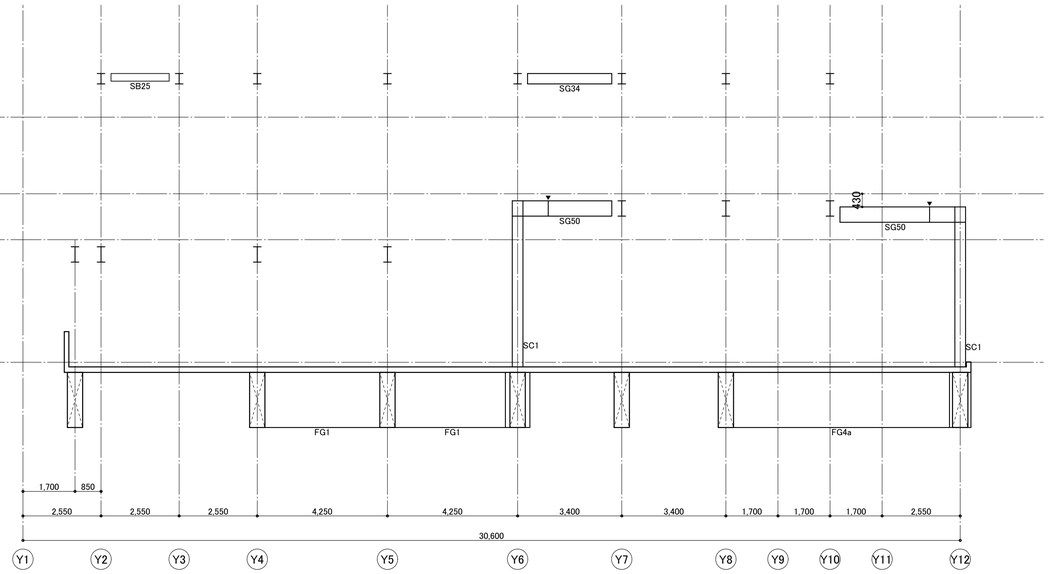
[共通事項]

・ ⊥ は梁継手位置を示し、原則芯より1,000mmとする。

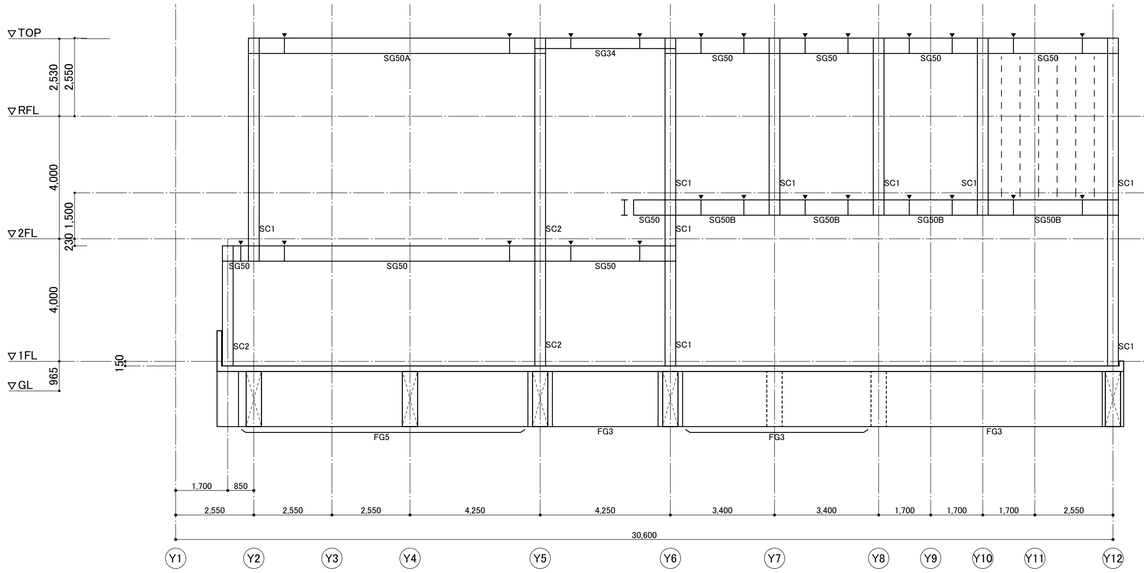
			特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
				東秩父村新庁舎建設工事	1/100(A1)		構造	S-026
				図面名称 軸組図 (8)	1/200(A3)			



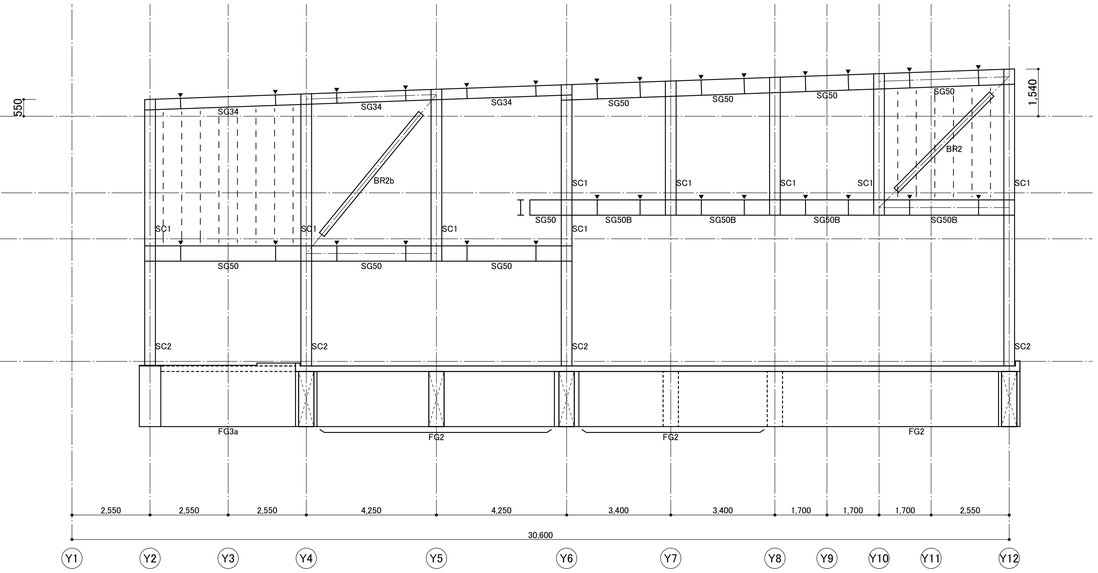
X5通り軸組図



X6通り軸組図



X7通り軸組図

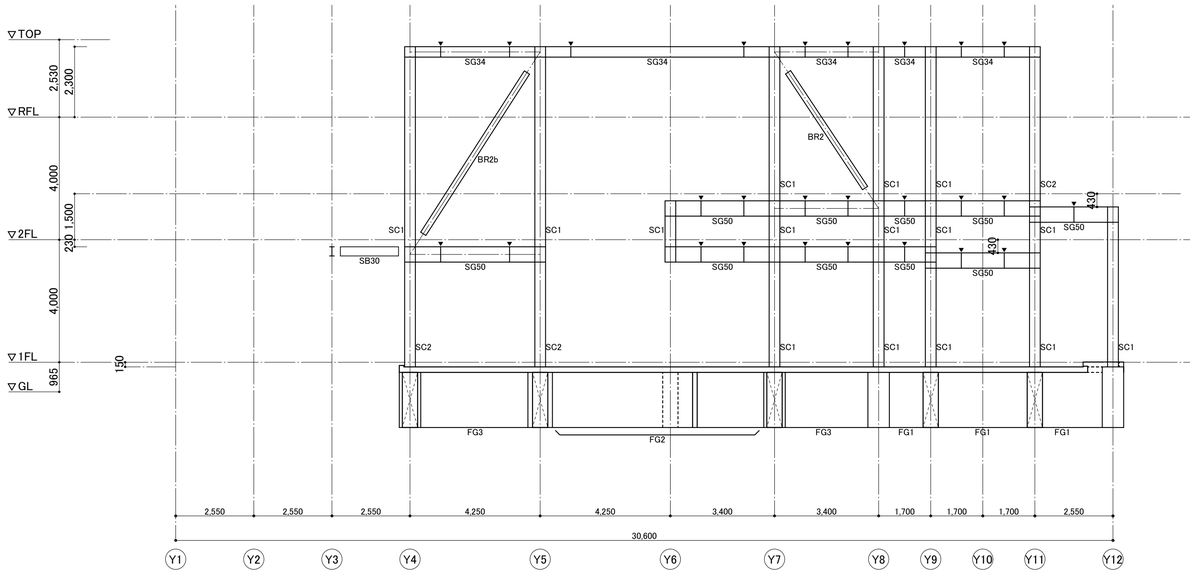


X9通り軸組図

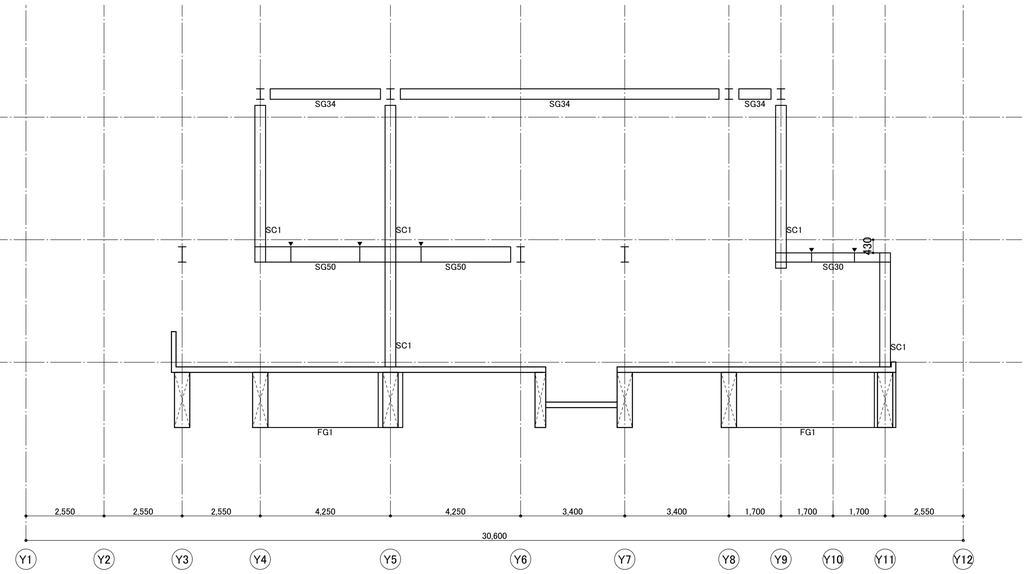
[共通事項]

・ ⊥ は梁継手位置を示し、原則芯より1,000mmとする。

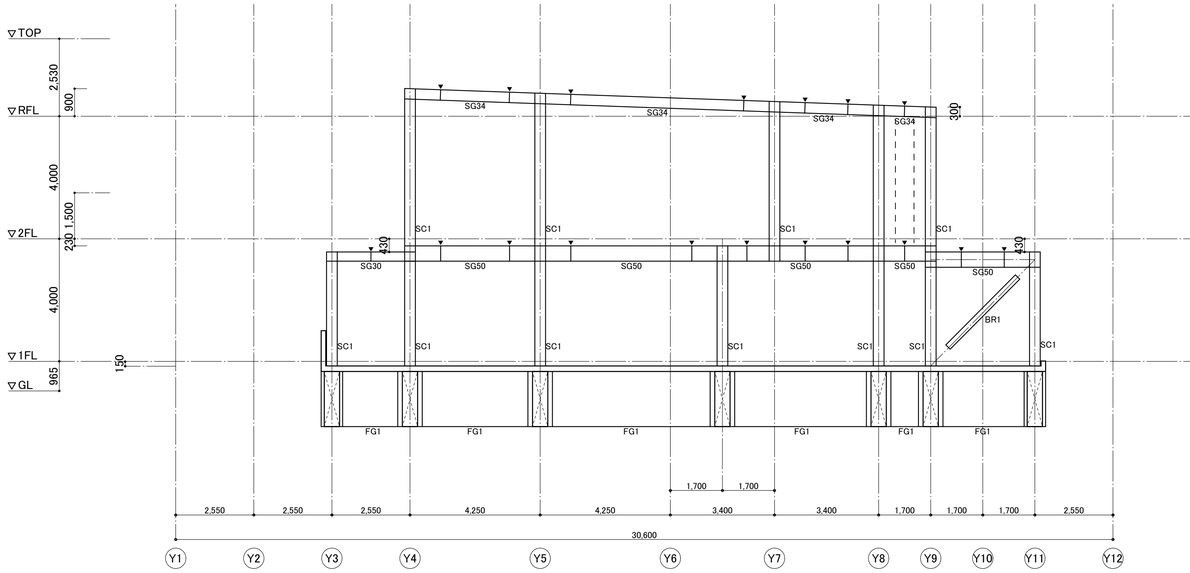
特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
	東秩父村新庁舎建設工事	1/100(A1)		構造	S-027
	図面名称 軸組図 (9)	1/200(A3)			



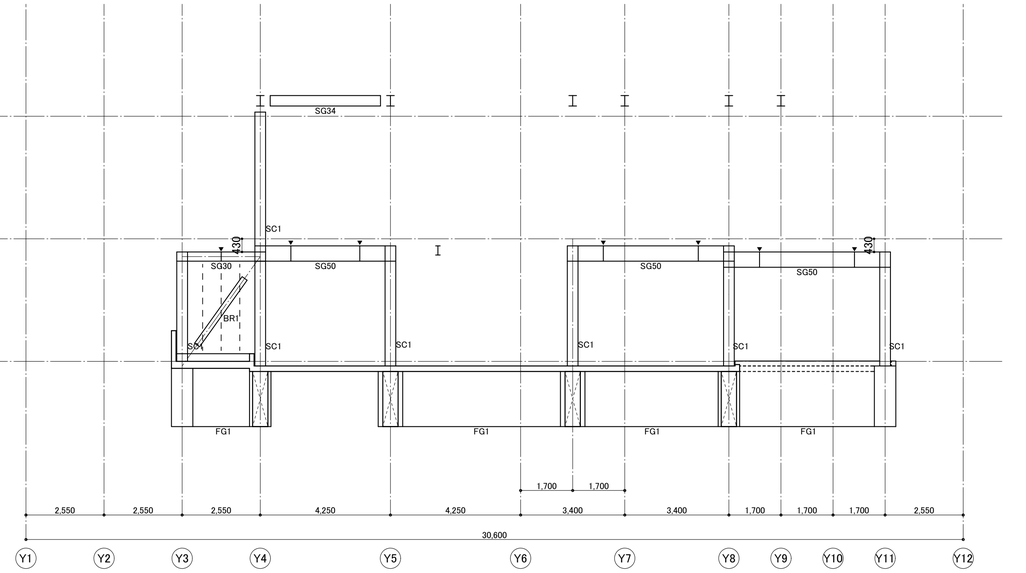
X11通り軸組図



X12通り軸組図



X13通り軸組図

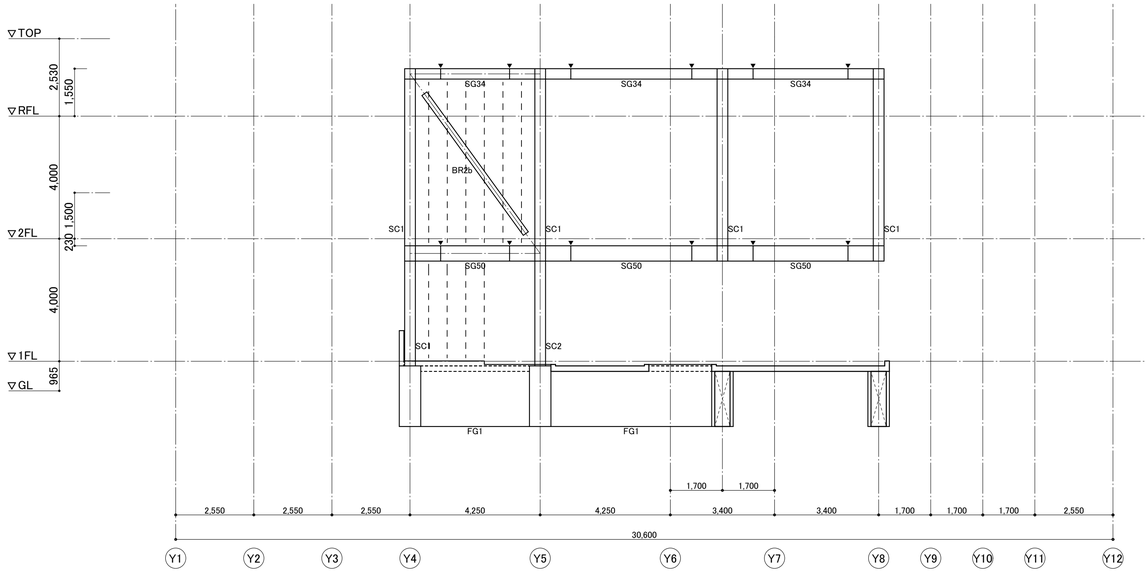


X14通り軸組図

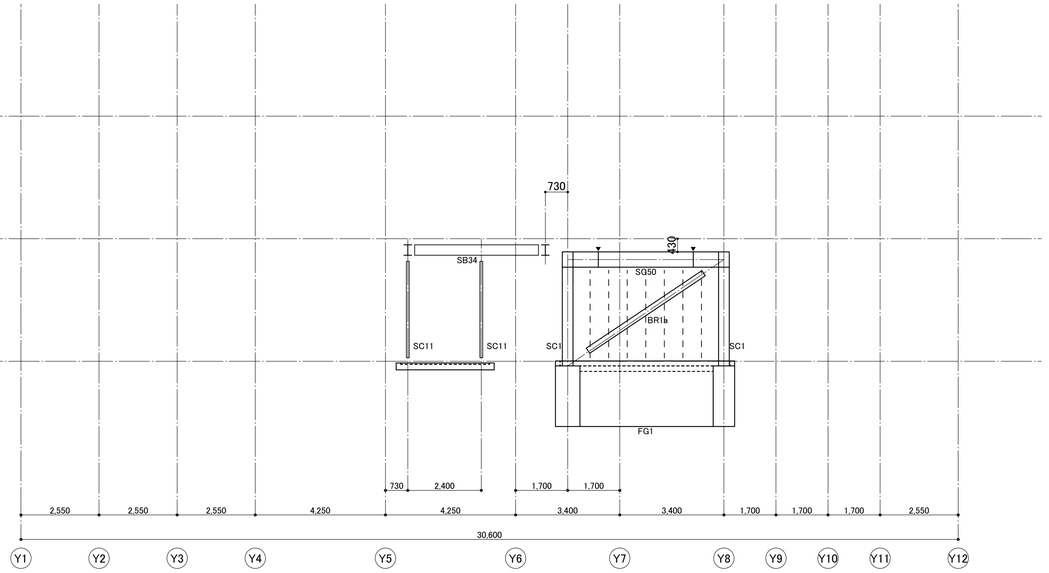
[共通事項]

・ ⊥ は梁継手位置を示し、原則芯より1,000mmとする。

			特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
				東秩父村新庁舎建設工事	1/100(A1)		構造	S-028
				図面名称 軸組図 (10)	1/200(A3)			



X15通り軸組図



X15a通り軸組図

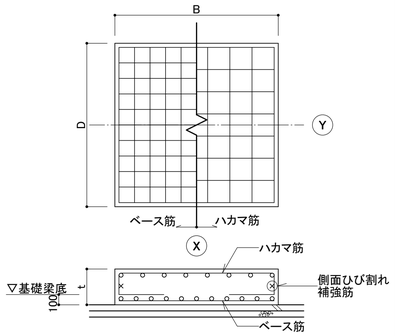
[共通事項]

・ ⊥ は梁継手位置を示し、原則芯より1,000mmとする。

			特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
				東秩父村新庁舎建設工事	1/100(A1)		構造	S-029
				図面名称 軸組図 (11)	1/200(A3)			

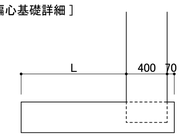
基礎 断面表

[特記事項]
・配筋要領は、S-02.3.1.(1) B に準じる。
・基礎下の地業は、捨てコン(t=50)、敷砂利(t=60)とする。
・基礎符号末尾に「A」がつくものは、ハカマ筋の鉄筋径をD13へ読み替えることとする。

符 号	—
B x D x t	下図参照
断 面	

符 号	B x D x t	ベース筋	ハカマ筋	備 考
F1	1,000 x 1,000 x 250	D13 @200 (両方向) [6本以上配置]	D13 @200 (両方向) [6本以上配置]	
F1a		D13 @150 (両方向) [8本以上配置]	D13 @150 (両方向) [8本以上配置]	
F2	1,250 x 1,250 x 250	D16 @200 (両方向) [7本以上配置]	D16 @200 (両方向) [7本以上配置]	
F2a		D16 @100 (両方向) [14本以上配置]	D16 @100 (両方向) [14本以上配置]	
F3	1,500 x 1,500 x 300	D19 @200 (両方向) [8本以上配置]	D16 @200 (両方向) [8本以上配置]	
F3a		D19 @150 (両方向) [11本以上配置]	D16 @150 (両方向) [11本以上配置]	
F4	1,750 x 1,750 x 350	D16 @100 (両方向) [18本以上配置]	D16 @200 (両方向) [9本以上配置]	
F5	2,000 x 2,000 x 450	D16 @100 (両方向) [20本以上配置]	D16 @200 (両方向) [10本以上配置]	側面ひび割れ補強筋 D13 (1段)
F6	2,250 x 2,250 x 500	D22 @150 (両方向) [15本以上配置]	D19 @200 (両方向) [10本以上配置]	側面ひび割れ補強筋 D13 (1段)
F7	2,500 x 2,500 x 550	D19 @100 (両方向) [26本以上配置]	D19 @200 (両方向) [13本以上配置]	側面ひび割れ補強筋 D13 (1段)

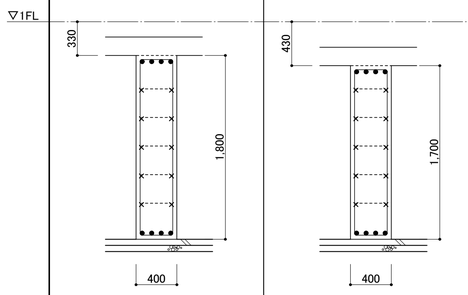
[偏心基礎詳細]

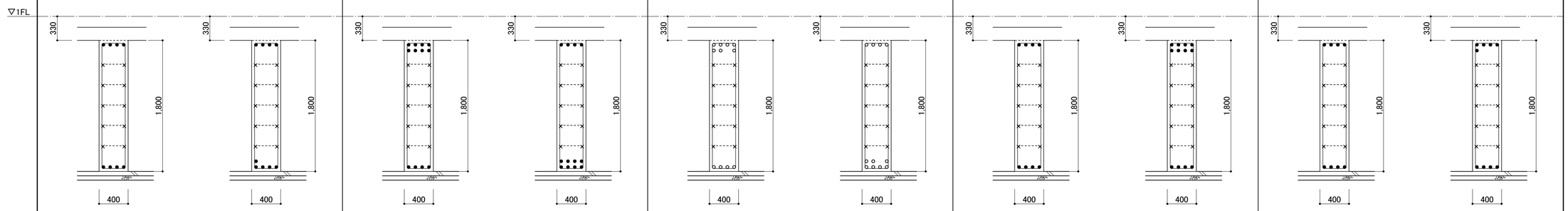


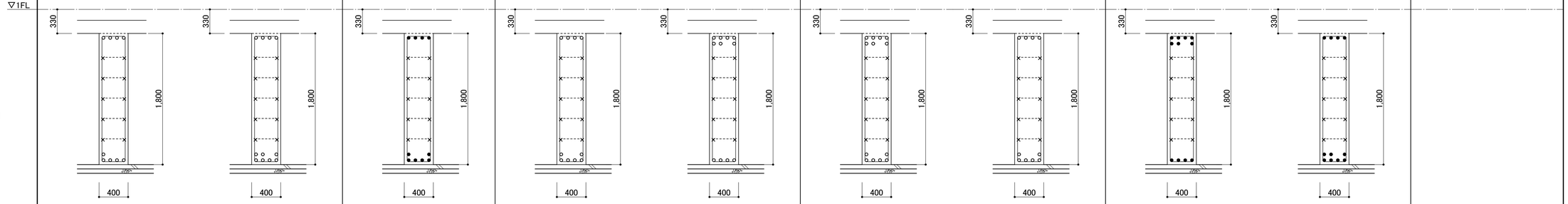
L : 530 [F1]
780 [F2]
1,030 [F3]

基礎梁 断面表

[特記事項]
・幅止め筋は D10 @1,000 とする。
・梁主筋は、X方向(東西方向)を先組とする。
・1階スラブとり合いは、S-05図6.4 打ち増し補強に準じて上フカシを設ける。
・基礎梁下の地業は、砕石t=60、捨てコンt=50 とする。

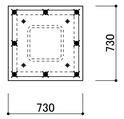
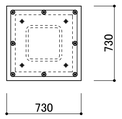
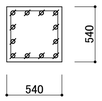
符 号	FG1	FG1a	
位 置	全断面	全断面	
断 面			
b x D	400 x 1,800	400 x 1,700	
上端主筋	4 - D19	4 - D19	
下端主筋	4 - D19	4 - D19	
STP	□ - D13 @150	□ - D13 @150	
腹 筋	10 - D13	10 - D13	
備 考			

符 号	FG1b		FG2		FG2a		FG3		FG3a	
位 置	両 端	中 央	両 端	中 央	両 端	中 央	外 端	中央、内端	外 端	中央、内端
断 面										
b x D	400 x 1,800	400 x 1,800	400 x 1,800	400 x 1,800	400 x 1,800	400 x 1,800	400 x 1,800	400 x 1,800	400 x 1,800	400 x 1,800
上端主筋	4 - D19	4 - D19	4/4 - D19	4 - D19	4/3 - D22	4 - D22	4 - D19	4/4 - D19	4 - D19	4/1 - D19
下端主筋	4 - D19	4/1 - D19	4 - D19	4/4 - D19	4 - D22	4/3 - D22	4 - D19	4 - D19	4 - D19	4 - D19
STP	□ - D13 @150	□ - D13 @150	□ - D13 @150	□ - D13 @150	□ - D13 @150	□ - D13 @150	□ - D13 @150	□ - D13 @150	□ - D13 @150	□ - D13 @150
腹 筋	8 - D13	8 - D13	10 - D13	10 - D13	10 - D13	10 - D13	10 - D13	10 - D13	10 - D13	10 - D13
備 考										

符 号	FG4		FG4a	FG5		FG6		FG7		
位 置	両 端	中 央	全断面	Y1a通り端部、中央	Y5通り端部	両 端	中 央	X2, X9通り端部	中央、X5, X11通り端部	
断 面										
b x D	400 x 1,800	400 x 1,800	400 x 1,800	400 x 1,800	400 x 1,800	400 x 1,800	400 x 1,800	400 x 1,800	400 x 1,800	
上端主筋	4 - D22	4 - D22	4 - D19	4 - D22	4/3 - D22	4/3 - D22	4 - D22	4/3 - D19	4 - D19	
下端主筋	4/1 - D22	4/3 - D22	4/2 - D19	4/2 - D22	4 - D22	4/2 - D22	4/2 - D22	4 - D19	4/3 - D19	
STP	□ - D13 @150	□ - D13 @150	□ - D13 @150	□ - D13 @150	□ - D13 @150	□ - D13 @150	□ - D13 @150	□ - D13 @150	□ - D13 @150	
腹 筋	10 - D13	10 - D13	10 - D13	10 - D13	10 - D13	10 - D13	10 - D13	10 - D13	10 - D13	
備 考										

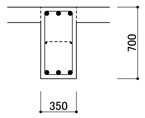
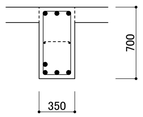
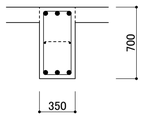
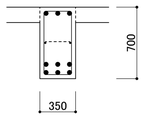
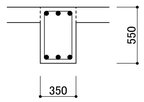
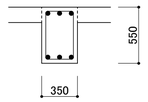
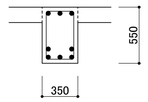
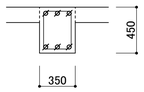
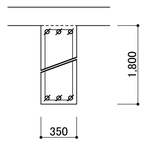
			特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
				東秩父村新庁舎建設工事	1/30(A1)		構造	S-030
				図面名称 基礎、基礎梁断面表	1/60(A3)			

基礎柱型 断面表

符 号	rC1	rC1A	rC2		
断 面					
B x D	730 x 730	730 x 730	540 x 540		
立上り筋	8 − D29	8 − D25	12 − D16		
HOOP	□ − D13 @100	□ − D13 @100	□ − D13 @100		
備 考	側柱、隅柱へ適用	中柱へ適用			

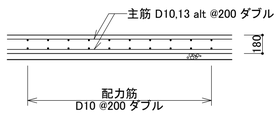
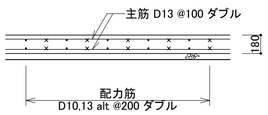
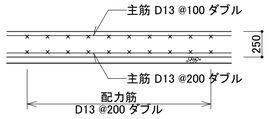
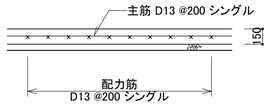
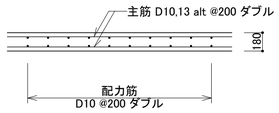
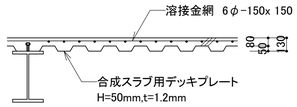
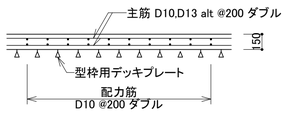
RC小梁 断面表

[特記事項]
・幅止め筋は D10 @1,000 とする。
・FB符号の梁下の地業は、砕石t=60、捨てコンt=50 とする。

符 号	B 1 / FB1		B 1 A		B 2 / FB 2	B 2 A		B 3	FB 11	
位 置	両 端	中 央	両 端	中 央	全断面	両 端	中 央	全断面	全断面	
断 面										
b x D	350 x 700	350 x 700	350 x 700	350 x 700	350 x 550	350 x 550	350 x 550	350 x 450	350 x 1,800	
上端主筋	3 − D19	3 − D19	3 − D19	3 − D19	3 − D19	3 − D19	3 − D19	3 − D16	3 − D16	
下端主筋	3 − D19	3/1 − D19	3 − D19	3/3 − D19	3 − D19	3 − D19	3/2 − D19	3 − D16	3 − D16	
STP	□ − D13 @200	□ − D13 @200	□ − D13 @200	□ − D13 @200	□ − D13 @200	□ − D13 @200	□ − D13 @200	□ − D13 @200	□ − D13 @200	
腹 筋	2 − D10	2 − D10	2 − D10	2 − D10	—	—	—	—	10 − D13	
備 考										

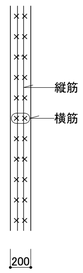
スラブ 断面表

[特記事項]
・FS符号のスラブ下の地業は、砕石t=60 とする。

FS18		FS18A		FS25	
FS15		FS	 ※地業の捨てコンをピット底盤に利用		
S18		DS1	 ※耐火認定（1時間）に適合すること	S15D	

壁 断面表

[特記事項]
・特記なき限り、幅止め筋は D13 @1,000 とする。

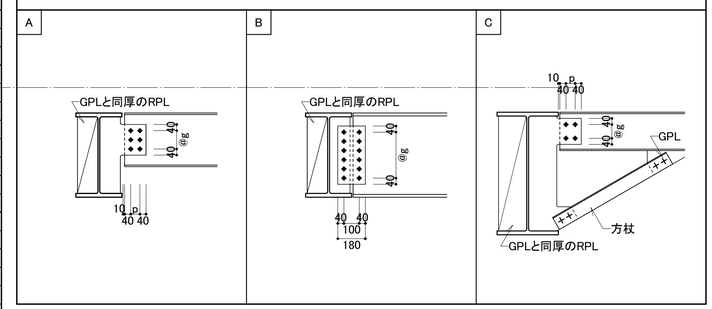
符 号		W20			
断 面					
縦 筋		D13 @200 ダブル			
横 筋		D13 @200 ダブル			
開 口 補強筋	縦	1 − D16			
	横	1 − D16			
	斜め	1 − D16			
備 考					

			特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
				東秩父村新庁舎建設工事	1/30(A1) 1/60(A3)		構造	S-031
				図面名称 小梁、スラブ、壁断面表				

鉄骨部材断面表

符　号	断　面	鋼材材質	ピン接合部						スタッド	方　杖	備　考
			GPL	n	HTB	g	p	タイプ			
SC1	□- 350x 350x 16	BCR295									
SC2	φ216.3x 12.7	STK400									
SC11	φ90	SS400									
SG50	H- 500x 250x 12x 19	SN400B	GPL - 12	5	M20	60	-	A	2-φ19 @300 (H=80)		
SG50A	H- 500x 200x 9x 19	SN400B	GPL - 9	5	M20	60	-	A	1-φ19 @300 (H=80)		
SG50B	H- 500x 300x 12x 25	SN400B	GPL - 12	5	M20	60	-	A	2-φ19 @300 (H=80)		
SG45	H- 450x 250x 9x 16	SN400B	GPL - 9	4	M20	60	-	A			
SG35	H- 350x 175x 7x 11	SN400B	GPL - 9	3	M20	60	-	A	1-φ19 @300 (H=80)		
SG34	H- 340x 250x 9x 14	SN400B	GPL - 9	3	M20	60	-	A			
SG34A			GPL - 22	4	M22	60	-	B			ピン接合部ウェブに 2CPL-6 (L=500)
SG30	H- 300x 150x 6.5x 9	SN400B	GPL - 9	3	M20	60	-	A	1-φ19 @300 (H=80)		
SB50	H- 500x 200x 9x 19	SS400	GPL - 9	5	M20	60	-	A	1-φ19 @300 (H=80)		
SB40	H- 400x 200x 8x 12	SS400	GPL - 9	4	M20	60	-	A	1-φ19 @300 (H=80)		
SB35	H- 350x 175x 7x 11	SS400	GPL - 9	3	M20	60	-	A	1-φ19 @300 (H=80)		
SB34	H- 340x 250x 9x 14	SS400	GPL - 9	3	M20	60	-	A			
SB30	H- 300x 150x 6.5x 9	SS400	GPL - 9	3	M20	60	-	A	1-φ19 @300 (H=80)		
SB25	H- 250x 125x 6x 9	SS400	GPL - 9	2	M20	60	-	A			
HV1	2L- 100x 100x 10	SS400	GPL - 25	3	M20	60	-	A			
HV1A	2L- 100x 100x 13	SS400	GPL - 25	4	M20	60	-	A			
HV2	φ165.2x 6.0	STK400	GPL - 25	3	M22	60	-	A			
HV3	φ190.7x 8.2	STK400	GPL - 25	4	M22	60	-	A			
HV11	2L- 65x 65x 6	SS400	GPL - 22	3	M20	-	-	A			

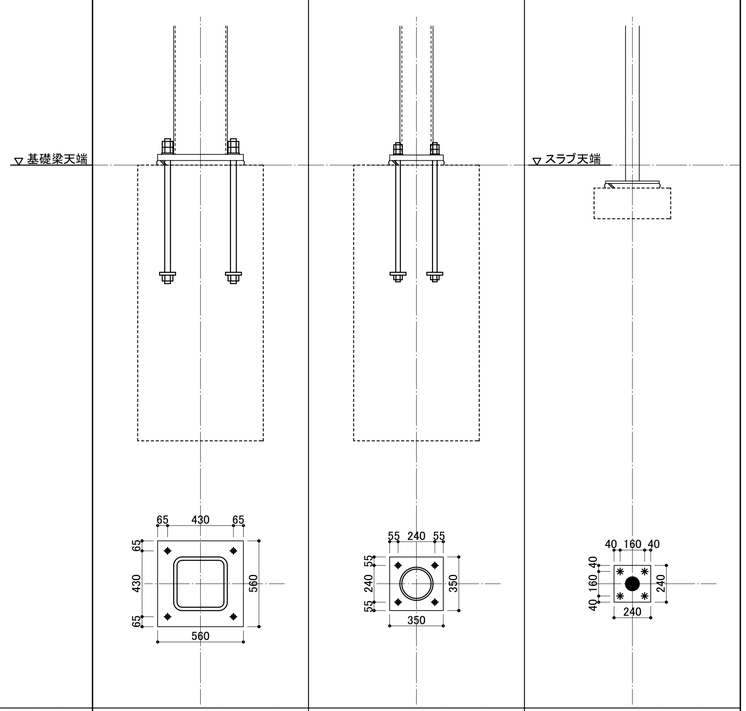
接合部タイプ



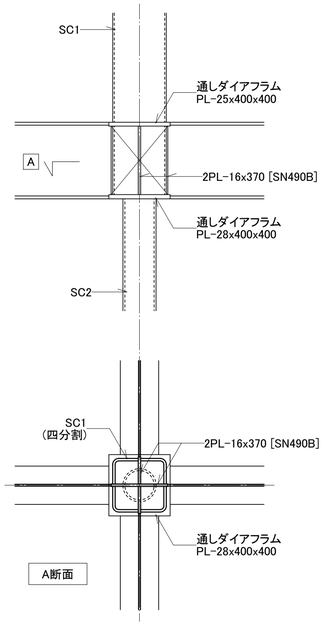
鉄骨柱脚断面表

[特記事項]
・
・

符　号	SC1	SC2	SC11
柱脚詳細	露出柱脚	露出柱脚	露出柱脚
ベースプレート	PL- 40x 560x 560 [TMCP385B]	PL- 36x 350x 350 [SN490B]	PL- 16x 240x 240 [SN400B]
アンカーボルト	8 - D41 [BPD-SD390]	4 - M30 [BPM-SD490]	4 - M16 [SS400]
備　考	既製柱脚:35-4H41 (セレクトベース) ベースモルタル無収縮 t=30	既製柱脚:216-13V2 (ベースパック) ベースモルタル無収縮 t=30	ベースモルタル無収縮 t=30

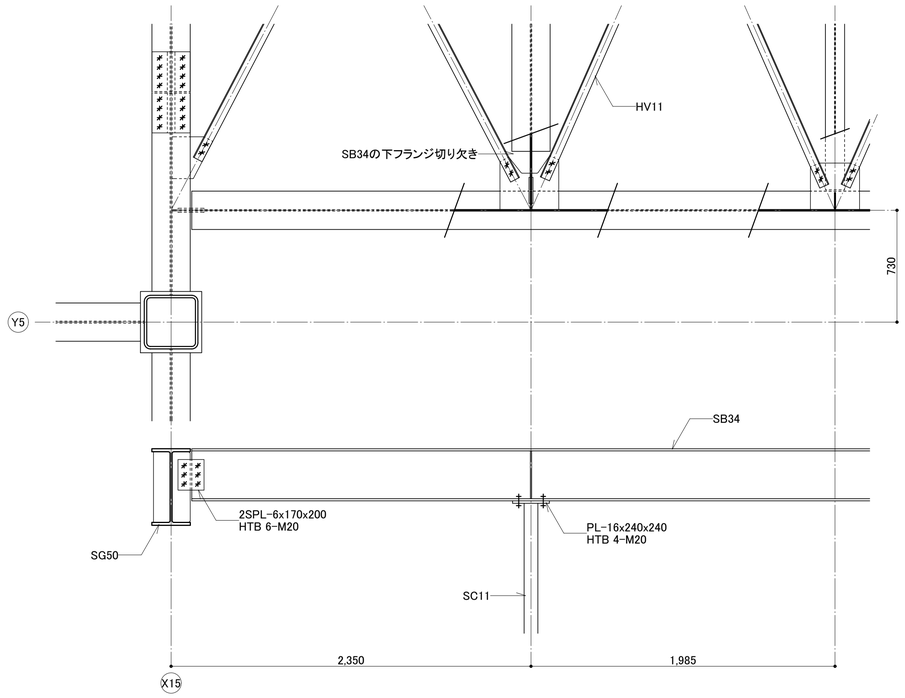


柱梁仕口詳細



SC1⇔SC2切替え箇所の仕口では
SC2側のダイアフラム板厚を1サイズアップ

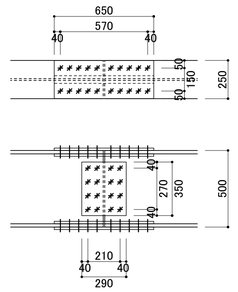
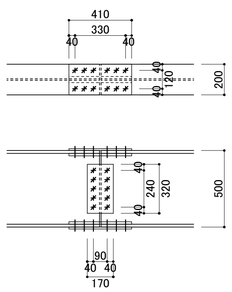
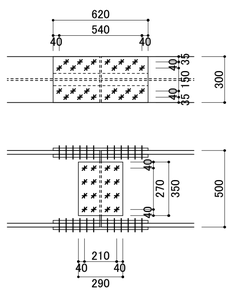
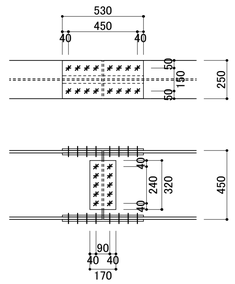
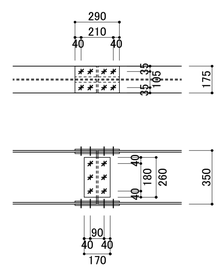
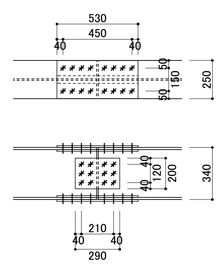
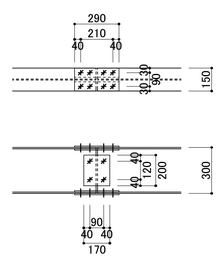
エントランスキャノピー 鉄骨詳細



			特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
				東秩父村新庁舎建設工事	1/20 (A1) 1/40 (A3)		構造	S-032
				図面名称 鉄骨部材断面表、鉄骨柱脚断面表				

鉄骨梁継手表

[特記事項]
・SPLは母材と同等強度の鋼材とし、特記なき高力ﾎﾞﾙﾄは S10T とする。
・

符　号		SG50	SG50A	SG50B	SG45	SG35	SG34	SG30
継手符号		GJ50	GJ50A	GJ50B	GJ45	GJ35	GJ34	GJ30
断　面		H- 500x 250x 12x 19	H- 500x 200x 9x 19	H- 500x 300x 12x 25	H- 450x 250x 9x 16	H- 350x 175x 7x 11	H- 340x 250x 9x 14	H- 300x 150x 6.5x 9
鋼材種別		SN400B	SN400B	SN400B	SN400B	SN400B	SN400B	SN400B
形　状								
フランジ	S.PL	2PL- 16x 250x 650 4SPL- 16x 100x 650	2PL- 12x 200x 410 4SPL- 16x 80x 410	2PL- 16x 300x 620 4SPL- 19x 110x 620	2PL- 12x 250x 530 4SPL- 12x 100x 530	2PL- 9x 175x 290 4SPL- 9x 70x 290	2PL- 12x 250x 530 4SPL- 12x 100x 530	2PL- 9x 150x 290 4SPL- 9x 60x 290
	HTB	40- M20	24- M20	48- M20	32- M20	16- M20	32- M20	16- M20
ウェブ	S.PL	2PL- 12x 350x 290	2PL- 9x 320x 170	2PL- 12x 350x 290	2PL- 9x 320x 170	2PL- 6x 260x 170	2PL- 9x 200x 290	2PL- 6x 200x 170
	HTB	16- M20	10- M20	16- M20	10- M20	6- M20	12- M20	4- M20
備　考								

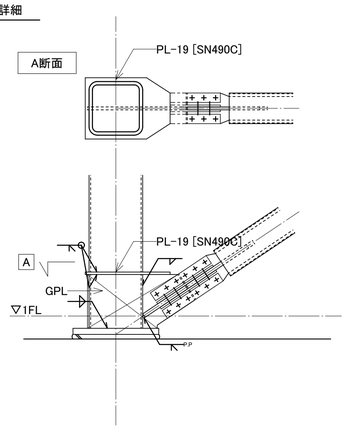
座屈拘束ブレース断面表

[特記事項]
・下表に示す芯材断面、記載の値以上の許容耐力を有し、認定もしくは評価を取得したものとする。
・ブレースの部材ランクは BA ランクとする。
・芯材、補剛材は各メーカーの仕様の断面としてもよい。
・ブレース端部の高力ボルトは、床コンクリートの打設・硬化後に本締めを行う。

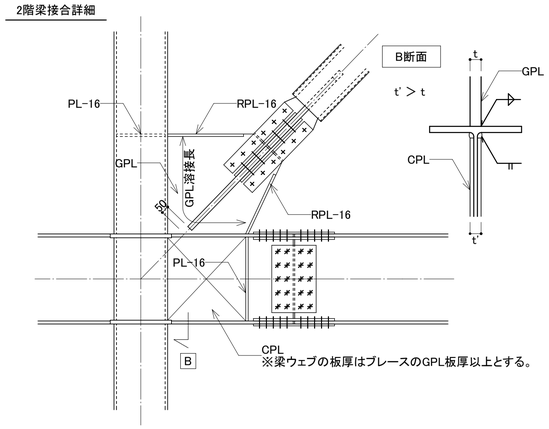
符　号		BR1	BR1a	BR2	BR2a	BR2b	BR2G	
芯　材	断　面	PL- 19 x 162	PL- 19 x 162	PL- 19 x 131 [十字型]	PL- 16 x 152 [十字型]	PL- 22 x 116 [十字型]	PL- 22 x 116 [十字型]	
	鋼材種別	SN490B	SN490B	SN400B	SN400B	SN400B	SN400B	
補剛材(例)	部材断面	φ- 216.3x 4.5	φ- 216.3x 7.0	φ- 216.3x 5.8	φ- 267.4x 9.3	□- 200x 12	□- 200x 12	
	材　質	STK400	STK400	STK400	STK400	BCR295	BCR295	
	モルタル	Fc21以上	Fc21以上	Fc21以上	Fc21以上	Fc21以上	Fc21以上	
接合部(例)	SPL	8SPL- 12x 60x 590 [SM490A]	8SPL- 12x 60x 590 [SM490A]	8SPL- 12x 60x 590 [SM490A]	8SPL- 12x 60x 530 [SM490A]	8SPL- 12x 60x 590 [SM490A]	8SPL- 12x 60x 650 [SM490A]	
	HTB	HTB 32- M22	HTB 32- M22	HTB 32- M22	HTB 32- M22	HTB 32- M22	HTB 32- M22 [F8T]	
短期許容軸力		1,000 (kN)	1,000 (kN)	1,085 (kN)	1,083 (kN)	1,086 (kN)	1,086 (kN)	
製品番号		UB490-100-1 (日鉄エンジニアリング アンボンドブレース)	UB490-100 (日鉄エンジニアリング アンボンドブレース)	UB400-108-1B (日鉄エンジニアリング アンボンドブレース)	UB400-108 (日鉄エンジニアリング アンボンドブレース)	UB400-108 (日鉄エンジニアリング アンボンドブレース)	UB400G-108 (日鉄エンジニアリング アンボンドブレース)	
備　考		GPL溶接長 750mm 以上	GPL溶接長 750mm 以上	GPL溶接長 750mm 以上	GPL溶接長 750mm 以上	GPL溶接長 750mm 以上	GPL溶接長 750mm 以上 製品は溶融亜鉛メッキ処理とする。	

座屈拘束ブレース接合部詳細

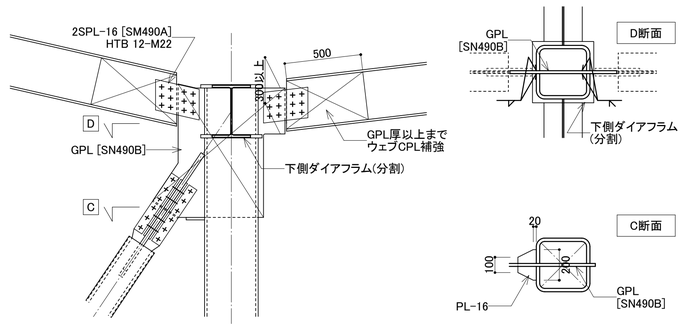
柱脚詳細



2階梁接合詳細

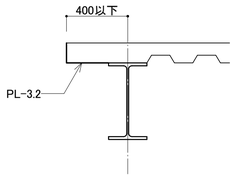
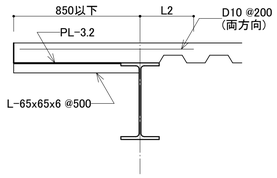
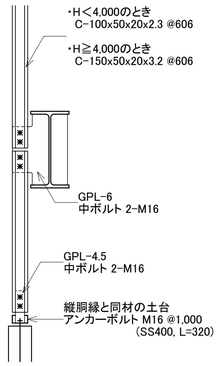
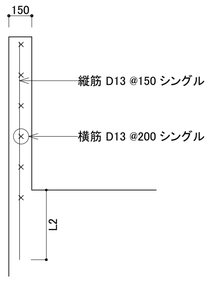
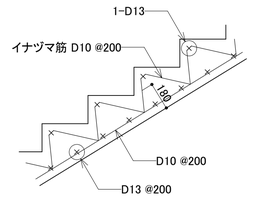
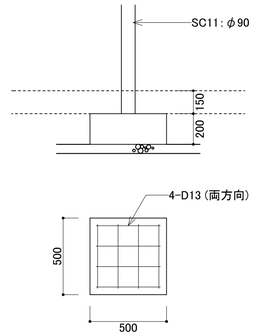
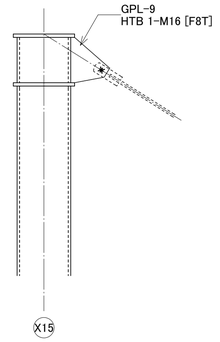


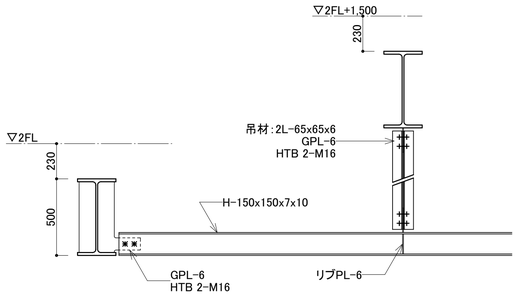
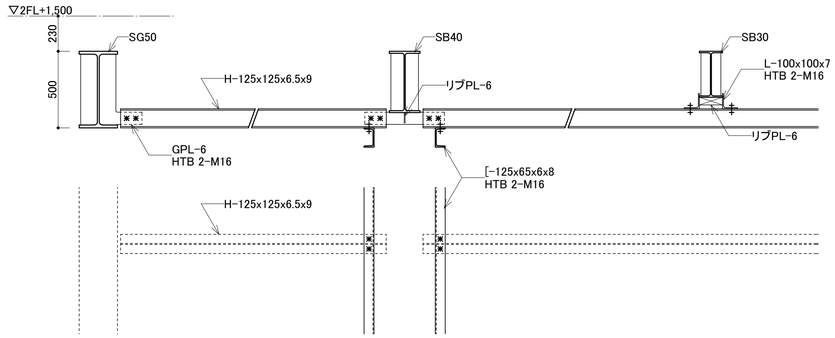
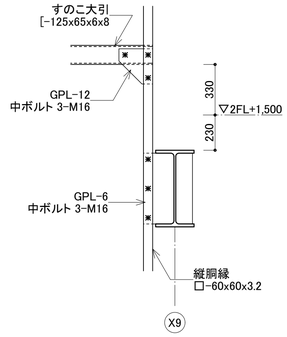
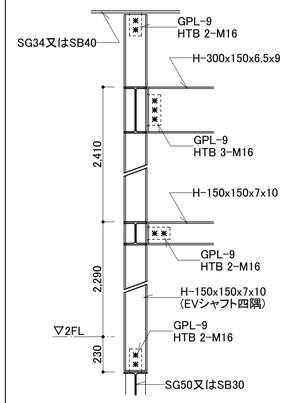
屋根梁接合詳細

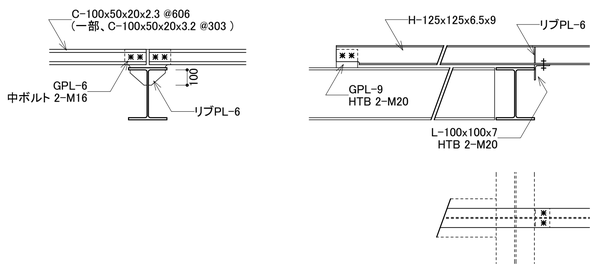


			特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
				東秩父村新庁舎建設工事	1/20(A1) 1/40(A3)		構造	S-033
				図面名称 鉄骨梁継手表、座屈拘束ブレース断面表				

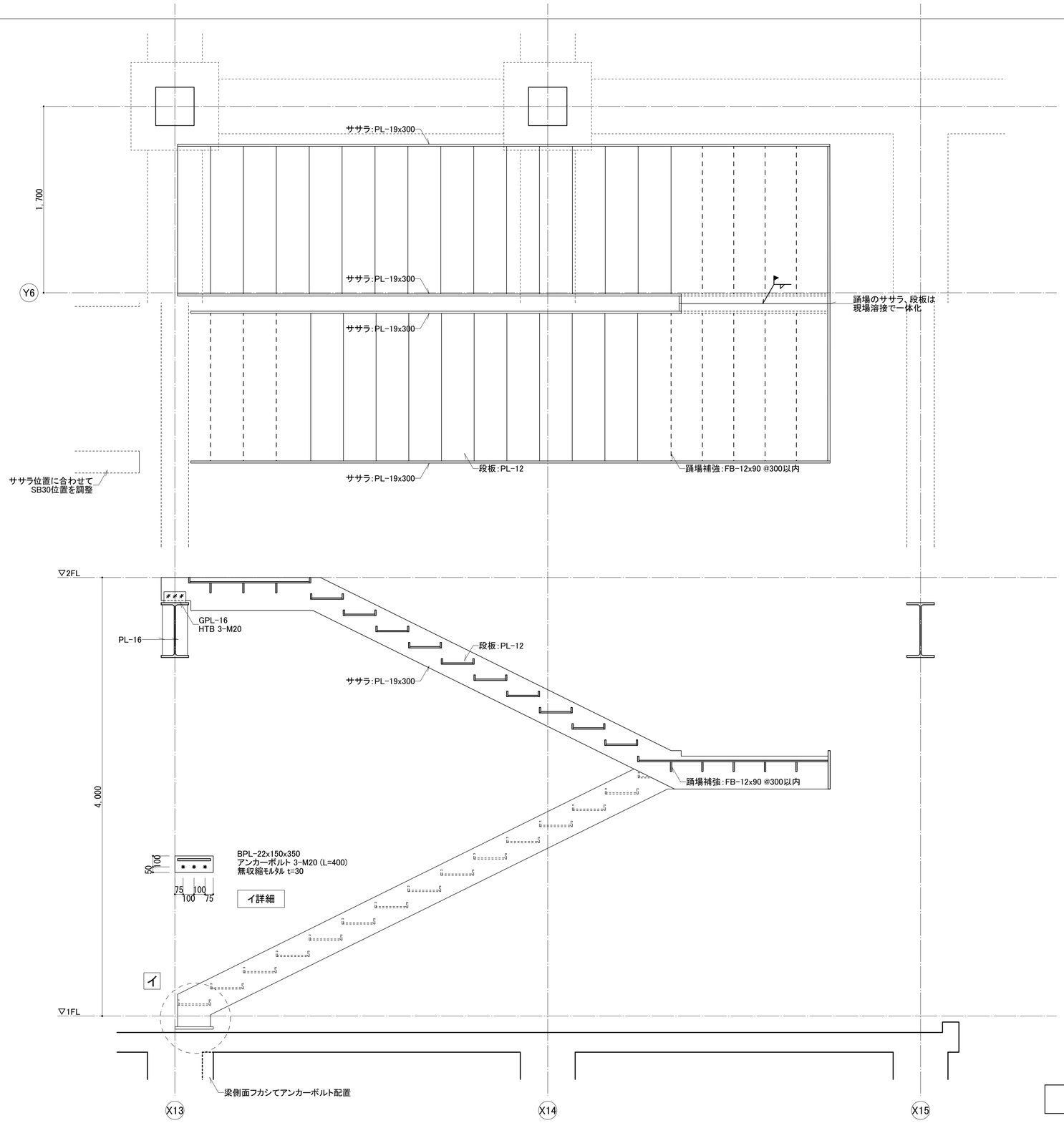
その他部材断面表

位置	2F デッキスラブ端部	2F スラブ跳ね出し	外装材 縦胴縁	1F 外装材脚部 RC立上り	通用口階段	キャノピー支柱基礎	緊急用キャノピー吊材下地
形状							
備考		オープンテーブルや屋内ひろば上部に適用					Y5, Y6+1,700の柱に適用

位置	可動間仕切り下地鉄骨	舞台機構すのこ鉄骨	客席照明バトン鉄骨	EV鉄骨
形状				
備考	下地鉄骨下端には受けネコ L-75x75x6 @1,500 (収納部 @500)		すのこ大引き箇所以外では、縦胴縁 C-60x30x10x2.3 @500	

位置	屋根母屋					
形状						
備考						

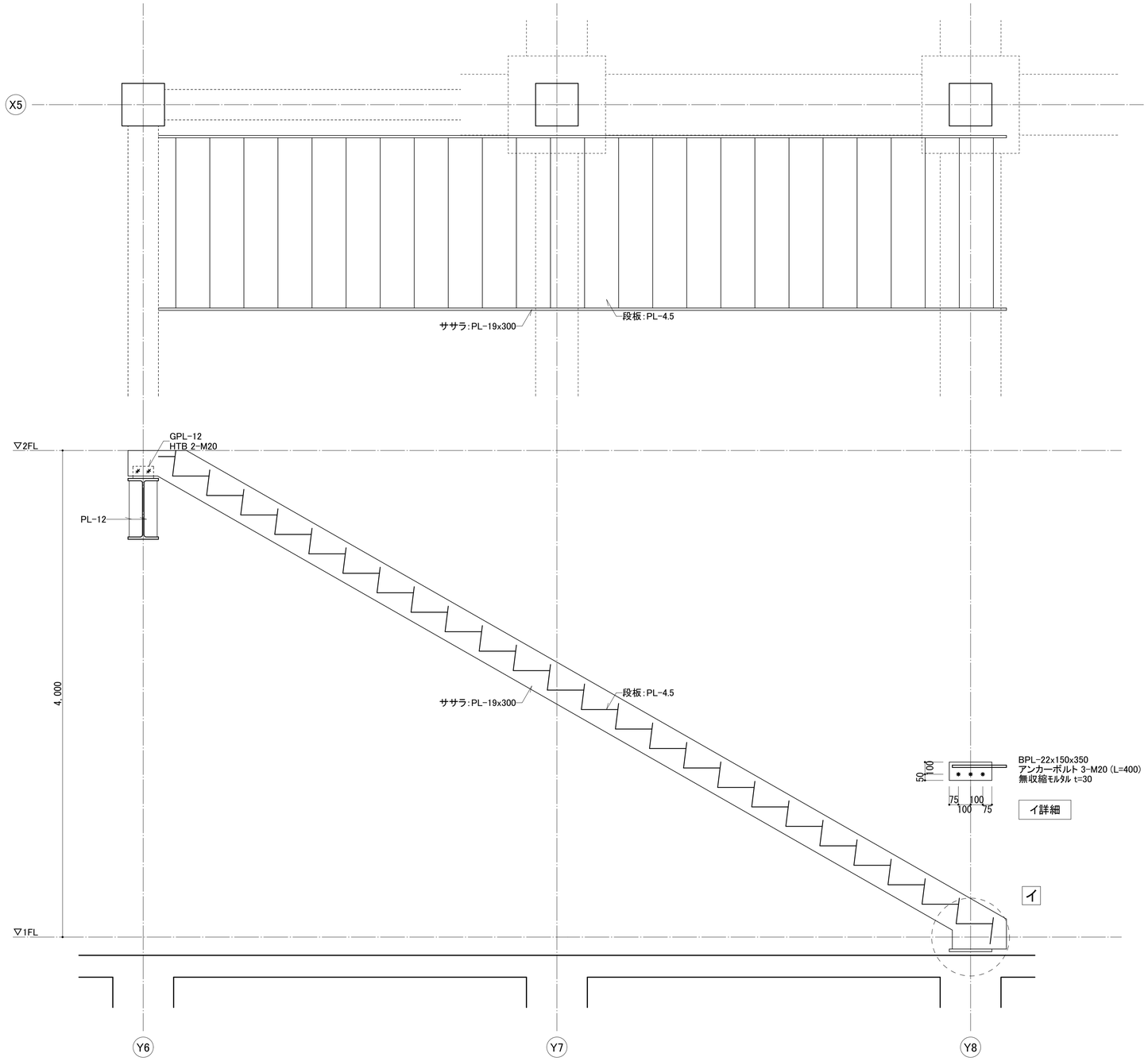
特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
	東秩父村新庁舎建設工事	1/20(A1) 1/40(A3)		構造	S-034
	図面名称 その他部材断面表				



階段1 詳細図

[特記事項]
・特記なき限り鋼材は SS400 、HTBは S10T とする。
・

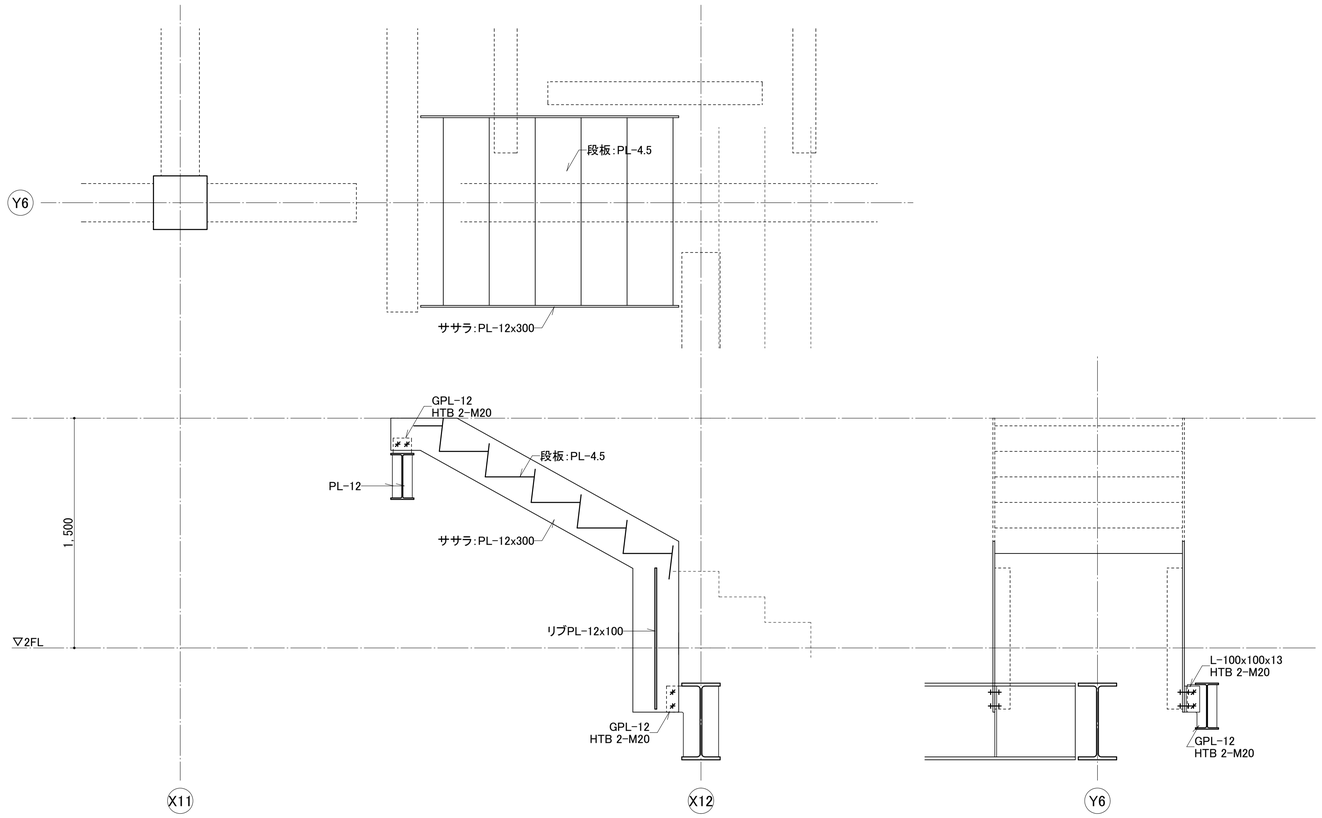
			特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
				東秩父村新庁舎建設工事	1/20(A1)		構造	S-035
				図面名称 階段詳細図 (1)	1/40(A3)			



階段2 詳細図

[特記事項]
・特記なき限り鋼材は SS400 、HTBは S10T とする。
・

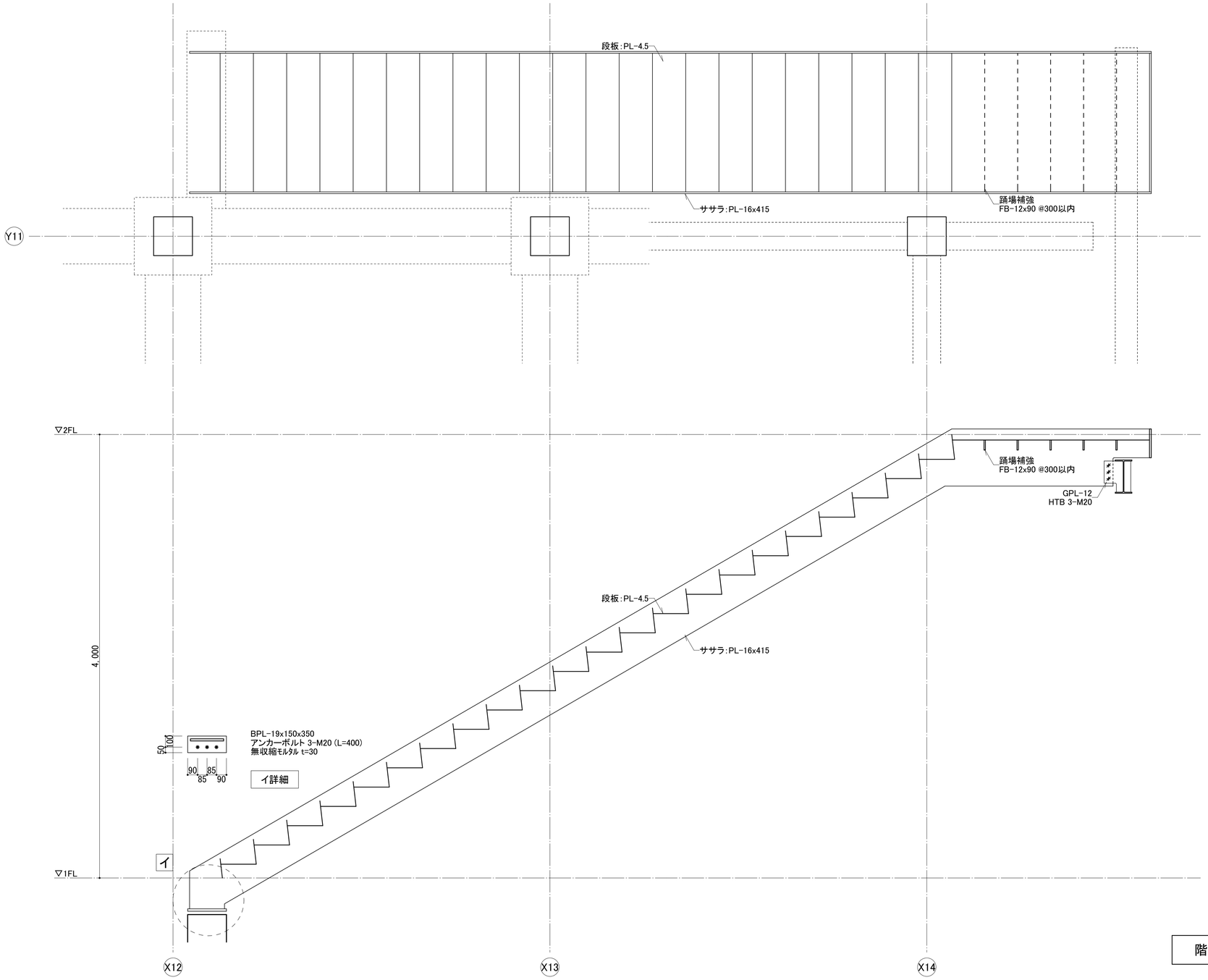
特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
	東秩父村新庁舎建設工事	1/20(A1)		構造	S-036
	図面名称 階段詳細図 (2)	1/40(A3)			



階段3 詳細図

[特記事項]
・特記なき限り鋼材は SS400 、HTBは S10T とする。
・

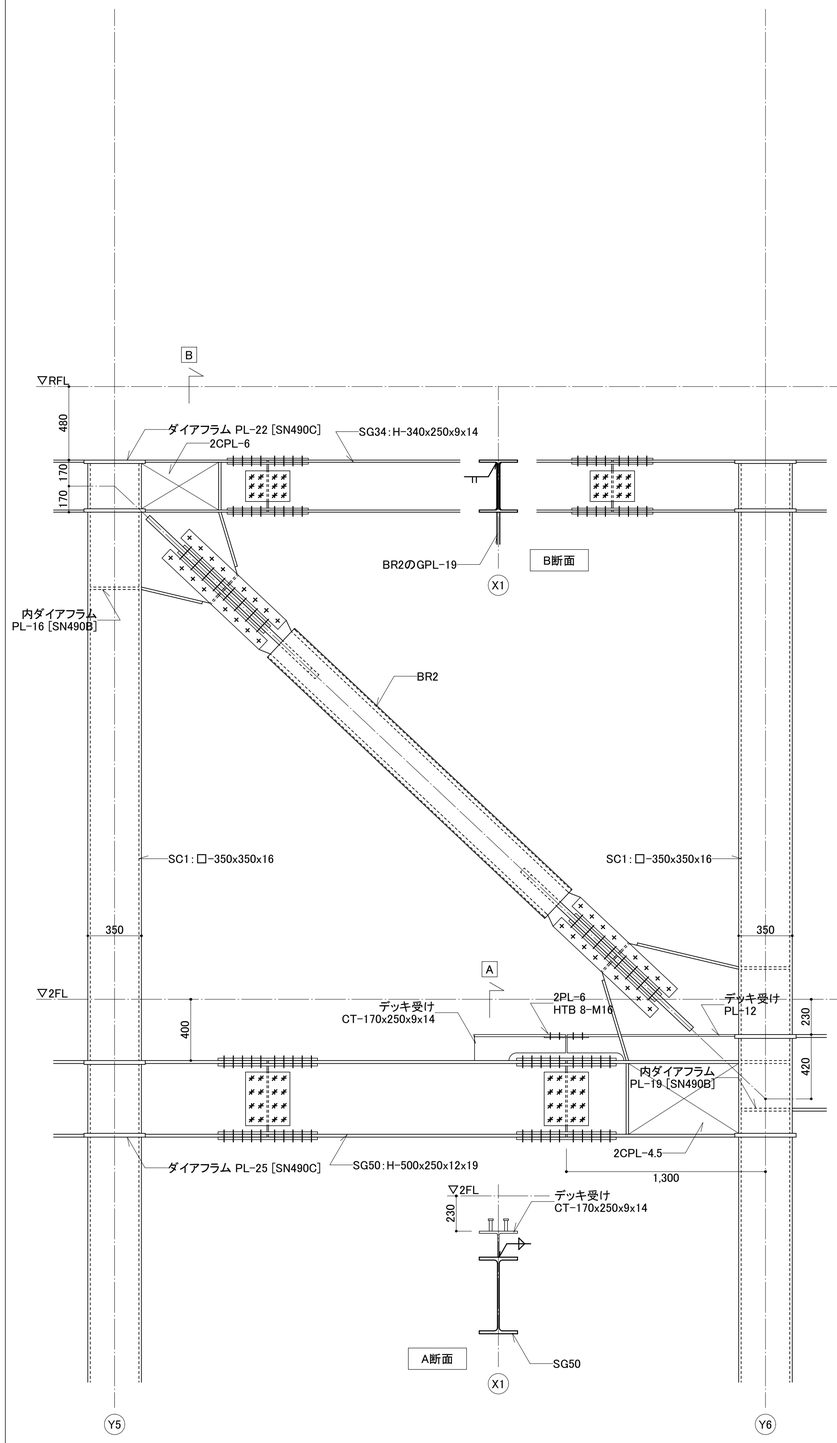
特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
	東秩父村新庁舎建設工事	1/20(A1)		構造	S-037
	図面名称 階段詳細図 (3)	1/40(A3)			



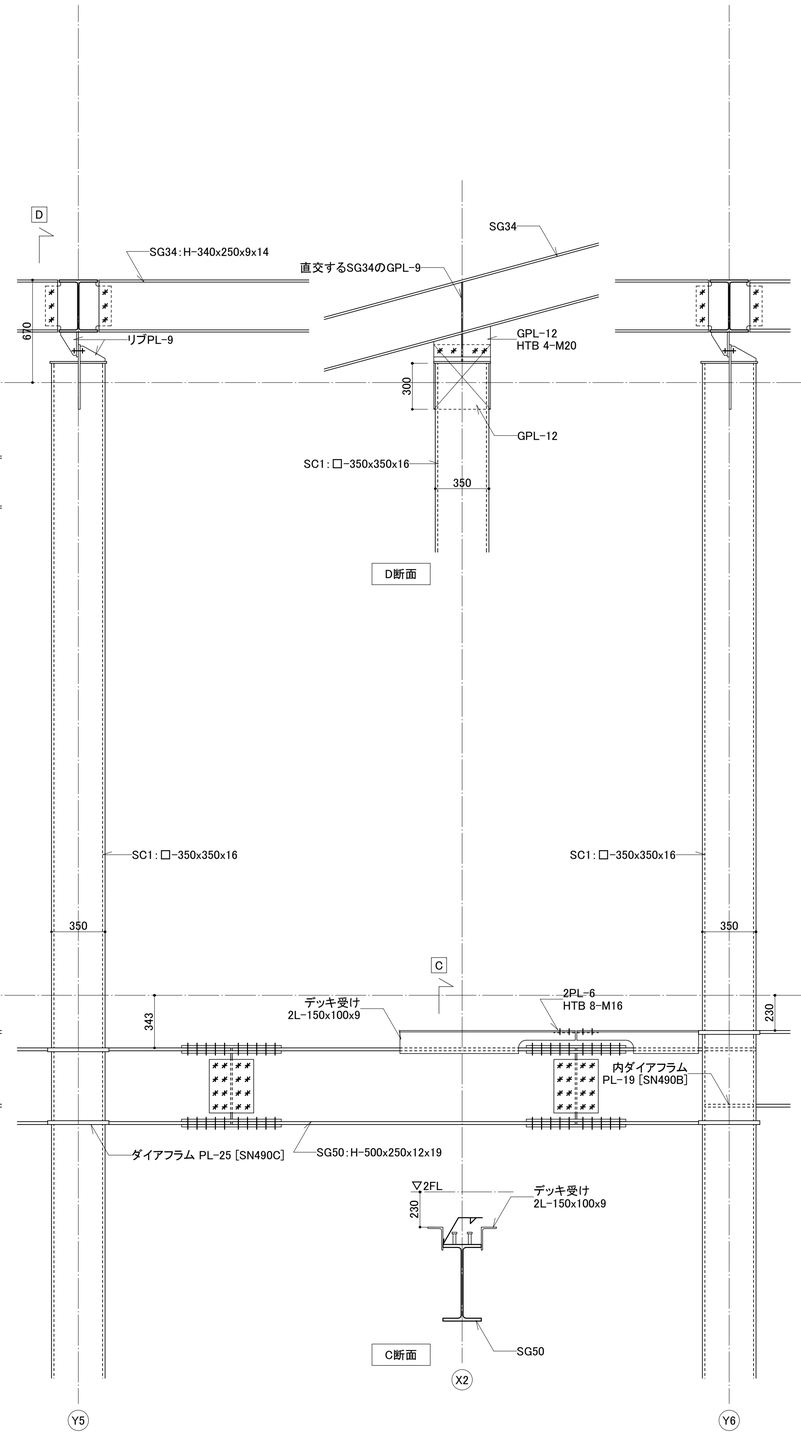
階段5 詳細図

[特記事項]
・特記なき限り鋼材は SS400 、HTBは F8T とする。
・鋼材は全て溶融亜鉛メッキ処理とする。

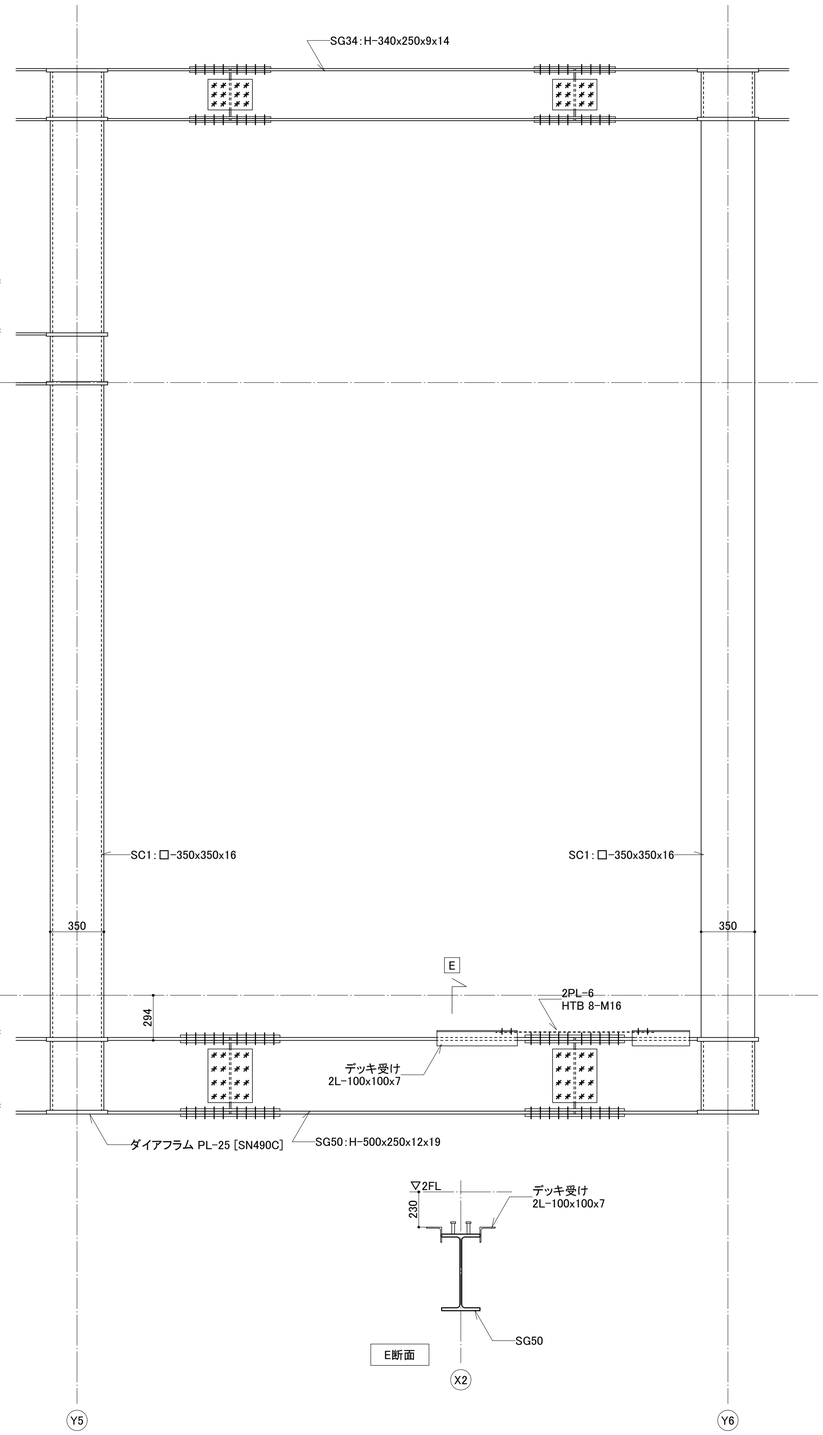
特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
	東秋父村新庁舎建設工事	1/20(A1)		構造	S-038
	図面名称 階段詳細図 (4)	1/40(A3)			



X1通り軸組詳細図

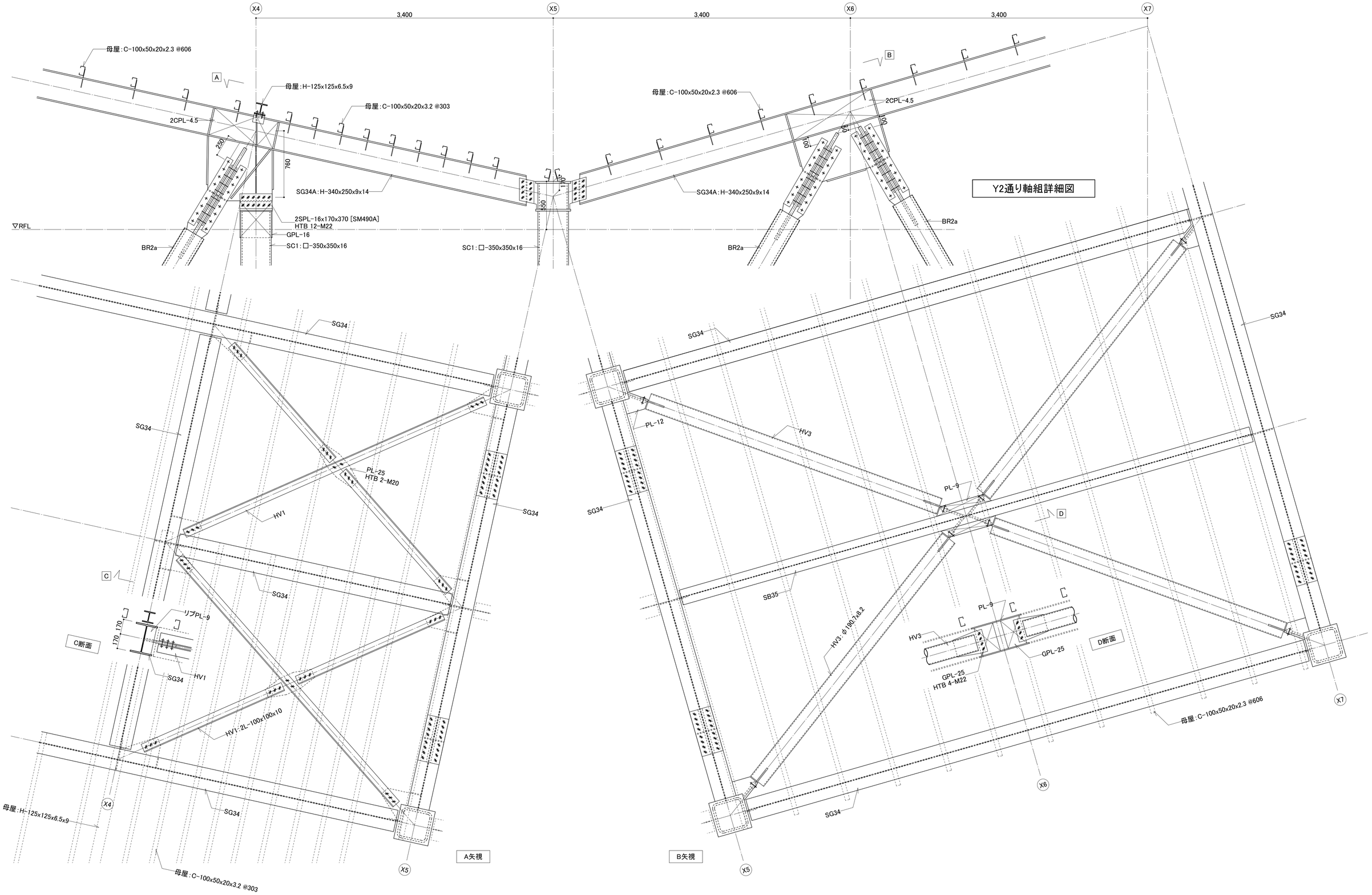


X2通り軸組詳細図

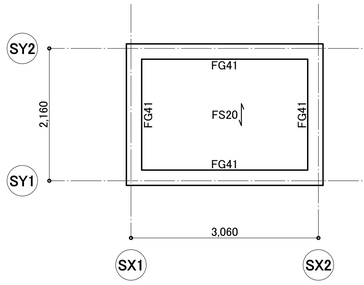


X3通り軸組詳細図

特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
	東秩父村新庁舎建設工事	1/20(A1)		構造	S-039
	図面名称 鉄骨詳細図 (1)	1/40(A3)			

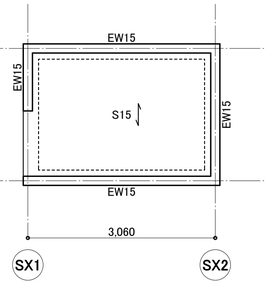


特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
	東秩父村新庁舎建設工事	1/20(A1)		構造	S-040
	図面名称 鉄骨詳細図 (2)	1/40(A3)			



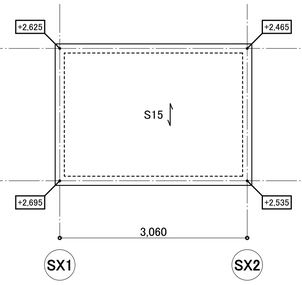
基礎伏図

・FL = GL +150
・スラブ天端レベルは FL −1,550 とする。



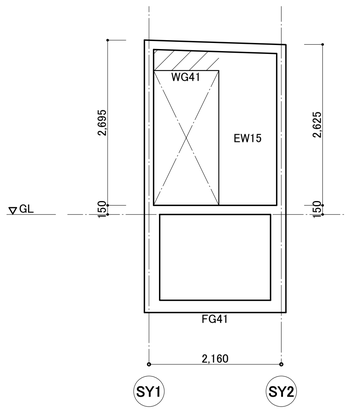
1階伏図

・FL = GL +150
・スラブ天端レベルは FL ±0 とする。

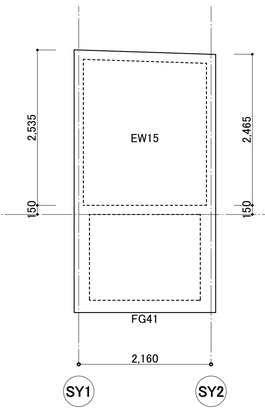


屋根伏図

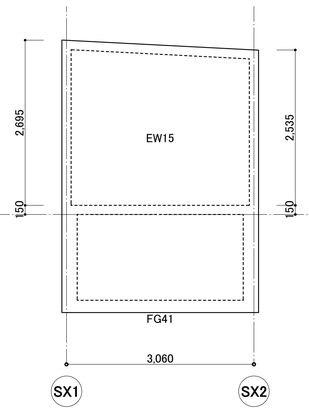
・ +XXX はFLからのスラブ天端レベルを示す。
・



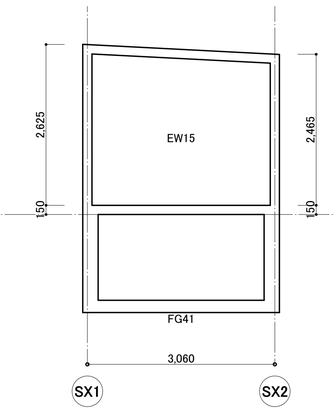
SX1通り軸組図



SX2通り軸組図



SY1通り軸組図



SY2通り軸組図

部材リスト

部 位	符 号	断 面	備 考
壁	EW15	t=150	縦筋、横筋とも D13 @150 シングル
梁	FG41	250x1,750	主筋:3-D16(全断面) STP:□-D13 @200 腹筋:8-D10
	WG41	150x450	主筋:2-D13(全断面) STP:1-D10 @150
スラブ	FS20	t=200	主筋、配力筋とも D13 @200 ダブル
	S15	t=150	主筋、配力筋とも D13 @150 ダブル

※コンクリートの設計基準強度は全て Fc24 (S18) とする。

特記	工事名称	図面尺度	日付	区分	図面番号
	東秩父村新庁舎建設工事	1/50(A1) 1/100(A3)		構造	S-060
	図面名称 屋外倉庫01　伏図、軸組図、断面表				